

乙卯年

平成29年12月



農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋 日 山

日本橋 日 山 本 店 中央区日本橋人形町2-5-1
TEL 03 (3666) 5257

すき焼き割烹 日 山 中央区日本橋人形町2-5-1
(予約が必要です) TEL 03 (3666) 2901

日 山 亀 戸 店 江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1
TEL 03 (3638) 1129

日 山 池 袋 店 豊島区南池袋1-29-1 池袋ショッピングパーク内 B1F
TEL 03 (3986) 0290

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

益人益社 米沢有為会々誌

復刊第67号



国宝上杉本洛中洛外図屏風 右隻2扇の風流踊の場面

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



表紙は、右隻2扇の風流踊の場面です。

〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口10万人と言われているので約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7年国宝となり、上杉家文書が平成13年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、室町時代から始まったとされる念仏踊りであろう。鉦をリズムカルに叩き、盆踊りとして庶民たちの娯楽と信仰を満足させているのだろう。笠には花や鳥をあしらって躍動的に踊っている様子がうかがえる。真ん中の女性が和太鼓を打ってリードしているのだろうか。烏帽子を付けた男性もいる。

目次

ご挨拶	名誉会長 上杉 邦憲	4
創立百三十周年を迎える準備期に際して	会 長 大滝 則忠	6
創立百三十周年活動ビジョン(案)		8
本部活動報告		11
第四(通算一三〇)回定時総会報告		11
文化講演会 With 優 白石祥和氏		16
本部各部の主な活動報告		21
私の志		31
支部だより		33
東京支部		33
米沢支部		41
仙台支部		45
北海道支部		47
興譲館寮だより		47
東京興譲館		50
仙台興譲館		52
米沢有為会だより号外―育英事業の学生募集―		54
我妻榮記念館だより		56
米沢有為会文化大学		56
第二十回 今後の日本の有人宇宙開発について 上杉邦憲氏		58
第二十一回 鎌倉の緑と景観を守るNPO 渡辺光子氏		61
第二十二回 今も生きる上杉鷹山公 中川 勝氏		64
米沢有為会野外文化大学		64
第一回 上杉名誉会長と行くJAXA相模原見学ツアー		65
第二回 NEC米沢、市立米沢図書館見学		65

置賜市町だより		69
米沢市		69
長井市		74
南陽市		79
高島町		84
川西町		87
小国町		91
白鷹町		95
飯豊町		98
トビックス		105
1 東北中央自動車道が開通		105
2 「我妻榮展」と記念講演会		105
3 挑戦する山形大学		105
4 米沢牛の地理的表示認定		105
5 伊達政宗生誕四五十年		105
6 舘山城跡が国史跡に指定		105
7 置賜地区高校美術展最優秀作品		105
8 大滝則忠会長、三市五町訪問		105
9 種村信次氏「米沢市功績者」		105
10 学生寮の出身者から高額の寄付		105
会員の広場		105
俳誌「漆の実」より		105
日展入選作品紹介		105
郷土の本紹介		105
米沢有為会ホームページ活用のお薦め		105
法人賛助会員名簿		105
公益社団法人米沢有為会役員名簿		105
公益社団法人米沢有為会定款・細則		105
本部・各支部事務所等所在地		105
後 記		105
置賜地区自治体所在地		105
広告提供者名簿		105
広 告		105



ご挨拶

名誉会長 上 杉 邦 憲

『米沢有為会々誌』第六十七号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

近年地球温暖化の影響でしょうか、ゲリラ豪雨や大型台風など異常な天候が続いておりませんが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

今年七月の九州北部豪雨で大きな被害を受けた朝倉市は、旧秋月黒田藩領であり、鷹山公所縁の地でもあることから、米沢市からも支援の手が差し伸べられました。特に被害の大きかった杷木地区では、未だ復興に苦労されていますが、先日次のようなニュースに接しました。「赤谷川沿いの朝倉市杷木星丸では、地元の地域コミュニティ協議会が、豪雨の被害を免れた畑にそばの種をまき、花が開いた。伊藤睦人会長(72)は『住民は、地域がいったいどうなるのか、という思いで毎日生活している。だが、私たちは助かった命。そばの花が一つの明るい兆しになれば』と話す。十一月下旬に実を収穫し、十二月

にはそば打ち体験のイベントを開きたいと考えている。（岡田将平）朝日新聞十月四日」

また、十月二十一日には、秋月城に繋がる目抜き通りの入り口に、新たな朝倉市秋月博物館がオープンしました。この博物館は、秋月藩関係資料や藩主黒田家歴代の遺品、古文書、書簡、武具等を展示するもので、黒田家御当主黒田長美氏、宮崎高鍋秋月家の秋月種高氏とともに私も開館記念式典に参列して参りました。七月豪雨の後、博物館開館を延期すべきでは、という意見もあったとのことですが、「こういう時だからこそ明るい話題を地域から発信することで復興の一助としたい」と決断された森田俊介朝倉市長の挨拶が印象的でした。災害や苦難に遭っても挫けないこの日本人の特質は、鷹山公の火種理論にも繋がるものではないでしょうか。

さて、今年の米沢有為会は、前国立国会図書館長の大滝則忠様を第十五代会長に迎え、平山英三副会長はじめ新たな陣容の理事会のもと、これまでにも増して活発な活動が行われることと存じます。理事・役員の皆様には今後もご苦勞・ご努力をお願いすることになります。何卒宜しくお願い申し上げますとともに、会員皆様の変わらぬ篤いご協力に深く感謝申し上げます。

米沢有為会の更なる発展と会員の皆様のご健勝を祈念してご挨拶いたします。

創立百三十周年を迎える準備期に際して



米沢有為会会長 大 滝 則 忠

この『米沢有為会々誌』は、戦後の本会の復興期に発刊され、今号で復刊第六十七号を重ねていることは、ご同慶の至りです。戦前は明治創刊の『米沢有為会雑誌』がほぼ月刊で、本会の創立以来の動きを記録して詳細に伝えていました。戦後は年刊ですが、本会の活動の年間記録を会員間で共有すると同時に、社会に広報する媒体として、重要な役割を担ってきました。今後ともますます進展するデジタル情報時代では、ホームページ上での発信が重要になりますが、一方、それとは棲み分ける『会誌』の役割の重要性は変わりません。引き続き、ご愛読のほどをお願いいたします。

今号の発行は、例年よりも遅くなり、皆様のお手元に歳末になってお届けすることになりました。この間、理事会において、巻頭に掲載の「創立百三十周年活動ビジョン」を検討してきました。貴重な『会誌』上で、皆様にご覧いただき、広くご意見を寄せていただきたいと考えたところです。皆様のご意見も反映して仕上げ、会員間で本

会の活動の方向性を共有しながら、今後の歩みを進めたいと考えています。どうぞ、忌憚のないご意見をお寄せいただくよう、お願いいたします。

ご承知のとおり、本会は、来る平成三十一（二〇一九）年に創立百三十周年の節目を迎えます。私は、本年六月に第十五代会長を拝命して、新体制の理事会で、現下の山積する課題を着実に解決できるよう相談を重ねています。あたかも十年に一度の大型募金活動を通じて、日頃できない課題解決に取り組む絶好の時期にもあり、短中長期の方向性を可能な限り見極めて会員間で共有しながら、進む必要があると思う次第です。

私は、昭和三十九（一九六四）年四月に大学に入学し、四年間を東京興讓館寮にお世話になって以来、会員同士が世代を超えて闊達に交流して切磋琢磨する、本会の良き伝統に育まれつつ過ごす幸運に浴しています。専らボランティアで成り立つ団体としての活動の難しさは多々ありますが、皆様のご支援をいただき、非力ながらも微力を尽くすばかりです。これまで身近に、無私の奉仕の精神で会の発展に尽力される諸先輩の背中から、多くのことを学ばせていただきました。誠に有り難いことです。続く世代として、より多くの会員に積極的に活動に参画いただけるように努めたいと思います。

老壮青男女の交流が醸す育英の志の輪が一層広がるよう強く念願しておりますので、よろしくお願い申し上げます。どうぞ、良き新年をお迎えください。

グローバル社会で躍動する 置賜の未来への貢献

公益社団法人 米沢有為会 創立百三十周年活動ビジョン（案）

活動の目標

- 未来をになう置賜若人の夢を
育英活動で支援します
- 置賜の教育・文化・産業等の
振興に貢献します

活動五か年計画 二〇一八～二〇二二

○育英事業

- ・国の内外に雄飛する有為な人材の育成と同時に、特に郷土をになう有為な人材の育成に努めます
- ・男女共同参画社会の実現に向け、女子学生の修学環境を整備します

◇学生寮◇

学生寮（東京・仙台の興譲館寮）の施設整備を進め、勉学環境の向上を図ります

◇奨学金◇

新たに給付型（返済減免も含む）を加え、従来の貸与型と共に充実を図ります

○地域振興事業

・自治体や地域の諸活動と連携・協働して、活力ある地域づくりに貢献します

◇表彰◇

教育・文化・産業等の分野で顕著な業績ある個人・団体・企業等の表彰、小・中・高校生のスポーツ・文化活動等で活躍した生徒の表彰、高等学校卒業生の表彰を通じて、地域社会の活性化に貢献します

◇若人交流◇

若人交流の場を設け、意見発表や討論等、地域社会の全体で共に置賜の未来を探る機会を提供します

◇文化活動◇

文化講演会や文化大学等の活動を通じて、文化振興に貢献します。地域社会における文化諸活動との連携や協働を進めます

◆我妻榮記念館◆

民法学者・我妻榮先生の生家を記念館として維持し、大先達の偉業を伝えます

地域振興に資する教育・文化諸活動の拠点として、記念館を活かします

創立百三十周年記念事業・募金活動

平成三十一年に迎える創立百三十周年の記念事業・募金活動を通じて、この活動ビジョンの実現を目指します
(平成三十年秋に内容を公表予定)

○ 活動基盤の充実

～会員の交流と切磋琢磨を基盤に～

□会員

- ・ 会員の増強（女性会員増を含む）
- ・ 同郷会・同窓会との連携
- ・ 学生寮・奨学生出身会員増

□財務基盤

- ・ 財務基盤の強化
- ・ 寄付の促進（税優遇措置の活用等）

□支部活動

- ・ 会の活動の基本単位の強化
- ・ 会員交流の場としての活性化
- ・ 世代を超えた交流の場づくり

□会員交流

- ・ ホームページ上の交流増
- ・ 趣味を通じ交流の多様化

□広報発信

- ・ ホームページの刷新拡充
- ・ 広報活動の強化

□事務局

- ・ 本部事務局体制の整備

活動五か年計画における重点項目

- 学生寮の勉学環境の向上
- 奨学金制度の充実、特に給付型の創設
- 若人交流と置賜定着の推進
- 女子の社会進出への寄与
- 地域振興への貢献
- 文化活動の強化
- 我妻榮記念館を文化活動の拠点に
- 自治体・地域関係団体との連携強化
- 創立百三十周年記念事業・募金活動
- 会員の増強と交流の活性化
- 財務基盤の強化・寄付の促進
- ホームページによる発信・交流の強化
- 事務局体制の整備

「創立百三十周年活動ビジョン（案）」

Ⅱ 会員からの意見を募集Ⅱ

本会は、明治二十二（一八八九）年に創立されましたが、平成三十一（二〇一九）年には創立百三十周年の節目を迎えます。この間、本会は、郷土置賜若人のための学生寮興譲館及び奨学金制度の二本柱の育英活動を中心に、郷土の振興に資する教育・文化等の活動を継続的に実施し、一貫して貴重な社会貢献を果たしてきました。

このような社会貢献に一層効果的に取り組むためには、時々のさまざまな社会環境の変化に対応していく必要があります。そこで理事会は、創立百三十周年の節目に際し、短中長期の方向性を可能な限り見通しながら、この活動ビジョン案を策定し公表して、会員の皆様からのご意見も反映して完成させ、本会の旗印として広く会員間で共有し、今後の活動を展開したいと考えます。ご意見をお寄せください。

（公益社団法人 米沢有為会理事会）

ご意見の締切 平成三十年 一月末日

宛先 米沢有為会の本部または支部の事務局宛

メール宛先 jimukyoku@yonezawa-yuikai.org

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、第四（通算一三〇）回定時総会報告

公益社団法人米沢有為会の第四回（通算一三〇回）定時総会は、平成二十九年六月二十四日（土）十四時～十五時三十分、伝国の杜大会議室にて開催されました。議案審議に先立ち、名誉会長上杉邦憲様よりご挨拶をいただき、また、米沢市長中川勝様より市政報告を兼ねたご挨拶をいただきました。その後、定款規定により須貝英雄会長が議長となつて開会を宣言し、直ちに議事に入りました。

第一号議案 平成二十八年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記載の「平成二十八年度事業・業務報告」に沿つて平山英三総務部長より報告及び説明がありました。

第二号議案 平成二十八年度決算及び監査報告（決議案）

件）

議案書記載の「平成二十八年度決算報告」に沿つて鈴木信之財務担当参事より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、伊藤秀太郎監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 平成二十九年度事業・業務計画（報告案件）

議案書記載の「平成二十九年度事業・業務計画」について平山英三総務部長より説明がありました。

第四号議案 平成二十九年度正味財産増減予算（報告案件）

議案書記載の「平成二十九年度正味財産増減予算」に沿つて鈴木信之財務担当参事より説明がありました。

第五号議案 理事及び監事任期満了による改選（決議案件）

定款規定により本定時総会終了と同時に理事、監事は任期満了になるので、役員選考委員会推薦の次の候補者が満場一致で改選されました。

(一) 理事

重任 伊藤 和夫 加藤 国雄 甲 國信

川合 勝雄 鈴木 吉助 鈴木 幸一

種村 信次 平山 英三 宮坂 孝夫

新任 青木 恵子 大滝 則忠 五雲寺 卓

佐藤 憲一 手塚 宮雄

退任 須貝 英雄 梅津 幸保 太田ひろみ

倉田 和子 川井 陽一

(二) 監事

重任 伊藤秀太郎 菅野 憲幸

退任 佐藤 和彦

なお、新任理事の略歴は次の通りです。

(氏名) (略歴等) (所属支部)

青木 恵子 東京支部諮問委員 東京

大滝 則忠 米沢東高同窓会前東京支部長 東京

元理事、東京興譲館 前国立国会図書館長

五雲寺 卓 東京支部理事、山大出身 東京

元富士通関連会社社長

佐藤 憲一 東京支部理事、東京興譲館 東京

エネルギー総合工学研究所専務理事

手塚 宮雄 米沢支部理事 仙台興譲館 米沢

元米沢商業高校校長

○須貝会長の退任ご挨拶

六年にわたり会長を務められた須貝会長よりご挨拶がありました。

○感謝状贈呈（新会長選出後）

退任された須貝会長、梅津幸保理事に対し、永年にわたる功績に感謝し、上杉名誉会長、大滝新会長より感謝状と記念品を贈呈しました。

二、功労者、特別顕彰表彰式

本年度の本部表彰は、教育功労者一団体、産業功労者一団体、特別顕彰者四個人に決定し、それぞれ表彰状と記念品が贈られました。表彰式では上杉名誉会長から授与されました。

○教育功労者

特定非営利活動法人 With優様

(代表 白石 祥和氏)

不登校や引きこもりが社会問題となる中で、民間の受け皿としてWith優は二〇〇七年に任意団体として立

ち上げ、二〇〇九年にNPO法人化、地域のどんな子どもも大人も居場所と役割を持ち自分らしく生き生きと生きていける地域社会を目指して活動をしている。

二〇〇七年からフリースクールを開設し小学生から二十歳くらいまでの青年をこれまでに五十名ほど受け入れ、現在も二十名が全県より在籍、二〇一〇年からは置賜地域の若年無業者の自立をサポートする「置賜若者サポートステーション」を開設、これまでに六百名以上が利用している。

子供達や若者を地域で支え、つながれる場としてカフェレストランや会員制居酒屋なども独自に展開し、地域の多くの方や企業、行政とも連携しながら子ども・若者の自立を支えている。

さらに、経済的な理由でフリースクールに通えない生徒のために無利子の融資を行う「教育支援基金の運営」を行うなど、これまで十年間、学校にいけない子供たち、行かないことを選択した子供たち、今の社会の中で生きにくさを抱えた青少年に対して、生活、学習支援とおして復学・転学支援、及び社会的自立支援を行い、優しい地域社会づくりに貢献している。

これら社会貢献の功績に対して、（公財）社会貢献支

援財団から「平成二十七年社会貢献者表彰」を受賞した。

○産業功労者

米沢牛銘柄推進協議会

（会長 中川勝米沢市長

受賞代理 山形おきたま農業協同組合 山田順一副組合長）

米沢牛の誕生は大変歴史のあるものである。

旧藩校興譲館で教鞭を執っていた英国人教師（チャールズ・ヘンリー・ダラス）は明治八年米沢を離れる際、米沢産の牛一頭を横浜に持ち帰り振る舞い、その美味に皆感嘆した。

その後、米沢の畜産商と横浜の間屋を契約させて米沢牛として売り出し、これが全国に知れ渡るきっかけとなる。

昭和六十三年、東京食肉市場への出荷に向け、市内の生産者が中心となり、「米沢牛肉出荷組合」が結成され、米沢牛の首都圏出荷が本格化した。

平成四年、米沢牛の銘柄確立を図るため、生産者と流通関係者により「米沢牛銘柄推進協議会」が設立され、出荷基準や生産方法が統一され「米沢牛の定義」が明確

化された。

平成二十九年三月三日農林水産省の地理的表示保護制度（G I）に登録され、登録証が授与される（農林水産物として県内初）。

登録番号第二十六号となり、今後、米沢牛には登録の証であるG Iマークがつき、高品質の牛肉を全国に発信することが期待される。

○特別顕彰

富樫 奏絵 様（南陽市立中川小学校一年）

第六十二回青少年読書感想文全国コンクール 内閣総理大臣賞（最優秀賞）を受賞した。

高橋 辰壽 様（高畠町立高畠中学校三年）

平成二十八年年度全国中学校体育大会 第四十三回全日本中学校陸上競技選手権大会 男子四種競技（百十m H・砲丸投・走高跳・四百m）優勝

平成二十八年度東北中学校体育大会 第三十七回東北中学校陸上競技大会 男子四種競技（百十m H・砲丸投・走高跳・四百m）優勝

土井 匠 様（川西町立川西中学校三年）

第三十五回J S B A全日本スノーボード選手権大会
ハーフパイプ 優勝

第七十回国民体育大会冬季大会（イベント事業）スノーボード ハーフパイプ 中学生男子 第六位

本間 貴大 様（川西町立川西中学校三年）

第四十六回全日本中学生ホッケー選手権大会 男子優秀選手（二十二名）に選ばれる。

平成二十八年度U ー16ジュニアユースホッケー日本代表に選出され、オーストラリアでのF H E C U P二〇一六国際大会出場 第三位に貢献した。

三、第二回理事会

功労者、特別顕彰表彰式終了後の休憩時間に、別室にて第二回理事会が開催され、新会長に大滝則忠理事が選出されました。大滝新会長を議長として、次の人事を決議しました。

会 長（代表理事） 大滝 則忠

副会長（代表理事） 平山 英三

総務部長 加藤 国雄

地域振興部長

種村 信次

育英事業部長

伊藤 和夫

文化広報部長

手塚 宮雄

また、須貝英雄前会長を名誉会員に推挙しました。

四、新会長挨拶および新体制の紹介

理事会決議を経て、大滝新会長が選出されたことと新体制を、大滝会長より総会に報告すると同時に、就任の抱負を述べました。

五、感謝状贈呈

退任された須貝英雄会長、梅津幸保理事に対し、永年にわたる功績に感謝し、上杉邦憲名誉会長、大滝則忠会長より感謝状と記念品を贈呈しました。

六、文化講演会

教育功労賞を受賞された特定非営利法人with優代表 白石祥和氏にご講演いただきました。演題は「地域で支える若者支援〜with優の10年の歩み〜」で、講演録が後掲されています。

七、総会懇親会

講演会終了後、上杉伯爵邸において講師を囲み和やかに懇親会を開催しました。



本部表彰

米沢有為会総会文化講演会

開催日：平成二十九年六月二十四日（土）

会場：伝国の杜 二階 大会議室

講師：白石 祥 和氏

（特定非営利活動法人 With優 代表）

昭和五十六（一九八一）年米沢市生まれ。米沢興譲館高校、山形大学教育学部を卒業後、特別支援学級の指導員、フイリピンでのストリートチルドレンの支援活動などを経て、平成十九（二〇〇七）年にフリースクール「With優」を設立。平成二十一（二〇〇九）年にNPO法人格を取得。

地域で支える若者支援

「With優 十年の歩み」

御紹介いただきました白石です。

本日は、「地域で支える若者支援 「With優 十年の歩み」」というタイトルでお話をさせていただきます。

実は、昨年この会で講

演された我妻組様には、私共「With優」が大変にお世話になると同時に多大なご支援をいただいています。昨年、我妻社長から上杉名誉会長の名刺を見せていただきお話を伺いしたところでしたが、いつか私もお会いできれば光栄だと思っていました。それから一年後の本日、私共「With優」が栄えある米沢有為会の教育功労表彰を受彰し、皆様方にお話をする機会をいただいたことは大変に名誉なことと感謝しています。

団体設立以前

丁度十年前の平成十九（二〇〇七）年に「With優」を設立しました。それまでの私は、山形大学教育学部を卒業し、消防士を目指していましたが、それが叶わずに過ごしていました。地元の米沢で働きたいという気持ちを持ち続けていましたので、いろいろな仕事をしながら、自分は何ができるのだろうかと思案している時期でした。そんな折に同級生が行方不明になって、写真が警察署の前に貼られていました。数か月後に母から自殺したらしいという話を聞き、同級生の苦しみや悩みを思うとやりきれない気持ちになりました。このころ学校に行けない子供たちのドラマやニュースが取り上げられるよう



になりました。自分が働く中で社会とのギャップを感じたり、自殺者が三万人以上いることをニュースで知ったりしながら、学校という枠の中だけではない自由な教育の形があるのではないか、色んな職業があつて、色んな生き方があるのではないかという思いが増していきました。悩み苦しむ子供たちや若者に、「大丈夫だよ」と言つてあげられる場所が必要だと思ふようになりました。そして、そんな思いを具現化できる場所としてフリースクールに可能性を感じるようになりました。知り合いだった米沢生協の方から声をかけていただいて職員となった私は、場所と時間を与えてもらいフリースクールを事業化するという仕事を一年間させていただきました。

団体設立→フリースクール開校

生協の皆様には本当に良くしていただいたのですが、十年前の春、自分が考えるフリースクールを作りたいとの思いから米沢生協を退職いたしました。退職後、自分の思いを書いたチラシを持って、自転車で米沢市内を一軒一軒回りました。結局一ヶ月半で七、〇〇〇軒くらい訪問し、賛同者や協力者を募り任意団体「With優」を平成十九（二〇〇七）年五月に立ち上げ、フリースク

ルを八月に開校しました。

フリースクールは、隣町から通学する女子中学生一人の在籍でスタートしました。来ることが出来ない日もありましたので、生徒が誰もいない日もありました。月の収入は一万円から一万五千円ほどでしたが、必ずニーズがあるとの思いから、日中のアルバイトはせずに訪問や広報に出かけたり、休耕地を借りて畑を耕したりしていました。当然、それでは生活できないので朝は魚市場でアルバイトをし、夜は家庭教師をしてなんとか生活していました。それでも、クチコミで生徒が一人二人と増えていきました。今では、県内各地から二十人の子どもたちが通っています。さらにフリースクールに通学するために米沢に引越した家族もあります。フリースクールは、学校に行けない、行かない事を選択した子ども達、今の社会の中で生きにくさを抱えた若者の生活と学びの場として、月曜日から金曜日まで開校しています。活動内容は主に、高校卒業程度認定試験や各種資格取得、大学受験まで対応した学習支援を中心に、昼食作り、季節ごとのイベント、修学旅行など様々なプログラムを通して、自立する力をつけるサポートをしています。これまでに二十四人が高校・専門学校・大学へと合格・進学、

九人が在籍する学校へ復学、十五人が高校卒業程度認定試験に合格をしました。

なお、フリースクールには、教員免許を所持しているスタッフを二名配置しています。行政からの補助金や助成がないことから厳しい運営ですが、地域の企業六十六社から一口年額一万円ご支援をいただいて教育にあたっている現状です。ご協力をいただける方がおられましたら、ぜひご一報いただけたら幸いです。

教育支援基金

公的な教育機関と違い、フリースクールに通う生徒は一般的な奨学金等を受けることや融資制度を利用することが出来ないという課題があります。そのような背景から、フリースクールに通いたいけれど経済的に困難を抱え通学出来ない子どもや若者が多くいます。

With優のフリースクールの運営は、主に生徒から徴収する月謝で賄われています。週二回通うと昼食代込みで二万五千円、毎日通学すると四万八千円掛かります。

現在通学している生徒でも、週一〜二回しか通えず、学びたい気持ちはあっても、満足に学習できない状況が多くあります。学習意欲のある子どもや若者に、一時的

な経済的支援を行い、支援が必要な子どもや若者に可能な限りのサポートを早期に行い、自立に繋げていくことが本教育支援基金設立の目的です。原則的には給付ではなく無利子の立て替えとし、自立後に教育支援基金へ返済してもらうものです。

なお、この基金は、趣旨に賛同いただいた個人または団体からの寄付金で運営されています。ご連絡をいただければお伺いしますのでご支援を宜しくお願いいたします。

カフェレストラン

平成二十一（二〇〇九）年七月からフリースクールに通う子ども達が働き、地域と繋がるカフェレストランを毎週土曜日に運営しています。このレストランは、地域のどんな方でも「ほっ」と安らげる場所を目指しています。レストランで使用する野菜、ハーブなどは、出来る限り自分たちで育てているので、安心して召し上がっていただけます。尚、当レストランは子供たちや若者の就労体験の場としての役割を担っています。

置賜若者サポートステーション

地域若者サポートステーション（愛称：「サポステ」）

は、厚生労働省からの委託を受けた全国の若者支援の実績やノウハウのあるNPO法人、株式会社、社団法人、財団法人、学校法人などが運営しており、全国約一七〇か所に設置されています。

With優が、平成二十二（二〇一〇）年から運営するサポステは、働くことについてさまざまな悩みを抱えている十五歳〜三十九歳までの若者が就労に向かえるよう、ハローワーク等との就労支援機関や各NPO機関、福祉・行政機関などと支援ネットワークを組み、多様なサービスでサポートしています。

八年間で七〇〇人が登録利用し四〇〇人が就職しています。今関わっている若者は一三〇人以上。当初は中卒や高校中退など低学歴者が多かったのですが、最近では大卒や大学院卒など高学歴者が増えています。

会員制居酒屋「結」

一般就労を目指す若者が地域の即戦力になるためのトレーニングをする中間労働の場所、地域の方々との繋がり、地域の場として、地域の方が寄り添い、共に若者を育てて行く場所、一般就労後につまずきかけた時につまずかないように気軽に相談できる場所、応援される若者、応援

してくださる地域の方が日常から離れてほっとできる場所として、会員制居酒屋「結」は、平成二十五（二〇一三）年二月に市内中心街にオープンしました。

「明るく笑顔で失敗してもいい」という気持ちでチャレンジすることを大切にして、地域に住む若者たちが生き生きと暮らせる社会づくりを目標に活動しています。毎週火〜土曜日の十七時から二十三時まで営業しています。立ち上げ方として、これから一般就労を目指す若者と共にプロジェクトチームを作り、寄付集め、改修工事、運営方法等も協議し、地域住民及び企業等一五〇人を超える方から立ち上げの為の寄付を二八〇万円ほどいただきました。オープンすることが出来ました。若者支援の趣旨に賛同した方に三〇〇円で会員になって利用していただいており、会員は現在四、〇〇〇人。おかげさまで週末は、満席になりました。就労後も繋がりが続けられる場として機能し、交流会等のイベントも毎月開催しています。

駄菓子屋・寺子屋あつあい

平成二十七（二〇一五）年には子ども・大人がワクワクでき、誰もが先生になれる「駄菓子屋・寺子屋あつあ

い」をオープンさせました。

市内中心部の空き店舗を活用して、お年寄りから子供まで、誰もが楽しんで交流できる空間を作るプロジェクトです。学校の先生を退職した方、企業を退職した方、職人や主婦の方、ボランティアグループの方等、様々な方が先生になって、次代を担う子ども達に伝えたいことを伝えることが出来る寺子屋を目指しています。

駄菓子屋は昔、地域のあちこちにありましたが、時代の流れと共に私たちの住む米沢市では、そのすべてが姿を消しました。校庭でボールが見えなくなるまで遊び、遊びの合間に小銭をにぎりしめ、近くの駄菓子屋で一休み。かつて当たり前にあった風景です。スーパードする買い物とは違うあたたかさ、駄菓子屋のおばちゃんと何気ない会話をすることも楽しかったです。

駄菓子屋をきっかけにつながる人と人のご縁。その古き良ききっかけを残しつつ、新しい関係値を作っていく場になりたいと思っています。

今後に向けて

学校にいけない子どもたちや就職できない若者たちに「大丈夫だよ」と言える社会、どんな人も自分らしく、



生き生きと生き抜けるような社会を目指し、挑戦し続けたいと思っています。そして、数年後に子ども達が若者支援のNPOで働くことが将来の夢になる、職業的な目標に出来る事業、組織運営をしたいと思っています。

最後になりますが、今後のWith優の活動にご支援をお願い申し上げますとともに、葛藤しながら活動する若者の現場に足を運んでいただければありがたいと思っています。本日は、ご清聴ありがとうございました。

【連絡先】

〒921-0075 米沢市赤芝町字川添一八八四番地
TEL (0338) 331-9137
FAX (0338) 331-9138
Eメール share_love_future@yahoo.co.jp

◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

役員大幅改選に伴う役員の役割分担変更

平成二十九年年度定時総会の役員会改選により、大滝新会長以下各部の役員構成・役務分担が大きく変更されました。詳しくは、本誌末部の「役員名簿」をご覧ください。総務部も部長以下変更となりました。

当会の使命・ビジョンの再構築

役員選考委員会の議論の中で、米沢支部より次のような指摘がありました。つまり、これまでの当会は発足以来、人材育成事業（奨学金貸与事業、学生寮運営）などを進め、米沢・置賜地方人材の東京など他地方への進出を応援してきたが、少子化・人口減少の時代となり、長男すら地元に残らない場合も少なくない中、有為な人材が地元に残る、ないし戻るような支援活動も強化してゆくべきだという指摘です。そのような考えが、大滝新会長の挨拶や「米沢有為会・創立百三十周年活動ビジョン（案）」に反映されています。

創立百三十周年に向けて

総務部としても、右の新しい時代の要請にこたえつつ、

二年後の創立百三十周年に向け、

①「活動ビジョン（案）」を受けての創立百三十周年記念事業の計画・推進

②東京および仙台興譲館 我妻榮記念館の施設計画

③奨学金制度見直しと財務的検討

④会員拡充と会員活動の活性化

⑤事務局機能の強化

などに取り組んでまいります。特に⑤について、以下に述べます。

事務局機能の強化

平成二十六年七月に公益社団法人となり三年を経過しました。本年二月一日に内閣府の実地検査が行われ、事務処理手続きや体制整備面などで、いくつかの指摘と指導をいただきました。

基本的課題は、事務局機能の強化です。財政面から専任職員を持たない中での対応で、多くを会員のボランティア的活動に負っているのが実情です、

改善しつつあるとは言え雇用状況は厳しく、貸与奨学金の返済状況は必ずしも芳しくなく、そのフォローアップの強化が必要です。きめ細かなサービスのために会員管理の充実も必要です。また、公益社団法人として内閣

府への諸報告のための体制強化も必要です。事務局の業務分析などをすすめ、有給職員採用を検討していきます。

○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に奨学金貸与事業、学生寮運営事業）について報告します。

育英事業の募集について地元高校の保護者・生徒への説明会を、募集担当理事のもと東京・仙台両寮関係役員で行っております。昨年の実施高校は、実施順に、米沢中央高校、米沢興譲館高校、長井高校、米沢東高校の四校でした。

二十九年度の育英資金貸与生・学生寮入寮生選考結果は別表１のとおりです。

奨学金貸与生選考の報告と課題

大学生三名（一年生二名、大学院一名）の応募があり、三月二十五日米沢市置賜総合文化センターでの教育委員による面接、二十六日本部理事会審議を経て、応募者全員が採用となりました。採用者の応募時の作文「私の志」を後掲しています。

奨学金制度の質的向上を目指す必要があると考えています。今後の米沢有為会ビジョンの中で、給付型奨学金

の一部導入などを検討する計画です。

学生寮入寮生選考の報告と課題

東京興譲館は募集八名に対して応募者八名、仙台興譲館は募集四名に対して四名を選考しました。東京、仙台共にここ数年未充足状態でしたが、今年度は充足することができました。なお、仙台興譲館は、応募者が募集人員を超え、希望に添えなかったことは残念です。

仙台興譲館は昨年度まで大規模改修を行い、それが応募者増につながったと考えています。東京興譲館については、今年度から改修を進め、環境の整備を行います。

来年度の募集要項の概要

今年度の募集要項の概要は、別表２のとおりです。有為会会員の皆さまには、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。



仙台興譲館寮



東京興譲館寮

(別表1) 平成二十九年奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出 身 高 校	出 身 地
1	下 平 健 三 郎	法政大学社会学部	1 年	東 北 高 校	米沢市
2	田 中 歌 乃	山形大学工学部	1 年	米沢興讓館高校	南陽市
3	渡 邊 志 保	静岡大学大学院農学研究科	1 年	米沢興讓館高校	米沢市

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏 名	大 学・学 部・学 科	学 年	出 身 高 校	出 身 地
1	梅 津 琉 也	法政大学文学部	1 年	米沢興讓館高校	米沢市
2	後 藤 弘 樹	城西大学理学部	1 年	米沢中央高校	米沢市
3	坂 本 啓 輔	早稲田大学先進理工学部	1 年	米沢興讓館高校	南陽市
4	瀬 野 友 太 郎	中央大学経済学部	1 年	山形市立商業高校	山形市
5	富 取 俊 聲	首都大学東京都市環境学部	1 年	米沢興讓館高校	米沢市
6	中 澤 世 阿	東京大学理科一類	1 年	開 智 高 校	越谷市
7	野 呂 岳 志	玉川大学教育学部	1 年	昌 平 高 校	さいたま市
8	我 妻 清 文	二松學舎大学文学部	1 年	米沢工業高校	米沢市

② 仙台興讓館

	氏 名	大 学 ・ 学 部 ・ 学 科	学 年	出 身 高 校	出 身 地
1	梅 沢 謙 吾	東北大学・経済学部	1 年	米沢興讓館高校	米沢市
2	佐 藤 大 貴	東北工業大学・工学部・情報通信工学科	1 年	米沢工業高校	高畠町
3	渋谷 拓	東北大学・工学部・機械知能航空工学科	1 年	米沢興讓館高校	米沢市
4	島 貫 英 佑	東北文化学園大学・医療福祉学部・リハビリテーション学科	1 年	米沢東高校	川西町

(別表2) 平成三十年度の育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生募集要項

応 募 資 格	置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者 (1) 平成30年4月大学予定者または在学生 (2) 健康かつ学業優秀で将来性ある者 (3) 経済的理由により就学が困難である者 合格発表前の応募可
募 集 人 員	5名程度
貸 費 金 額	月額4万円(年額48万円)(無利息) 返済・貸付終了翌年度より年額18万円
面接選考日・場所	平成30年3月24日(土) 置賜総合文化センター

2. 学生寮入寮生の募集要項

寮名	東京興譲館		仙台興譲館	
所在地	東京都調布市（新宿駅より約40分）		仙台市青葉区（中心市街地まで約3 km）	
応募資格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、又は入学予定者（男子のみ） 以下の条件のいずれかを満たす者 （1） 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 （2） 有為会会員1名以上の推薦を受けた者 合格発表前の応募可		仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び 大学院の在学生、又は入学予定者（男子のみ）	
募集人員	7名 個室（定員24名）		1名 個室（定員15名）	
寮費（月額）	朝夕二食付き（ただし日曜、祝日除く）、光熱費・水道代等を含む 48,000円		夏季 42,000円程度 冬季 44,000円程度	
面接日・場所	1月14日 東京、3月11日 米沢、 3月24日 東京		3月11日 米沢、3月22日 仙台	

公益社団法人 米沢有為会 育英事業（高校別）利用状況一覧

（平成 29 年 7 月現在）

(内 訳) －数字は人数－	学生寮生 1909～2017 年度		奨 学 生 1911～2017 年度	
	1909年創設以来概数 2,000人		1911年創設以来数 399人 (うち女性 43人)	
	戦後期概数 2,000人以上		戦後期数 279人 (うち女性 42人)	
出身高校名	OB 会員数 * (現住所判明分)	現役寮生数 **	奨学生数	(うち女性)
米 沢 興 譲 館	418	21	191	23
米 沢 東	1	3	15	9
米 沢 工 業	5	2	10	
米 沢 商 業	10		5	2
九 里 学 園	1		1	
米 沢 中 央	13	1	10	2
長 井	73		23	3
長 井 工 業			3	
荒 砥	4		3	
南 陽	2	1	7	3
高 畠	2		2	
小 国			1	
置 賜 農 業	2	1	1	
基督教独立学園		1		
県 内 高 校	21	7	5	
県 外 高 校	12	2	2	
出身高校不明	34			
合 計	598	39	279	42

* 米沢有為会寄宿舎 OB 会が活動している。

** 現在の学生寮定員は、東京興譲館寮 24 人、仙台興譲館寮 15 人、合計 39 人

○地域振興部

当部は、教育及び産業の振興に関する事業を担当し、事業を遂行するために各種表彰に関する諸事務を行いました。表彰は大きく二つあり、(一)教育功労者表彰と産業功労者表彰、そして、小・中・高校生対象の各種大会・競技会において優秀な成績をおさめた者に対する特別顕彰者表彰、(二)高等学校卒業生表彰です。なお、(一)の小・中・高校生対象の表彰基準について、これまで本部と米沢支部に分けて実施していましたが、来年度から本部表彰に統一する見直しを行い、趣旨及び新基準について各関係機関に通知しました。

(二)については、前年度末に、米沢支部事務局より、置賜地区3市5町の教育委員会、小・中・高校長会、産業振興関係部・課、商工会議所、米沢有為会支部理事などの関係機関・団体等に候補者の推薦を依頼しました。推薦いただいた内申書に基づき、教育振興担当と米沢支部教育部、地域振興担当と米沢支部産業部において候補者を選考し、本部表彰者は本部理事会において、また、米沢支部表彰者については米沢支部理事会で決定しました。本部表彰は本部総会において、米沢支部表彰は米沢支部総会において行いました。

今年度は、教育功労者として特定非営利活動法人With優、産業功労者として米沢牛銘柄推進協議会、特別顕彰者として南陽市立中川小学校一年の富樫奏絵さん、高畠町立高畠中学校三年の高橋辰壽さん、川西町立川西中学校三年の土井匠さん、同本間貴大さんを本部表彰いたしました。当誌の本部活動報告の中で詳しく紹介しています。

また、(二)については、置賜地区内の十四の高等学校のうち基督教独立学園高等学校を除く十三校から各校一名の推薦を受けて本部理事会で表彰者を決定しました。そして、米沢支部教育部員が各高等学校を訪問し校長に表彰の伝達をお願いして実施しました。

二十八年度高等学校卒業生表彰(二十九年二、三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。

今年度の表彰者は次の通りです。

横山 よこやま	優作 ゆうさく	米沢興譲館高等学校	(米沢市)
小野 おの	朱美 あづみ	米沢商業高等学校	(米沢市)
近野 こんの	花純 かすみ	米沢工業高等学校	(米沢市)
江部 えべ	達也 たつや	米沢東高等学校	(米沢市)

佐藤	石井	鈴木	小川	平井	島崎	高橋	菊地	色摩
大雅	亜美	涼太	悠	滉太	有紀	佳伶	葵	咲恵
小国高等学校	荒砥高等学校	高畠高等学校	置賜農業高等学校	長井工業高等学校	長井高等学校	南陽高等学校	九里学園高等学校	米沢中央高等学校
(小国町)	(白鷹町)	(高畠町)	(川西町)	(長井市)	(南陽市)	(南陽市)	(長井市)	(米沢市)

○文化広報部

今年度は定時総会で理事と監事の役員改選案が承認され、文化広報部は理事がこれまでの五名から三名になりました。部長は、四期八年間務めた梅津幸保理事から手塚宮雄新理事にバトンタッチされました。また、九月の第四回理事会で米沢支部文化広報部員の五名が参事として承認されました。

文化広報部の主な仕事は、会誌の発行とホームページ（HP）の作成ですが、今年度は役員改選とともに本会創立百三十年の節目を二年後に控え、その準備等も含め

てより充実した内容にしたいと考えました。

七月の第三回理事会での会誌発行時期の決定を受けて、九月の第四回理事会に『米沢有為会々誌』第六十七号の編集方針（案）、目次（案）、工程表（案）を提案し了承されました。今年度から百三十年を見据えて、「活動ビジョン（案）」の掲載やHPの一層の充実を図ることで大滝新会長から提案され、十二月発行となったのでした。例年ですと、編集会議を東京で開いていましたが、今年は時間の都合上この理事会で代替させていただきました。

新たな記事としては、まず前述の「百三十年活動ビジョン（案）」があります。これは大滝会長が役員からアイデアを募集し、本会のビジョンと今後の活動計画として作成したものを明示したものです。

また、新会長は定時総会後から七月にかけて、三市五町の首長を訪問して挨拶するとともに、本会の使命や事業内容について説明し理解を得ました。

奨学生や入寮者募集用の号外もまた発行して、三市五町の高校に配布または送付しています。

次に、HPの大幅な改訂があります。新担当の五雲寺卓理事が山形県立米沢工業高等学校専攻科と連携協力の

下、時代に即した内容と形式に更新するとともに、一層
 広く会員や全国の人々に知ってほしいし、お互いに関
 流もしてほしいと会誌でも訴えています。

当面は、現在のHPのコンテンツ（記載内容）を最新
 の状態に改訂することになっています。

次に、加藤総務部長から初めて野外文化大学の報告を
 いただきました。第一回は昨年十月上杉名誉会長の案内
 によるJAXA見学、第二回は今年六月定時総会の前に
 役員らがNECやナセBA、米沢市長を訪問した記録で
 す。

また、今年は様々な事業や周年行事が展開された年で
 もありました。その主なものをピックアップとして拾いま
 したので、例年より多くなりましたが、ぜひご覧下さい。
 今後とも、特に創立百三十周年に向けて、様々な記念
 事業が計画されると思いますが、皆様からの情報やご意
 見、そしてご協力をよろしくお願い申し上げます。

管内高等学校校章



県立米沢興譲館
高等学校



県立米沢東
高等学校



県立米沢工業
高等学校



県立米沢商業
高等学校



県立置賜農業
高等学校



県立南陽
高等学校



県立高畠
高等学校



県立長井
高等学校



県立長井工業
高等学校



県立荒砥
高等学校



県立小国
高等学校



基督教独立学園
高等学校



学校法人九里
学園高等学校



学校法人米沢
中央高等学校

**置賜地区高等学校卒業生の
学生寮・奨学金制度利用者 4 年間推移表**

(平成29年 9 月現在 総務部調べ)

	H26年			H27年			H28年			H29年			合計(名)		
	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費
米 沢 興 譲 館	3		4	3	4	2	1	4	1	3	2	2	10	10	9
米 沢 東						1	1	1	1		1		1	2	2
米 沢 工 業					1					1	1		1	2	0
米 沢 商 業													0	0	0
九 里 学 園													0	0	0
米 沢 中 央									1	1			1	0	1
長 井													0	0	0
長 井 工 業													0	0	0
荒 砥													0	0	0
南 陽	1								1				1	0	1
高 畠													0	0	0
小 国													0	0	0
置 賜 農 業	1							1					1	1	0
山 形 東				1		1	1						2	0	1
山 形 南				1			1						2	0	0
山 形 中 央	1												1	0	0
日 大 山 形				1									1	0	0
山 形 工 業													0	0	0
基督教独立学園	2			1									3	0	0
そ の 他	1						1		1	3		1	5	0	2
計 (名)	9	0	4	7	5	4	5	6	5	8	4	3	29	15	16

「私の志」 二十九年年度奨学生 の作文

山形県で理科の高校教諭を目指す

渡 邊 志 保

私は、四月から静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻応用生物化学コースに所属し、研究に励んでいます。大学院に進学し、自分の頭で考えて計画・実行していく力、自分から学ぼうとする力に磨きをかけたいです。これらの力は、社会に出てからも、大いに活用できる力であると考えています。また、大学四年のときに母校で教育実習を行い、教諭の大変さやりがいを知りました。この経験がきっかけとなり、「山形県の理科高校教諭」を目指すことを決意しました。そのために、大学院で専修免許を取得します。加えて、大学院に進学したからこそ学べる理科の専門性を磨き、理科の楽しさを多くの人に伝えられる人材になりたいと考えています。

インターハイ優勝を活かし
教員をめざす

下 平 健三郎

私が教員を目指すきっかけは、私の家系が教員一家だという所にあります。曾祖父、祖父、両親の皆が教員だということを知った私は、最初から教員という道しか見えていませんでした。また教員になるにあたって、幼い時から携わってきたソフトテニスを若い世代に教えていきたいという目標もあります。

私は、ソフトテニスの名門、東北高校で三年間を過ごしました。日本一になりたくて必死に努力した三年間でした。多くの挫折がありました。努力が実って三年のインターハイで優勝した時の達成感や感動は今までにはないものでした。この経験を活かし、努力を続けることの大切さを教えられる教師になりたいと考えています。また、その先にある達成感や感動を掴み取る手助けをすることが出来る教師を目指したいと考えています。

パイロットをめざす

田 中 歌 乃

私の夢は、旅客機のパイロットになることです。そう思った理由は、ただただ飛行機が魅力的だったからです。私にとって飛行機は、遠くかけ離れた所にあるけれど、この世の何よりも迫力があり、胸をときめかせるものです。地上から眺めているといつも、私もあれを操縦してみたいと思っていました。

近年航空会社が増えたためか、パイロット不足という言葉は耳にするようになりました。また、女性もそのような現場で働きやすくなっています。しかし、多くの命を預かっている職業で、並の努力でなれるものではないことには代わりはありません。そのため私は、これから通う山形大学工学部で、特に物理・英語・数学を確実な学力として身につけていきたいと思います。そして目標は、私の身の丈に合わずとも大きいものですが、

小さなことからこつこつと、毎日計画を立てて充実した生活を送りたいと思います。

奨学金貸与制度創設から百六年

本会の奨学金貸与制度が明治四十四（一九一）年に創設されてから今年で百六年。その前年、「米沢有為会第二次拡張」計画により、奨学金制度を実施するための財源の見通しがようやくついたのでした。これまで戦中戦後の休止期を挟み、戦前期と戦後期に分かれて継続されてきました。この間当制度のもとで修学した奨学生は約四百名。貸与年額は創設時の百五十円以下から現在（平成十一年以降）の四十八万円へと大きく変遷してきました。奨学金の財源は、厳しい経済状況が続く中、本会の育英事業に賛同する個人・企業・団体の大口寄付や周年事業時の会員の献金によるものです。多くの皆様に深甚なる敬意と感謝を捧げます。平成二十一（二〇〇九）年、本会の発展に寄与し会員相互の親睦を図りたいと米沢有為会奨学生OB・OG会が設立されました。今後とも活発な活動が期待されます。

（創立百二十周年記念特集号復刊第五十九号参考）

支部だより

東京支部

平成二十八年度の主な行事の活動報告

▲支部総会・懇親会

東京支部総会・懇親会・歓迎会は、平成二十八年六月五日にスクワール麹町で開催されました。第一部の「定期総会」は加藤国雄支部長が議長となり、平成二十七年年度の事業及び決算報告、平成二十八年度の事業計画（案）及び予算（案）が承認されました。第二部の「懇親会・歓迎会」は、五雲寺卓理事の司会で開催されました。ご来賓の上杉邦憲名誉会長よりご祝辞を頂きました。その中で人間の出会いと人の縁について話されました。

上杉様は、北海道スペーススポーツの実現に奔走されています。釧路でお会いした方が、米沢信用金庫会長の種村信次様と懇意であることを知って驚かれたそうです。また、沖縄では、第二代県令の上杉茂憲が東京に書生として連れてきて勉強を続けさせた人の末裔が、現在も沖縄で活躍されていること話されました。続いて、須貝英

雄会長からご祝辞を頂きました。その後、新入寮生の自己紹介と抱負を述べてもらいました。十二年五ヶ月もの長い間勤務していただいた寮母の三浦絢子さんの後任として、平成二十八年の四月から、就任された福田富子さんからも自己紹介をしていただきました。さらに、こまつ座社長の井上麻矢様からも次のような励ましの言葉を頂きました。

「新しい季節に寮に入られた皆さん、おめでとうございます。そして、これから住む場所は、皆さんの心の故郷となる場所になるはずです。私の下の娘も今大学二年生で、寮で生活しています。一人では何も出来ない娘でしたが、寮生活二年の中で様々なことを覚え、そして、家には到底感じることをできない辛さや喜びを経て、同時に大きく成長をしたと思えてなりません。館長先生がまさに頼れる存在となり、初めて皆さんの世界が大きく拡がっていくことでしょう。」

続いて、名誉会員の下條泰夫様のご発声で乾杯し懇親会に入りました。鈴木信之副支部長の一本締めで盛況のうちに終了しました。

▲百人もの出席者で芋煮と地酒を満喫

この年の園遊会は、小石川後楽園の涵徳亭で十一月五

日に開催されました。天気にも恵まれ、絶好の園遊会日和となりました。後楽園の紅葉も美しく、それを楽しむ人も多かった。定刻に林常子理事の司会で始まりました。加藤国雄支部長よりご来賓の上杉邦憲名誉会長ご夫妻と清野能昭山形育英会業務執行理事の紹介がありました。次に県民歌「最上川」を斉唱しました。上杉邦憲名誉会長より祝辞をいただきました。続いて、下



東京興譲館寮生と有為会支部役員

條泰生名誉会員の音頭で乾杯をして懇親会に入りました。五雲寺卓理事より、新入会員である小泉宏一様、齋藤四郎様、佐藤敏孝様、佐野真之様、篠宮雅夫様、高橋淳二様の六名が紹介され、自己紹介してもらいました。支部活動の活性化のためにも嬉しい事です。山形の地酒やワインを味わいました。米沢から材料を取り寄せた芋煮や玉コンニャクの味はいかがだったでしょうか。郷里の物産の販売は、実行委員の板垣史朗理事や澤田美根子様を中心にやってく下さいました。売れ筋の「鯉の甘煮」や「もつて菊」などの品物を増やしました。御蔭で、完売でした。お楽しみの抽選会では、最後の一等賞は会員の深山昭子様が獲得されました。その後、全員で唱歌「ふるさと」を斉唱しました。鈴木信之副支部長の閉会の挨拶と一本締めで散会しました。出席者の人数は学生を含めて九十七名でした。今年の特徴は、同伴者数が十八名で大変多かったことです。ほぼ全員の寮生諸君が出席して、運営のお手伝いをしてくれました。実行委員の皆様ご協力有難うございました。

▲支部新年会・予餞会

平成二十九年二月十一日に、「主婦会館プラザエフ」で、出席者五十一名の会合となりました。佐藤憲一理事の司

会で加藤国雄支部長の挨拶の後、上杉邦憲名誉会長と須
員会長よりご祝辞を頂きました。館長より、今年の寮生
の卒業生は一名だけですが、郷里に戻って働くことが報
告されました。その後名誉会員下條泰生様のご発声で乾
杯し祝宴に入りました。鈴木信之副支部長の中締め挨拶
で終了しました。

▲東京支部会員数(平成二十九年十月現在)

正会員数 一二二名

賛助会員数 一六八名

法人賛助会員数 七法人

▲訃報会員

ご生前のご協力に感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいた
します。

() 内は命月

宍戸 俊夫様 (平成二十八年二月)

今井 和夫様 (平成二十九年七月)

中澤 元一様 (平成二十八年十月)

沼澤 研一様 (平成二十八年十月)

中川 紘一様 (平成二十八年十一月)



東京支部総会 笑顔の記念写真

米沢支部

平成二十九年度米沢支部における上半期の活動状況を報告します。

○四月二十七日 教育・産業功労者等検討会議

午後二時から我妻榮記念館にて開催。併せて賞状原文作成を分担し依頼しました。

○五月一日 米沢支部監査

午後一時から米沢市役所で開催。平成二十八年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査していただきました。

【理事会】

○五月十一日 第一回理事会

午後二時から米沢市役所庁議室において開催。内容は、平成二十八年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する事業報告・決算報告・事業計画（案）・予算（案）を了承。また、米沢支部規則の一部改正（案）、理事・監事・諮問委員の定時

改選に伴う改選（案）、平成二十九年度事業計画（案）及び予算（案）を支部総会に提案することに決定。さらには、平成二十九年度表彰者について教育・産業功労賞表彰の検討結果を報告し了承。そして米沢支部表彰規則の廃止を支部総会に提案することを決定しました。

本部表彰該当者については、会長に報告、決定を受けることになりました。

また、会員増強については前年度に引き続き活動することになりました。

○五月二十三日 総務部・組織部合同会議

午後六時から我妻榮記念館で開催。支部総会、本部総会の運営について打合せを行いました。

【総会】

○六月三日 総会

午後三時からホテルモントビュール米沢において開催。

会員二十九名出席の中、中川勝支部長挨拶の後、議事に入りました。平成二十八年度支部庶務・事業報告及び決算並びに米沢支部規則の一部改正（案）が原案

どおり承認や議決されたのに続き、理事・監事・諮問委員の定時改選に伴う改選（案）が議決。ここで、第二回理事会を開催し、中川勝米沢市長が支部長に再選された旨の報告に続いて総会を再開。平成二十九年度事業計画（案）、予算（案）及び米沢支部表彰規則の廃止が審議され、原案どおり議決されました。さらに、我妻榮記念館に関する議案を審議し承認されました。また、庶務報告の中で支部会員数の状況が説明されました。

【理事会】

○六月三日 第二回理事会

総会途中に、理事会を開催。支部長・副支部長の互選と諮問委員の選任を行い、中川勝米沢市長が支部長に決定したほか副支部長、諮問委員を決定しました。

続いて支部の表彰式に移り、次の皆さんが受賞しました。

〈教育功労賞〉 今年度支部表彰なし

〈産業功労賞〉 今年度支部表彰なし

〈特別顕彰〉 顕彰の対象となった競技等が複数あっても代表のみ掲載しました。

○野川 裕太さん（米沢市立南部小学校三年）

第四十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 作文部門 一部（小学校一～三年生） 全国コンクール 優秀賞

○鈴木 大智さん（高島町立和田小学校三年）

第四十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 図画部門 一部（小学校一～三年生） 全国コンクール 優秀賞

○秋山 果穂さん（川西町立小松小学校三年）

第五十八回山形県こども絵画展覧会 県展賞（各学年

一名）

○青木 颯祐さん（高島町立屋代小学校五年）

第三十二回山形県小学生陸上競技大会兼第三十二回全国小学生陸上競技交流大会山形県予選会 五年男子百

m 優勝

○大滝 萌心さん（米沢市立第三中学校二年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第四十八回東北中学校水泳競技大会 女子五十m自由形 第三位

○羽鳥 紘文さん（米沢市立第六中学校二年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第五十三回東北中学校スキー大会 クロスカントリースキー競技 男子五km

フリー 第三位

○佐藤 百華さん（米沢市立第四中学校三年）

第四十一回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 作文部門三部（中学校一～三年生） 全国コンクール 優秀賞

○橋本 実子さん（米沢市立第四中学校三年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第四十六回東北中学校卓球大会 女子シングルス 第三位

○青野 瑞希さん（南陽市立沖郷中学校三年）

第三十八回少年の主張北海道・東北ブロック代表二名のうちの一名に選出され全国大会出場（十二名のうちの一名）

○小倉 七海さん（長井市立長井南中学校三年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第四十六回東北中学校卓球大会 女子シングルス 優勝

○菊地 悠平さん（長井市立長井北中学校三年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第三十七回東北中学校陸上競技大会 男子共通二百m 第二位

○小関 杏実さん（飯豊町立飯豊中学校三年）

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第五十三回東北中学校スキー大会 女子スラローム（回転） 優勝

○米沢市立第一中学校女子バスケットボール部 様

平成二十八年年度東北中学校体育大会 第四十六回東北中学校バスケットボール大会 第三位

○川西町立川西中学校男子ホッケー部 様

第二十五回東北中学生ホッケー選手権大会兼第四十六回全日本中学生ホッケー選手権大会東北ブロック予選会 優勝

※学校・学年は平成二十八年度のものです。

以上、二団体・十二個人をそれぞれ表彰した後、中川勝支部長の挨拶と受賞者の挨拶。その後、全員で記念撮影をして表彰式を終りました。

なお、支部表彰規則が廃止されましたので、最後の支部表彰式となりました。

【懇親会】

表彰式終了後、懇親会に移り本会の理事、諮問委員、教育委員、一般会員約三十名で和やかな懇親会となりました。

○六月八日 本部総会案内状発送作業

併せて、野外文化大学の案内状も同封しました。

○六月二十三日～二十四日 有為会「野外文化大学」

NEC パーソナルコンピュータ(株)、市立米沢図書館(ナセBA)を見学、小野川温泉「やな川屋旅館」にて歓迎懇親会を開催しました。

○六月二十四日 有為会本部総会

午後二時から伝国の杜で総会、表彰式、講演会を開催。講演は教育功労者表彰受賞者、特定非営利活動法人With優代表の白石祥和氏にお願いし講演会を開催しました。懇親会は場所を移し上杉伯爵邸で開催されました。

○七月十二日 支部運営会議

午後六時から我妻榮記念館で開催。専門部員の委嘱、秋の会員交流研修会や支部だよりの発刊などを協議しました。

○七月十四日・二十七日・二十八日 大滝則忠新会長が

置賜三市五町の市長・町長・教育長へ就任あいさつ
種村信次副支部長ほか支部役員が同行しました。

○七月十九日 文化広報部会

午後二時から我妻榮記念館にて開催。支部だより第三十五号の発刊について協議しました。

○八月三日 我妻榮記念館第一回運営委員会

午後五時三十分から我妻榮記念館で開催。我妻榮記念館長の交代、前記念館長の顧問への委嘱、運営委員の補充を協議しました。

○八月十七日 地域振興部計画検討会

午後六時から我妻榮記念館で開催。地域振興部計画を米沢支部においても協議しました。

○八月二十七日 支部だより第三十五号・支部研修会の案内等の発送作業

○九月二十六日 総務部・組織部合同会議

午後六時から我妻榮記念館で開催。講演会・交流研修会の運営について協議しました。

【支部交流研修会】

○九月三十日

午後四時からホテルモントビュール米沢で開催。今年度の講師は大滝則忠会長「米沢有為会と置賜人脈」旧制武蔵高等学校の設立前後」の演題で講演いただきました。

【会員交流会】

講演終了後、午後五時三十分から大芋煮会を開会しま

した。

○十月二日 米沢有為会の表彰制度の変更と進路調査表を置賜地域の高校に発送作業

進路調査表については、山形県内の大学・短期大学・専門学校にも発送しました。

○十月八日 我妻学先生来市打ち合わせ会

午後一時から我妻榮記念館で開催。市立米沢図書館（ナセBA）の先人顕彰コーナーに我妻榮先生の関係書籍などが展示されることを記念し、榮先生の孫の学先生による講演会を開催することになり、関係先との調整や協議をしました。

○十月十一日 東京支部だよりと米沢支部だよりを置賜の三市五町の市長・町長・教育長へ発送作業

○十月二十七日 我妻榮記念館第二回運営委員会

午後五時から我妻榮記念館で開催。上半期の運営状況報告や米沢有為会施設整備委員会からの依頼事項を検討しました。

○十一月八日 我妻学先生歓迎行事打ち合わせ会

午前九時三十分から我妻榮記念館において開催。

○十一月十二日 我妻学先生による記念講演会

午後二時から伝国の杜大会議室において、「我妻榮

（民法学者）と米沢」の演題で講演をいただきました。終了後、講師を囲んで夕食会を上杉伯爵邸にて開催しました。

○十一月十六日 米沢有為会活動ビジョンの検討会議

午後一時三十分から我妻榮記念館で開催。会創立百三十周年活動ビジョン（案）と活動項目等を協議しました。

今後の主な行事予定

○平成三十年一月十八日 支部役員・事務局員合同初顔合わせ会開催予定

○平成三十年二月十五日 米沢支部だより第三十六号発刊予定

遠藤善則 記

仙台支部

平成二十八年秋から二十九年の夏までの間の仙台支部は、平穩に推移しました。以下にこの間の活動状況を報告します。

仙台興讓館の現況

長い間不振だった寮生募集が、改修による居住環境の改善もあつてか、昨二十八年は好調で満室となった仙台興讓館ですが、この三月末、四名の寮生が社会に巣立つて行きました。生じた欠員は、同数の新入寮生により充足でき、昨年に引き続き定員十五名を満たすことができました。今後ともこの状況が続くようにしたいものです。四月十五日の新入生歓迎会には、寮生十五名全員と中條仁顧問をはじめとする支部会員十名が参加し大いに交歓しました。

今回の入寮募集では、応募者が募集人数を超えるという長い間なかった事態が起きました。応募者が多いことは嬉しいことではありますが、二名の応募者の入寮を認めることができなかったことは非常に残念なことで

す。

大学生を取り巻く経済環境は厳しく、政府は今年度から給付型奨学金の一部導入を決定しました。今回の寮生募集結果は、このような状況を反映しているのかもしれませんが。来春は二名の募集になります。

支部行事

・秋の交流会（芋煮会）二十八年十月八日

会場 仙台興讓館

参加者 会員七名、寮生十二名、計十九名

この日はあいにく朝からの小雨で、会場を寮の食堂に変更、米沢から取り寄せた材料で、寮生の味付けも上々でした。

・二十九年年度支部通常総会・講演会・懇親会

二十九年六月三日

会場 仙台ビジネスホテル 参加者十七名

〔総会〕 事業報告、決算・予算、事業計画の通常の議題の他に、当支部初めての支部規則が審議、制定されました。

〔講演会〕 講師 鈴木修治氏（昭和二十三年米沢市生まれ、昭和五十一年東北大学医学部卒、昭和六十二年東



支部総会 29年6月3日

北大学抗酸菌病研究所助手、米国立衛生研究所（NIH）留学を経て平成八年仙台市保健福祉センター所長、二十一年仙台市太白区副区長、二十六年（公益財団）宮城県結核予防会健康相談所興生館所長、米沢有為会仙台支部理事

講演題目 「宮城県における結核・肺がん検診の概要」

日本における結核の現状 昭和二十年代まで、日本



講演会 29年6月3日

人の死亡原因の第一位で、不治の病と恐れられた結核は、その後の生活水準の向上、診断法と治療法の進歩により罹患率及び死亡率は激減している。しかし、毎年約二千人の死亡者が出ており、まだ撲滅されてはいない。日本の現在の結核罹患率は人口十万人対十四・四人（総人口に対し一万八千人）である。高齢になると罹患率は高くなり、六十歳以上の新規患者が新規患者全体の七十一%を占めている。また、海外生まれの患者の割合が高い。WHOの定義では未だ中蔓延国で、平成三十二年（二〇二〇年）までに欧米先進国並み（アメリカ三・一、ドイツ四・九）の低蔓延国を目指して対策が進められている。ちなみに高蔓延国はアジア、アフリカの国が多い。

診断と治療 よく知られているツベルクリン検査とともに、より特異性の高い、QFT、Tスポット検査などが開発された。治療薬としては、現在、廉価で有効な合成抗結核薬イソニアジドが用いられている。

こうした進歩により結核にかかる医療費は、昭和二十九年の五百九十二億円から平成二十五年の二百六十五億円と半分以下に減少している。

一方、肺がんは、日本人の死因の第一位である「がん」の中でも、難治性のため現在日本で最も死亡数が多い

くなっていることから、早期発見がきわめて重要である。早期発見には年一回の胸部X線検査及び喀痰細胞診による肺がん検診が有効とされており、検診により発見された早期肺がんにおける根治の割合も高くなっている。

宮城県の結核・肺がん検診 宮城県結核予防会では、宮城県内全域において結核・肺がん検診を実施し、県民の結核の撲滅及び肺がん対策協議会と共に肺がん死亡率の抑制に努めている。平成二十六年宮城県内で結核予防会が行った結核・肺がん検診の総受診者数は二五三、八一四名であった。

結核検診は「学校保健安全法」により小学校から大学まで児童・生徒・学生を対象に実施されている。合計四五、八一一名が受診したが、結核と診断されたものはなく、非結核性肺疾患が七名見出された。

住民健診は結核・肺がん検診として実施され、次の結果が得られた。

結核 精検受診者五、三九一名の内、結核として要治療二名、要観察二八名

肺がん 肺がんの疑い五、六三一名の内、二〇四名が肺がんとして診断された。



懇親会 29年6月3日



夏の交流会 29年8月5日

・夏の交流会（花火鑑賞会）

二十九年八月五日

会場 仙台興譲館

参加者 会員五名 会員

親戚等二名 寮生七名

この夜は雲が低く垂れ込め、一万六千発の花火はことごとく雲の中に吸い込まれてしまいました。肝心の花火が開く様子は全く見えず、雲の中が明るくなり、音だけが聞こえるだけという何とも珍妙な花火大会でした。しかし、テーブルには花が咲きました。というのは、東京から若いお嬢さん二人（会員の姪御さんとそのお友達）の飛び入り参加があったからです。

甲 國信 記

北海道支部

平成二十八年度の北海道支部総会は、例年どおり勤労感謝の日十一月二十三日、札幌ススキノの「ジャスマックプラザ」にて開催されました。

今回は十一名の出席のもと、無事に総会を終了し、その後、懇親会に移り、郷土の今昔の情報交換等で盛り上がり、久し振りに親交の時間を楽しく過ごす事ができました。

また、例年の大行事、芋煮会は九月二十五日、札幌市が誇る農業テーマパーク「サッポロさとらんど」の炊事広場にて開催されました。

鶴城工親会北海道支部との共催とさせて頂いてきましたが、工親会様には、毎年、準備等々、大変お世話になっております。

当日は、早朝から会場の設営、米沢地区から取り寄せた里芋、米沢牛等を皆で楽しく下拵え、家族や知人を含めて総勢約五十名参加のもと、一年振りに故郷の味をたつぷりと楽しく堪能する事が出来ました。

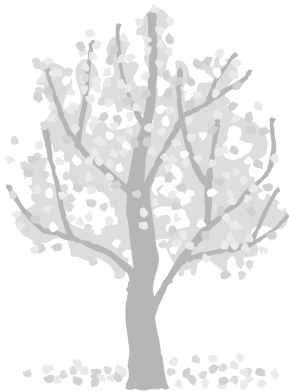
本芋煮会は、近年、会員参加者の高齢化が進み準備等

も大変な苦労と努力等が必要であり、継続して行く事に種々問題が生じて来ております。

従いまして、来年度以降の開催について近々鶴城工親会の役員会に於いて協議を行う事になっていると伺っておりまして、有為会としても検討余儀無い状態になっております。

一週間後の日曜日は、例年通り山形県人会の芋煮会、二百八十名の参加のもと開催され、二週間続けて参加された人も沢山おられました。

田村邦夫記





興讓館寮だより

東京興讓館

中川 陸

日頃から寮の運営、寮生へのご支援等にご尽力を頂いております米沢有為会の皆様に、今年度の東京興讓館寮の近況を報告させていただきます。

新入寮生八名を迎えて

今年度の東京興讓館寮では新入寮生を八名迎え、計二十四名で新たな生活を迎えました。昨年度まで空き部屋が多数あり、寮内の活気の面でも多少の懸念も感じられましたが、すべての部屋が埋まり昨年度よりもさらに活気ある生活のスタートを切ることができましたことを大変嬉しく思っています。初めは緊張や不安も感じられた新入寮生でしたが、四月に行われた新入寮生歓迎会を機に日々の生活を通し先輩方との仲も深まり、寮生としての自覚も芽生えてきたように感じられます。また、今年の新入寮生はとても元気がよく物事に積極的に取り組む姿勢が見られ、同じ寮生活を送る私達にとってもいい

刺激になっています。これも寮の活気が高まった一つの要因になっているのではないかと感じています。

寮生活の在り方

寮生活において寮生同士のコミュニケーションが欠かせません。日頃からお互いに指摘し合いながら生活していくように心がけていますが、大切なのはお互いに支え合い刺激し合いながら自分自身を高めていくことだと考えています。これは一人暮らしでは経験できない大切なことのひとつだと思います。また、寮生同士で酒を酌み交わしあったり、寮母さんが毎日作ってくださるおいしいご飯を頬張りながら、将来について語り合うのもお互いの近況報告をするのも寮生活ならではのことで、そうした貴重な経験ができることもとても魅力的であると思います。自分には足りないものは何か、学ぶべきものは何なのかをそれぞれが明確にして日々の生活を送ることが何よりですし、そうしたことも寮生活だからこそ経験できることだと考えています。そしてこの寮のOBには、いまもなお日本でそして世界でご活躍されている先輩方が多数いらつしやいます。そのような方々から貴重なお話をお聞きたり、様々なことをお教えしていただくことは普段ではめったに経験できないことで、私たち

もとてもいい経験をさせていた দিয়ে おります。一方、「学ぶ」という面では、四年生の梅沢君は六月から語学勉強を兼ね南アフリカへ留学しています。同じ寮生からこうした自分のやりたいことを見つけ行動に移す姿を見ると、私たち自身にもとてもいい刺激になり、先輩や後輩など様々な関係を広げていくことで、物事に対する考え方や見方が変わり必ず自分自身のためになると思います。様々な大学の学生が集っていますから、その分野ごとの知識や自分とは異なった感性も身に付けられるはずです。このように東京興譲館寮では寮生それぞれが目標を持ち、その目標に向かって励まし合いながら生活していくことで自主性や協調性を身に付け、これからの社会に出るための最高の準備ができると考えております。こうした生活を共に経験した仲間とは自分にとって大切な存在だと思います。自覚をもつて行動する、規則を守るということは当たり前のことですが、その当たり前のことをしっかりとこなしていく力をつけていきたいと考えております。

最後になりましたが、私達がこのような素晴らしい環境で生活し勉学に励むことが出来るのも、館長をはじめ、寮母さん、米沢有為会の皆様の支えがあつてのことです。

その感謝の気持ちを私達が行動で示しさらに努力してまいります。改めて東京興譲館寮を宜しく願います。最後に、寮生の紹介をさせていただきます。

○大学院生

三浦 啓希〔早稲田大学大学院文学研究科〕

（山形東高校）

柏倉 全一〔早稲田大学大学院政治学研究科〕

（山形南高校・立教大学）

○四年生

星 悠一郎〔早稲田大学法学部〕

（米沢興譲館高校）

相澤祐一郎〔高千穂大学商学部〕

（南陽高校）

稲葉 光〔青山学院大学教育人間科学部〕

（基督教独立学園高校）

梅沢 晃徳〔中央大学法学部政治学科〕

（米沢興譲館高校）

梅沢 剛英〔法政大学社会学部社会政策科学科〕

（米沢興譲館高校）

木村 威人〔専修大学人間科学部社会学科〕

〔山形中央高校〕

武田 和樹〔駒澤大学仏教学部仏教学科〕

〔米沢興讓館高校〕

○三年生

遠藤勇太郎〔国士舘大学文学部史学地理学科〕

〔日大山形高校〕

五十嵐篤志〔東京外国語大学国際社会学部〕

〔山形東高校〕

加藤 翔〔慶応大学商学部〕

〔米沢興讓館高校〕

中川 陸〔国学院大学文学部外国語文化学科〕

〔米沢興讓館高校〕

我妻 裕哉〔城西国際大学メディア学部〕

〔米沢興讓館高校〕

○二年生

大亀 雅秀〔明治大学商学部〕

〔米沢東高校〕

中村 大真〔東京外国語大学言語文化学部〕

〔高卒認定試験合格〕

○一年生

梅津 琉也〔法政大学文学部〕

〔米沢興讓館高校〕

後藤 弘樹〔城西大学理学部〕

〔米沢中央高校〕

坂本 啓輔〔早稲田大学先進理工学部〕

〔米沢興讓館高校〕

瀬野友太郎〔中央大学経済部〕

〔山形市立商業高校〕

富取 俊馨〔首都大学東京都市環境学部〕

〔米沢興讓館高校〕

中澤 世阿〔東京大学理科一類〕

〔開智高校〕

野呂 岳志〔玉川大学教育学部〕

〔昌平高校〕

我妻 清文〔二松学舎大学文学部〕

〔米沢工業高校〕

○寮母

福田 富子

〔長野市出身で昨年の四月に就任〕

仙台興讓館

大河原 和馬

十月二十二日に日本に上陸した台風二十一号の影響で全国的に大雨に見舞われ、またそれまでの残暑とは打って変わって仙台でも気温が十度程度の日が続き、学校や街中でもコートをかきた人を多く見かけるようになり年の終わりが近づいてきたと感じられる季節となつてまいりました。

さて、今年度に入りまして院生一名、四年生三名が退寮され、空き部屋の懸念がされましたが幸いにも入寮の応募が非常に多く、新たに四名の寮生を迎え入れることができました。

昨年六名が入寮したことで満室となったことに続いて今年度も満室となりました。日頃から熱心な広報活動をしていただいた先生方には心より感謝申し上げます。寮生が多いことで寮費や各係り分担、掃除等の一人当たりの負担が軽減されたことに加え、各寮行事や日々の寮生活がとて賑やかになり有意義な寮生活を送ることができています。

現在、一年生四名、二年生六名、三年生四名、研究生一名の計十五名の寮生で生活しております。来年は二年生のうち二名が退寮予定なので、その空きを埋めるために寮生自らポスター配布などを通して寮生活の魅力を発

信し、寮生募集活動に注力していきたいと考えております。

寮生活には一人暮らしにはない魅力があります。毎晩寮生と夕食や様々な日常生活を共に過ごすことで、学校やサークルの枠を超えた深い交友関係を築くことができます。それに加え興讓館寮では寮母さんに朝夕のご飯を出していただいたり、寮生が同郷であったり高校が同じで親しみやすいなどの他の寮にはない魅力が多いと感じています。このような魅力を仙台に進学予定の学生に広報活動を通して伝えていければ来年度だけではなくまたその先の募集活動にも良い影響をもたらしてくれると考えております。

最後になりましたが、私たちの寮生活は有為会の先生方や寮母の小野寺さんをはじめ、多くの方々の支えによって成り立っています。そういった方がたへの感謝を忘れることなく、寮生一同有意義な寮生活を送ってまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆仙台興讓館寮生名簿 H29・4

梅沢 謙吾（東北大学経済学部1）

（米沢興讓館H29卒 米沢市出身）

佐藤 大貴

（東北工業大学工学部1）
（米沢工業H29卒 高島町出身）

- 島貫 英佑 (東北文化学園大学医療福祉学部1)
 (米沢東H29卒 川西町出身)
 渋谷 拓 (東北大学工学部1)
 (米沢興譲館H29卒 米沢市出身)
 伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイオ系2)
 (米沢興譲館H28卒 米沢市出身)
 中嶋隆之介 (東北福祉大学健康科学部理学療法学科2)
 (米沢興譲館H28卒 米沢市出身)
 二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部2)
 (米沢東H28卒 米沢市出身)
 宮田 直輝 (東京IT会計専門学校仙台校会計学科2)
 (置賜農業H28卒 川西町出身)
 山路 啓太 (東北大学法学部2)
 (米沢興譲館H28卒 川西町出身)
 山本慎一郎 (東北大学工学部電気情報物理工学科2)
 (米沢興譲館H28卒 米沢市出身)
 大河原和馬 (東北大学経済学部3)
 (米沢興譲館H27卒 米沢市出身)
 坂本 雄哉 (東北大学歯学部3)
 (米沢興譲館H27卒 南陽市出身)
 松井 結大 (東北福祉大学教育学部3)
 (米沢興譲館H27卒 福島市出身)
 山口 憲武 (東北大学文学部3)
 (米沢興譲館H27卒 米沢市出身)

西京 毅 (東北大学工学部研究生)
 (米沢興譲館H25卒 米沢市出身)
 寮母 小野寺真知子



新入生歓迎会 29. 4.

学生寮紹介

公益社団法人
米沢有為会だより号外
米沢支部 第8号

米沢市金池5丁目2番25号（米沢市役所内秘書広報課内）

本会は青少年の育英事業を柱とし、郷土出身者の交流を通して郷土愛を育み、郷土発展を願って有為な人材育成を明治22年から120余年間継続しています。先人の努力はいま、私たちに受け継がれています。
育英事業の柱である奨学金制度と、学生寮興譲館のご案内をいたします。

有為会学生寮のご紹介

東京興譲館



東京興譲館は、都内およびその近郊の大学に通う学生が共同で生活しています。

1. 寮費が安く、しかも光熱費や水道代もその中に含まれています。
2. 美味しいご飯を作ってくれます。寮母さんがいます。寮生が病気になる時、親身になってお世話してくれまます。また、近くに大学の付属病院があります。
3. 寮生の大半が置賜出身なので、すぐ仲良くなれます。最近では県外の出身者も増えており、色々な大学に通学している仲間がいます。都内のどの大学にも通学可能です。

4. 部屋は一人部屋なので、プライベートも万全です。勉強や調べ物で集中したい時も大丈夫です。
5. 寮の周りには24時間営業のスーパーやコンビニ、多くの飲食店などがあるので立地条件もいいです。
6. 歓迎会や寮祭等の楽しい行事があり、また米沢有為会東京支部主催の新人生活歓迎会や予餞会でも寮生を温かく見守ってもらっています。寮内では学生や会員対象の文化講演会が年に4回ほど実施され、各寮で活躍されている方から直接お話を聞くことができます。
7. 寮では役割を分担して寮生全員で運営しています。年2回の大掃除も行います。そうした仕事を通して成長できらし、何より一人暮らしでは決して経験することはできません。
8. 寮という共同生活において挨拶やマナーなどの当たり前なこととはしっかりとていかなければなりません。他の寮生との交流や寮の行事には積極的に参加し、お互いに成長していくことを意識して生活していきます。自分も東京興譲館に入ってから多くの経験をしました。一番の経験は常に自分とは違った感性を持つ人と接すること、物事に對する考え方や捉え方が変わりました。交流の幅が確実に広がりました。一人暮らしではなく、東京興譲館に入ってから本によかったことです。

東京興譲館寮にきていただければ、自分のように成長を実感できると思います。都内の大学に進学を希望されている皆さん！一緒に楽しく有意義な学生生活を送ってみませんか？
東京興譲館寮にてお待ちしております。
(寮長・中川 陸)

仙台興譲館



歓迎会



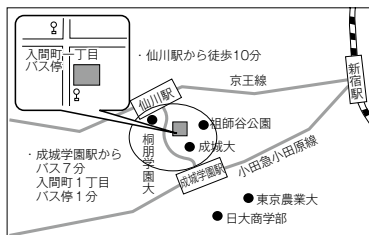
仙台支部学級会

今年度、仙台興譲館には4名の寮生が入寮し、1年生4名、2年生6名、3年生4名、研究生1名の計15名で生活しています。昨年度、今までの仙台興譲館を支えてくださった4名の先輩方が卒業され、新しく1年生が加わり、寮の寮生同士が大きく変わりました。寮生同士の交流も盛んでとても活気の溢れる寮生活を送っています。寮母さんとの関わりも以前より増え、さらに快適な環境で勉学に励むことができています。「この寮に入ってからよかった。」そんな声も寮生の間から多数聞かれるようになり、自分たちは本当に恵まれた環境にいるのだと実感しています。そんな寮を提供してくださっている先生方には本当に感謝で一杯です。これからさらに活気あふれる素晴らしい寮を作っていくため寮生一同さらに励んでいきたいと思います。
(寮長・松井結大)

東京興譲館寮：東京都調布市入間町 1 - 36

TEL：03 - 3309 - 3302

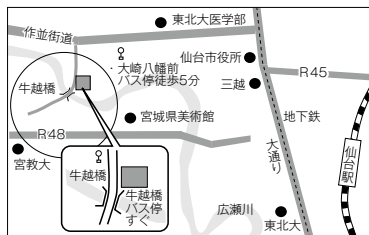
新宿駅から約40分。



仙台興譲館寮：仙台市青葉区角五郎 2 - 6 - 21

TEL：022 - 222 - 4790

中心市街地から約3km。



米 沢 有 為 会 育 英 事 業 の

学 生 募 集

置賜地域3市5町の在住者・出身者のお子さんを対象に募集しています（在学者も可）。

☆ 寮生募集（平成29年度）

これだけ便利・これだけ安い・これだけ快適

- ◎寮は2食付（朝・夕）で約4.8万円（東京）、約4.2万円（仙台）
- アパートで生活する場合
 - 東京（郊外）で5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り額約10万円程。仙台で4万～5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り約8.9万円程。
- ◎東京興譲館寮は新宿駅から約40分。仙台興譲館寮は市街地まで約3km。
- ◎居室（東京）個室。（仙台）個室。
- ◎企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。（協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。）

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資 格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院進学または入学予定者（男子のみ）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）
寮費（月額）	（2食付）4～6月、10月～11月 48,000円 （光熱費含）7～9月、12～3月 49,500円	（2食付）夏季：42,000円程度 （光熱費含）冬季：44,000円程度
募 集 人 員	7名（定員24名）	1名（定員15名）
面接選考日	1月14日(日)、3月11日(日)、3月24日(土)	3月11日(日)、3月22日(日)
面 接 場 所	東京興譲館、米沢市内	米沢市内、仙台興譲館

☆ 「米沢有為会奨学金」貸費生募集

▶対象／4月に大学・大学院へ入学予定者、または
大学生・大学院生

▶貸費額／月額40,000円▶募集人員／5名程度

▶面接選考日／3月下旬▶場所／伝国の杜

※詳細はホームページをご覧になるか、所属
高校進学指導担当の先生にご相談ください。

【(公社)米沢有為会ホームページ】

<http://www.yonezawa-yuuikai.org/>



仙台興譲館寮



東京興譲館寮

我妻榮記念館だより

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越され、大友家がいを受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建設業者に渡りました。

老朽建設物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月十九日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）
二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）

三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年五月）
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～）

○平成二十八年度の運営報告

・年間開館日

通常開館日…毎週月・木・金・日曜日の午後一時～

四時 二〇一日開館

臨時会館…十日開館 合計二二一日開館

・入館者数 四六三名（二十七年度は二四三名）

二十七年度は五月二十五日から九月三十日まで、記念館の劣化改修工事で閉館としたため、来館者は例年の半数であった。

・記念館の利用 五一二名（二十七年度は三三七名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会等が利用

・施設整備等

屋根塗装工事、天井裏猫侵入口ふさぎ工事、樹木の刈込及び消毒を実施
・資料整備 著作を（株）ジーエスデザインがpdf化、

米沢工業高校専攻科がホームページに掲載した。

● 備品購入・整備

除雪機の定期点検及び電話機の交換

● 印刷出版

記念館だより第二十一号発行（十月二十七日）市

内各施設、弁護士会、法学部のある大学など三七五箇

所に送付

● その他

県立米沢興譲館高校の自頼財団奨学生と保護者の清

掃奉仕と館長講話（六月十九日）

運営会議（十月二十日、三月二十三日）

○平成二十九年度の運営計画

● 開館日は、月・木・金・日曜日の四日間午後一時～四時

● 記念館の補修整備（畳替え）

● 記念館の資料整備（著作）

● 記念館だよりの発行（十月頃）

● 運営委員会（年二回）

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、管理運営しています。

名誉館長 我妻 堯

顧問 小関 薫・上村 勘二

館長 矢尾板 操

管理人 手塚 正

運営委員 安部 敏、五十嵐京子、高橋 節子、

本多 和彦、佐藤 繁、神保 厚、

山田隆弘



我妻栄記念館

米沢有為会「文化大学」

第二十回文化大学

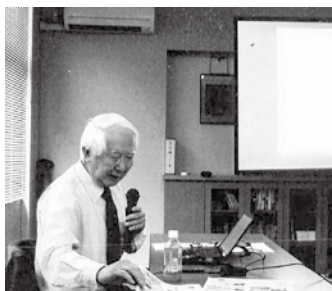
平成二十八年九月二十五日（日）

於・東京興譲館

今後の日本の有人宇宙開発について

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 名誉教授

上 杉 邦 憲



ガガーリンに始まる米ソの有人宇宙開発競争は冷戦の産物という側面が否めず、国威発揚が主目的で、科学探査の比重は小さかったと言わざるを得ません。

アポロ計画は一九六九年のアポロ11号から一九七二年の17号まで続けられ、合

計十二人が月に送られましたが、人類はその後に月に行っていないし、現在はその能力を持っていません。

宇宙探査と聞いて多くの人が興味を抱くのは火星でしょう。アメリカは「二〇三〇年までに有人火星探査を行いたい」としていますが、アポロの時代と同じく、その主目的は国威発揚であるように感じられます。

また、有人探査では費用対効果の問題も大きく、アポロ計画のように莫大な資金を投じてでも、それに見合った科学的成果がなければ意義が薄いでしょう。

有人探査がその先に想定しているのは、有用な資源の発見や、地球外惑星への人間の定住という見方があります。

二〇〇九年七月にNASAが公聴会を開き、これからの宇宙探査、特に有人探査はどうあるべきかについて議論しました。議長は宇宙探査の意義を「人類の文明を地球外に広める」と総括し、「いずれ火星に恒久的に人類を存在させる。そのためにはコストがかかり、強力なサポートを必要とする」と述べ、NASAに「火星の有人探査予算をつけて欲しい」と言っています。「科学的探査には有人探査が必要」では予算を得られにくいいため、このような表現をしたのだと思われます。

では、実際に「火星に人類を定住させる」ことは可能でしょうか？

火星の大気は一〇〇分の一気圧程度で、酸素も水も殆どありません。気温は場所によりマイナス一〇〇〜〇℃ほど。重力は地球の約三分の一で、磁場がほとんどないため大量の放射線が降り注ぎます。

たとえ空気や水は供給できたとしても、火星の重力に適合して育った定住者の二世、三世は地球に還ることができないはずです。

最大の問題は放射線で、火星への旅では一年で六六〇mSv（ミリシーベルト）の放射線を被爆すると言われています。地球上で人が浴びる放射線は年平均一〜二・四mSv、レントゲン業務に携わる人の年間許容被爆量上限は五〇mSvです。

宇宙飛行士の若田光一氏は積算でほぼ一年宇宙に滞在し、約三六〇mSvを浴びました。人は一〇〇〇mSvを被爆すると命にかかわるので、約三年はかかる火星までの往復は困難で、まして定住など不可能と言ってよいでしょう。

民間人の宇宙旅行は将来の有力分野

これからの有人宇宙開発の意義は、国威発揚以外に求めらるべきであり、私は有人宇宙開発を「友人宇宙開発」にすることを提唱します。それは、誰もが簡単に宇宙に行けるようになるための開発を意味しています。

日本は国際宇宙ステーション（ISS）に実験装置「きぼう」や補給機「こうのとり」を送り込み、宇宙飛行士も活躍しています。しかし、そのISSの運用は二〇二四年に終了予定で、その先の有人宇宙計画について、国として指針は未だ定まっていません。

一方で、民間による「友人宇宙探査」に関して、世界の動きは活発になっていきます。

例えば、地球周回軌道上に「宇宙ホテル」を打ち上げる計画があります。

宇宙ホテルの内部に空気を満たします。円筒形のホテルを回転させて、壁際に1Gの重力を与えても、回転軸の辺りは無重量なので、水を張れば壁際は普通のプール、回転軸の付近では水玉が浮いたりすることになります。また、腕に翼を付けて鳥のように飛ぶこともできます。こういうホテルを想像すると、夢が膨らみます。

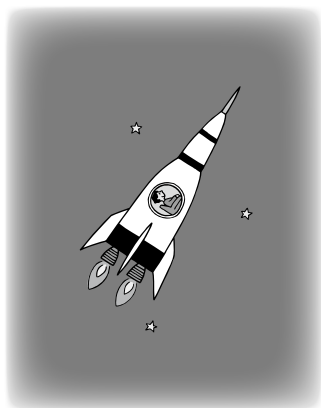
ただし、放射線の影響を受けるため、従業員が長期間

そこで働くことはできず、宇宙ホテルのスタッフの多くはロボットになるでしょう。

そうした宇宙旅行のために、アメリカは既に十カ所ほどの商業用スペースポートの建設を認可しています。他に世界八カ国で同じような構想が練られています。

日本では、北海道大樹町の広大な敷地を利用して、ロケットの打ち上げも可能な総合的なスペースポートを造る計画があります。

火星移住のような非現実的な宇宙開発より、私たちは「友人宇宙開発」の分野に力を入れるべきではないでしょうか。



第二十一回文化大学

平成二十九年四月二十九日(土)

於・東京興譲館

鎌倉の緑と景観を守るNPO

日本景観学会理事 渡辺 光子



(一) 鎌倉の緑と風致を守る市と市民

鎌倉市(人口十七万人余)は海に面し三方を丘陵に囲まれている。森林や緑地は、社寺や文化財と同じく鎌倉らしい景観を形成する重要な要素である。しかし、戦後の大規模開発などにより、樹林被率は三二・四八%(二〇一三年市統計)にまで減少し、谷戸(やと)切通し、やぐらといった鎌倉特有の風致が大分失われた。このため、鎌倉市は三十四もの法令などを駆使し保全に努めている。市域の五五・五%を風致地区に指定し、低層建築や緑化を市民に義務づけて

いる。結果、鎌倉は毎年二千万人もの人々が訪れる美しいまちとなった。

市民は、乱開発の計画が持ち上がる度に力を合わせ、緑と風致を守り続けている。

(二)「鎌倉風致保存会」による

日本初のナショナル・トラスト

東京オリンピックの年、鶴岡八幡宮の裏山（御谷の森、おやつのもり）を宅地開発する計画が持ち上がった。これを阻止するため地元住民、僧侶、文化人が立ち上がった。大佛次郎は、「市民から寄付を募り、残したい土地や建物を購入・保存する英国のナショナル・トラスト」を全国に紹介し、協力を呼び掛けた。「鎌倉風致保存会」を設立し寄付金で御谷の森を買収した。日本初のナショナル・トラストである。一九六五年には、超党派の議員を動かし「古都の歴史的景観を乱開発から守るための古都保存法」を誕生させた。こちらも日本初の世論立法であった。

(三) 市民参加で活性化

その後暫く休眠状態が続いた「鎌倉風致保存会」だが、

「人々の参加」によって活性化した。一九九六年から緑地保全作業のボランティアを募り一九九八年から会員制とした。現在四百五十人の会員が、四つのトラスト緑地約八万㎡と旧坂井邸洋館（昭和二年築、国の有形文化財、遺贈）を所有管理している。その財源となった寄付金は総額二億千七百万円（二〇一四年現在）にのぼる。

活動の中心は「みどりのボランティア」である。会のトラスト緑地、史跡、社寺など十一カ所で下草刈りや倒木処理といった作業を年四十回行い、延べ約二千人が参加している。市内の中学生七百人も山の手入れや海岸清掃に参加している。市内外の学校、企業、各種団体からも自然学習体験にやって来る。その他、里山ふれあい祭り、植樹会、栗拾いなど、会員自らが楽しい催しを企画し、参加の輪を広げている。市はハイキングコースのパトロール事業を委託し人材や資金面でも支援している。

(四) NPO（民間非営利組織）の目的は社会貢献

「人や社会の役に立ちたい」というのは人間の善性なのである。世界各地で、人々は結社し、社会貢献に励んでいる。国際調査によれば、こうした組織の呼称はまちまちだが、目的と要件は共通している。

「目的：公共の福祉への貢献即ち社会の課題解決。要件：組織、非政府Ⅱ民間、非営利Ⅱ利益の非分配、自治、自発性」。非営利組織は、事業収益から人件費などの経費を引いた純利を分配せず内部留保し、解散時には残余財産を公共団体やNPOに寄付することが法律で規定されている。

日本には、民法及び百二十余りの特別法を根拠とする多様なNPOが存在し、その数は年々増加している。NPO、企業、行政が各々の特性を生かし協働することで、より豊かな社会が創られる。NPOの草分けである「米沢有為会（公益社団法人）」には、奨学金と寮を媒介に、世代間の貴重な交流が常在する。この幸運な出会いを若者たちがどのように人生の糧とし、会と社会に還元していくのだろうか、大いに楽しみである。

プロフィール

仙台市出身 法政大学大学院博士課程（NPO研究）修了

神奈川県議会議員

宮城県環境生活部次長

現在「鎌倉市民フォーラム」代表

著書

「市民力を活かす」ランダムハウス講談社（二〇〇八年）
「NPOと自治体の協働論」日本評論社（二〇一二年）



第二十二回文化大学

平成二十九年七月八日(土)

於・東京興譲館

今も生きる上杉鷹山公

米沢市長 中川 勝



○上杉鷹山公の藩主としての心得

九州の小大名である秋月家に生まれた鷹山公が上杉家の養子になり、米沢藩の世継ぎとなったとき、まだ

十七歳の少年であった。そのときに詠んだのが次の誓文である。

「受け継ぎて 国の司の身となれば 忘るまじきは 民の父母」

鷹山公の「なせば成る なさねば成らぬ 何事も 成らぬは人の なさぬなりけり」という有名な言葉があるが、意味するものは、「綿花やミカンの生産など雪国、極寒の地ではできないものに時間を費やしても労力の無駄

だ。この米沢でできるものに全力で取り組み資源を生産することでより高い収益をあげることができる」という教えであったと考える。そして、この教えは、今の「地方創生」にも通じるものである。

鷹山公は、任について数年後厳しい財政状況の中、閉鎖されていた藩校を再興し、興譲館と名づけた。館長には当代屈指の学者で鷹山公の師、細井平洲先生を招いた。平洲先生は鷹山公に君主としての心構えを教えられたが、その中でも「学思考相まって良となす」―学んだことはよく考え、実践して初めて学んだことになる―という教えは、今も私どもの市政運営に通じるものである。

○米沢市の概況と今後の抱負

平成二十四年度の情報電子製造業・機械電気製造業・繊維衣服製造業などの製造品出荷額は、五、三七一億円で東北地方において第六位であった。平成二十八年三月に、今後十年間のまちづくりの指針を示す「米沢市まちづくり総合計画」を作成した。『ひとが輝き 創造し続ける 学園都市・米沢』を将来像に掲げ、本市の地域特性の一つである「学園都市」に着目し、山形大学工学部、県立米沢栄養大学、県立米沢女子短期大学の発展を支え、大学と連携し挑戦する企業、共同研究する企業の育成に

努めたい。また、今注目を集める有機エレクトロニクス等新分野から大学周辺に企業の研究所、試作開発施設、工場や地域企業の参画も促進し、政策支援をしたい。

上杉の城下町として、また、地域の豊富な観光資源を生かして、観光にも力を入れている。米沢牛は、農林水産省の地理的表示保護制度（GI）に登録され、日本三大和牛の一つとして一層のブランド化が期待できる。子牛一頭の値段が七十万円にも跳ね上がり、年間二、〇〇〇頭の出荷の目標には規模の拡大や子牛の値段の高騰など課題もある。

昨年度のふるさと納税の寄付額は、三五億三、四〇〇万円で県内トップ、全国でも七位だった。返礼品として八割の人気を集めたのが地元で製造されたノートパソコンである。しかし、総務省からの見直し通知により、ノートパソコンの返礼は今年の七月末で終了した。

公立置賜総合病院は、置賜地方の二市二町（長井市・南陽市・川西町・飯豊町）と山形県が運営管理に当たり高度な医療ができる地域の拠点病院である。地域としては初めての救命救急センターも設置されている。

米沢市立病院は、施設の老朽化が進み、建て替えの検討に入っている。今年初め、市内の民間病院である三友

堂病院と統合・連携を図ることで合意し、医師の確保や救急・夜間診療など、地域医療を守る観点で連携しなければならぬ。

置賜三市五町のどの自治体も、少子化の影響で中学校の統廃合が進んでいるが、小学校の統廃合は地域住民の理解がないと進まない現状である。財政状況をみると、住民税・法人税・固定資産税等の税収入の占める割合は、支出の五五％であり、不足分は地方交付税で補われている。

高齢化が進んでおり、いつまでも元気に長寿社会を生き抜き地域の一役を担っていただくためにも、「健康長寿日本一」を目指し、対策本部を立ち上げた。いわゆるピンピンコロリの生き方を奨励したい。

置賜地方の三市五町は、いずれも止まらない人口減少の悩みを抱えており、今後ますます地域の連携が大事になってくる。置賜三市五町合意のもと、「定住自立圏構想」の中心都市としてリーダーシップを取り、置賜全体の活性化に向け取り組んでいく。地域の活性化のためにも、若者が郷里に戻りたくなるような市・町になるように努力してまいりたい。

プロフィール

【生年月日】

昭和二十五年七月七日生

【略歴】

山形県立米沢商業高等学校

卒

昭和五十八年四月 米沢市

議会議員初当選 連続五期

二十年を務める

平成九年五月 米沢市議会

議長

平成十五年四月 県議会議

員初当選 連続三期十二年を

務める

平成二十七年十二月 第

三十六代米沢市長



公立置賜総合病院



山形大学工学部

第一回野外文化大学

平成二十八年十月二十一日

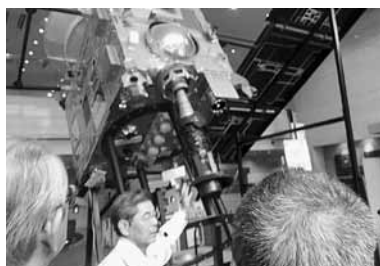
上杉名誉会長と行く

JAXA相模原見学ツアー

文化大学の野外版として、上杉邦憲名誉会長（JAXA名誉教授）が活躍されたJAXA相模原キャンパスの見学ツアーが、二十三名の会員参加のもと行われました。

JAXA相模原は、二〇一〇年に奇跡の帰還を果たした小惑星探査機はやぶさで一層有名になったところです。

一般展示エリア（はやぶさなどの衛星模型、ロケットの歴史パネル、ビ



デオ鑑賞など）に加えて、上杉名誉会長のお計らいで特別に、衛星の組み立て・検査エリアや、はやぶさの管制が行われた衛星管制ルームなども見学することができました（撮影禁止）。

案内役は、JAXAの並木道義さん。並木さんは、今は広報・普及担当ですが、かつては西村純会員（東大・JA

XA名誉教授）のもとで科学観測気球研究に携わり、はやぶさ回収にも関わった方です。会員から活発な質問が出ましたが、深い専門知識をベースに非常にわかりやすい説明をしていただきました。

現在六台の衛星を監視している衛星管制ルームでは、上杉名誉会長のはやぶさ追跡・回収のお話で盛り上がりました。地球



から電波を送って返答があるまで三十五分かかる中で、苦勞、音信不通となつてから回復まで待った二か月間、回収の模様などを興味深く聞きました。上杉名誉会長は地球帰還の際のカプセル切り離しの技術にも関与され、回収の際はさすがにハラハラされたそうです。

さらに、屋外のロケット実物展示、隣接の相模原市立博物館・宇宙展示エリアを見学し、淵野辺駅前の居酒屋での懇親会で親睦を深め、散会しました。

(記・加藤国雄)



第二回野外文化大学

平成二十九年六月二十三、二十四日

NEC米沢、市立米沢図書館見学

当会定時総会に合わせ、野外文化大学が実施されました。



NECパーソナルコンピュータ
米沢事業所

NEC米沢工場見学

総会前日午後、米沢駅東口近くの標記工場を訪問しま

した。ここでは、世界最軽量のパソコン（PC）が生産されています。

三十年前本社や中核工場の下請けだったこの米沢工場（旧・米沢製作所）が、工場独自技術でのノートブックPCの開発で、NECの中核工場になりました。

ビデオなどによる製品や生産工程などの説明の後、工



工場内、3人1組での組み立てライン

場見学となりました。

ユーザの仕様に合わせると二万種類となるPCを一日最大で二万台以上、受注して最短三日で作っているそうです。これを実現するのが、多品種少量生産を可能にする「セル生産方式」。ベルトコンベア方式でなく、一か所で少人数が製品を組み立てる方式です。部品が、「かんばん方式（トヨタ生産方式）」で即座に届きます。PCの販売状況をモニター・予測しながら生産計画が立てられ、部品等の納入業者へきめ細かく発注するサプライチェーンを確立することで無駄のない迅速な生産を実現しています。

二フロアから成る生産現場でしたが、空間的なゆとりが感じられました。本事業所幹部であった種村米沢副支部長によれば、以前近くにあった部品倉庫が必要なくなり、生産や部品供給の合理化とPC自体の小型化で省スペースの生産を実現しています。

従業員のアイデアが随所に生かされ、「日本のモノづくり」の健在さを実感しました。

市立米沢図書館ナセBA見学

総会当日の午前、標記図書館を訪問しました。

昨年七月一日に新装オープンし、図書館と市民ギャラリー（一階部）からなります。愛称「ナセBA」は上杉鷹山公の名言「なせば成る」が由来です。当会新会長・大滝則忠さん（前・国会図書館長）も基本計画策定委員長として関与されました。



ナセBA全景
所在；米沢市中央 1-10-6

村野隆男館長にご案内いただき、一般利用者が入れない郷土資料収納スペースなども見学させていただきました。



図書館フロア（2F）

一階が市民ギャラリー。図書館は二階ですが、写真のように四フロアぶち抜きと開放的な空間にあります。旧

図書館に比べると郷土の図書を含め開架図書が圧倒的に増え、閲覧スペースもたつぷりあります。ITも活用し、休刊日を月一回に減らし、利用者本位の運営をしています。所在地はシャッターストリート化した市街中心部ですが、地域再活性化にも寄与しているようです。

未見の方には、是非の訪問をお勧めします。

なお、両見学先の掲載写真は、インターネットから採集しました。

米沢市長との懇談、懇親会

N E C米沢訪問後、米沢市役所を訪問し中川勝市長と懇談する機会を得ました。ふるさと納税返礼品として好評だったN E C米沢のP Cは、政府指針で不適となったそうです。なお、中川市長には、その後の七月八日東京での文化大学講師をお願い致しました。

その後、小野川温泉やな川屋旅館で懇親会が開かれました。

今回の企画は、訪問先との交渉やマイクロバスの手配など、米沢支部の多くの方のご尽力で実現しました。深く感謝申し上げます。

(記・東京支部長 加藤国雄)



市役所 庁議室

置賜市町だより

米沢市

『健康長寿日本一』を目指して!!

米沢市では、「健康長寿日本一」を目指した取り組みを平成二十九年度から推進しております。国民医療費は高齢化の進展や医療の高度化により年々増加しており、米沢市国民健康保険においても被保険者一人当たりの医療費は増加傾向にあることから、米沢市の将来にとって市民の健康づくりがいかに大切かを再認識したことが契機となり、「健康長寿日本一」の取り組みを始めました。

具体的には、市長を本部長とした推進本部と副市長を委員長としたプロジェクトチームを庁内に設置し、各課で健康を意識した取り組みが図られる全庁的な体制を整備しました。また、様々なイベントに際して「健康長寿日本一」を掲げ、市民一人ひとりの健康意識を高めるため、十月七日に開催された米沢市生涯学習フェスティバルでは、誰でも簡単にできる「タンタンタッチ体操」を介護予防推進員の協力をいただき披露しました。そして、

十二月三日には落語家の林家木久扇師匠と(株)タニタヘルスリンクの土志田敬祐氏をお招きして、「目指せ、健康長寿日本一!!」をテーマに講演会を開催しました。さらに、米沢市民の塩分摂取量が全国と比較して多いことが山形大学医学部の研究で示されたことから、米沢栄養大学に減塩をテーマにした業務を委託しました。

平成三十年度には、市内の様々な団体や関係機関によるオール米沢体制を整備して事業推進を図ります。特に少子高齢化へ対応するため、乳幼児から高齢者まで健康に生



健康長寿を目指した「タンタンタッチ体操」の披露

活ができ、高齢になっても地域で頼りにされ活躍できる社会を目指し、「米沢市まちづくり総合計画」が掲げる『ひとが輝き

創造し

続ける

学園都市

・米沢』

実現のため

「健康

長寿日本

一」事業

を展開し

てまいり

ます。



フードモデルを使用した「生涯学習フェスティバルでの栄養指導」

二〇二〇年東京オリンピック・

パラリンピック競技大会に向けて

本市では、今年七月七日に内閣官房が推進する二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに登録されました。ホストタウンとは、地方自治体が大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を行い、地域の活性化や観光振興を図るというものです。

そこで、二〇〇二年日韓ワールドカップで当時、大分県中津江村という人口千人程度の小さい村が、カメルーン代表チームの事前キャンプ地となり、その時起きたカメルーン代表チームの五日遅れのキャンプ地入り、それを健気に待ち続ける中津江村住民のエピソードは、連日メディアで取り上げられていました。そのようなアクシデントでも住民はカメルーン代表チームを応援し続け、友好を育んだものです。その結果、今でも交流が継続しており、中津江村はサッカーなどの合宿の聖地として認識されているようです。ホストタウンの目的もこのようなイメージを持つていただくと分かり易いと思います。今後、本市では香港と、フェンシング競技を通じたホス

す。また、本市を中核とする山形県フェンシング協会は、アテネ・北京オリンピックに出場した池田めぐみ選手が所属しており、各年代の世界大会出場選手などが多数所属する東北有数の団体でもあります。さらに、来年二月に行われる香港フェンシング協会ジュニアチームの合宿



市役所正面に掲げた横断幕

トタウンを推進していきま
す。なぜ香港・フェンシングなのは、平成四年に開催されたべにばな国体をきっかけに、現在でも盛んにフェンシング競技が行われていま



米沢市で合宿予定の
日本ナショナルチーム練習風景

地に、本市が推薦されました。また、本市には香港と関連のある会社もあります。そして、山形県と香港の交流を深める山形日本香港協会が再開されたことでホストタウン登録に繋がりました。
最後に、大会の成功は勿論のこと、本市住民と大会関係者や外国の方々との交流を通して、スポーツの振興と地域の活性化を図るべく、米沢有為会の皆様からのご支援ご協力をお願いいたします。

祝開通 東北中央自動車道

福島大笹生IC～米沢北IC

平成二十九年十一月四日、東北中央自動車道福島～米沢間が待ちに待った開通の日を迎えました。山形福島両県合同の開通セレモニーでは、国土交通大臣をはじめ県知事、市長などによる、くす玉開き・テープカットが行



山形福島両県合同の開通セレモニー

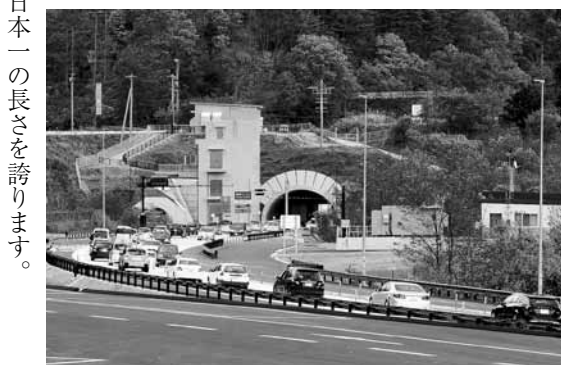
われました。

県ごとに分かれての山形県側式典では、米沢市立第七中学校吹奏楽部の演奏や、梓山獅子踊りが披露され、式典に華を添えました。

今回の開通区間には、トンネルや橋梁

などの構造物が多く整備されました。中でも、山形

県と福島県の県境に整備された栗子トンネルは延長八、九七二mの長大トンネルで、道路トンネルとしては全国でも東京湾アクアトンネルに次いで五番目に長く、東北地方では最長であり、無料



開通後の状況（栗子）

トンネルとしては日本一の長さを誇ります。

国道十三号の栗子峠では、冬期間、急勾配箇所での車が立ち往生していました。栗子トンネルは、国道十三号に比べ最高地点の標高を約一九〇m下げ、また約九kmの長さで風雪などの影響を少なくしています。東北中央自動車道の開通によって、福島～米沢間の所要時間は約二十分短縮され、栗子峠における通行の不安が大き

く軽減するものと期待されています。

東北中央自動車道は、南陽高島IC～山形上山IC間の開通も平成三十年度に控えており、県内外の交流促進、地域経済の振興が図られるなど、今後の本市はもとより置賜地域や山形県の発展に大きな効果をもたらすことが期待されます。

道の駅「米沢」平成三十年四月二十日オープン ～オール米沢（置賜）を体感・創造・発信する道の駅～

道の駅「米沢」は、平成二十九年十一月四日に開通した東北中央自動車道の米沢中央インターチェンジと主要地方道米沢高島線に隣接した場所に位置し、山形県と米沢市の一体型の道の駅として平成三十年四月二十日のオープンに向けて工事が進められております。

この道の駅は、地方創生拠点となる「ゲートウェイ型の道の駅」として、平成二十七年一月に国土交通省から「重点道の駅」の一つに認定されました。

また、平成二十九年十一月十七日には県内二十一番目の道の駅として登録され、「米沢」を含む十七駅が追加登録され全国の道の駅は一、二三四駅になります。

道の駅「米沢」は山形県の南側の玄関口に位置するこ

とから、本市はもとより置賜や県内の魅力を発信する拠点施設としての役割を担っております。

地域の農産物や特産品のPRや販売はもちろん、山形を満喫できる地域資源を活かした県内各地の観光やイベント等の提供や、観光コンシエルジュを配置し外国人観光客にも対応できる総合観光案内所の創設、

交通結節点の役割を果たすため高速バスの停留所やパーク＆ライド駐車場の整備を行っております。

施設の管理・運営を行う㈱アクセスよねざわでは、本年十一月からネットショッピングサイトを開設し、地元の特産品の紹介・販売を開始しますので是非ご利用ください。



長井市

長井市におけるホストタウン事業の取組みについて

「長井市がタンザニアのホストタウンに」

二〇二〇年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国内外で様々な取り組みが進められています。その一つが参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として政府が登録する取り組みです。二〇二〇年に向けて、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化や観光振興等に資する観点から、その取り組みは全国各地に広がっています。とりわけ山形県におけるホストタウンの登録件数は、全国でもトップクラスとなっています。

長井市は、タンザニア連合共和国（以下、タンザニア）をホストタウン相手国とする交流計画を策定・申請し、二〇一六年十二月九日に政府の登録を受けました。まちの将来像を「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」と位置付ける長井市第五次総合計画では、「市民

ひとり一スポーツを楽しむ元気なまち」を生涯スポーツ分野における施策の目指す姿としており、年齢や性別、障がい等を問わず、市民の誰もがいつでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境を整備することを基本としています。そしてスポーツの推進に取り組み、スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出することを目指しています。

スポーツを「する人」だけでなく、スポーツを「観る人」、指導者等の「支える（育てる）人」にも着目し、市民が生涯にわたってスポーツ



訪問に先立ち駐日タンザニア大使が来市

に親しめる環境を整えていくことを目指す総合計画の方針は、ホストタウン事業の理念にも通じるものがあります。

ホストタウン事業は、①オリンピックとの交流を通じて、スポーツの素晴らしさを学ぶ②大会参加国の方々との交流を通じて、外国を知り日本を伝える③パラリンピアンとの交流を通じて、共生を学ぶ、という三つの大きな柱があり、地域住民と大会参加国の選手及び関係者、日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流に伴い行われる取り組みです。東京大会に出場する選手の事前合宿の実施を



タンザニア位置図

念頭に、市民との様々な交流イベントの実施を予定しています。

【山形とタンザニアのつながり】

タンザニアはアフリ

カ東部に位置し、インド洋に面しています。人口約五、五〇〇万人、国土面積は九四・五万平方キロメートルと日本の約二・五倍となっており、年率七パーセントの高い経済成長を維持しています。北東部にはアフリカ最高峰のキリマンジャロ山、世界自然遺産として登録されているセレンゲティ国立公園など、世界でも有数の大自然资源の宝庫として知られています。また、農業は国の重要な産業となっており、キリマンジャロコーヒーに代表されるように上質なコーヒーの産地として世界中で知られています。

山形県とタンザニアの結びつきは深く、国内で唯一の地方友好団体である「山形・タンザニア友好協会」が中核となり、二十年以上にわたり交流を深め、タンザニア音楽のイベントや写真展、絵画展等の開催をはじめ、総会の開催時期に合わせ駐日タンザニア大使等要人が山形を訪れるなど、現在も民間レベルで活発な交流が続いています。二〇〇三年には、当時のタンザニア大統領が来県し、今もお、山形県に訪れた唯一の外国国家元首となっています。

また、山形県の調べによると、国際協力機構（JICA）が派遣している青年海外協力隊で、山形県出身の隊



タンザニア政府スポーツ省幹部と会談

ニア人の方が三十年以上も前から長井市に暮らしています。様々な縁が長井市とタンザニアをつないでおり、ホストタウン登録のきっかけとなりました。

員がこれまでに派遣された国の中で、タンザニアが最も多くなっており、現在JICAタンザニア事務所には長井市出身の職員が駐在している他、青年海外協力隊員だった市民との結婚を機に長井市に移住したタンザ

【長井市のホストタウン事業】

長井市ではホストタウン登録に向けて、これまで山形・タンザニア友好協会の力強い協力を得ながら、駐日タンザニア大使と面会するなど、タンザニアとの信頼関係を築いてきました。大使館側からは長井市の取組みに対して歓迎する意向が示され、本国関係省庁への伝達など全面的に支援を得ることが出来ました。また、本市出身のJICA職員がタンザニアに駐在している縁や、日本陸上競技連盟の後押しで、タンザニア政府スポーツ当局や競技団体への紹介を受け、急速に友好的な関係が構築されていきました。

ホストタウン登録後は、長井市及びタンザニア相互の理解を目的として講演会の開催や、NHKラジオ国際放送でタンザニア向けに長井市の紹介などを行ってきました。今年三月に開催された講演会では、JICA職員としてタンザニア赴任時に野球の普及支援に尽力された、アフリカ野球友の会代表の友成晋也氏をお招きしました。タンザニアの青少年を中心に野球の普及に携わった経過や、東京大会の追加競技として「野球・ソフトボール」が加わったことも踏まえ、「いつかアフリカチャンピオンになつて、国際大会で日本に行きたい」というタ

ンザニアの子どもたちの夢をご紹介頂き、オリンピックに向けての気運の醸成とレガシーの構築に向けて取り組む有意義な企画となりました。

【文化プログラムの展開】

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典という事もあり、とりわけスポーツ交流に注目しがちですが、オリンピック憲章ではホスト国に文化プログラムの開催が義務付けられています。二〇一二年のロンドン大会では、大会の四年前から、イギリスのあらゆる地域で、音楽、演劇、ダンス、美術、映画、ファッション等の多角的な文化やイギリスの魅力を紹介する文化プログラムが実施されました。日本でも、開催地の東京だけではなく、広く全国に開催効果を波及させるために文化プログラムが全国各地で実施されています。

長井市では、文化プログラムの一つである「Beyond 2020」の取組みとして今年八月二十五日に「梅津碧ソプラノ・リサイタル〜ウィーンの風にのせて〜」が開催されました。また、十月末から十一月初めの一週間、市街地を会場に酒蔵や商店、古いまちなみにアート作品を飾り、街巡りを楽しむ企画「長井文化回廊2017まちなみ

ぐり美術館」も認証を受けて開催されます。いずれも市民団体による実施であり、今後も beyond2020プログラムを活用しながら、長井市ならではの文化プログラムを開催し、長井の文化や魅力を全国・海外に発信していきます。

【駐日大使の長井市訪問と市民訪問団のタンザニア訪問】

今年九月末には駐日タンザニア大使が長井市を訪問し、タンザニア選手団の合宿誘致に向けて、競技施設及び市内の視察や市民との交流などを行いました。また長井北中学校と長井南中学校の両校にも訪問し、生徒の皆さんから部活動の活動発表や、生産量日本一を誇る競技用けん玉を使って大使が大皿の技に初めて挑戦するなど、和やかに交流を深めました。大使からは「選手団が訪れた際も交流を深めましょう」と、長井市で事前合宿を行うことに対して、前向きな評価を頂きました。

十月にはタンザニア選手団の事前合宿誘致を目的として、内容重治長井市長を団長とする総勢二十名の市民訪問団を結成し、タンザニアを訪問しました。タンザニアでは、政府スポーツ当局や競技団体関係者と会談し、事前合宿などについて覚書の締結することで大筋合意しま

した。

【二〇二〇年東京大会に向けて】

タンザニアは二〇二二年ロンドンオリンピックに選手



市民訪問団（タンザニア国立競技場にて）

六名（陸上、競泳、ボクシングが、二〇一六年リオオリンピックには選手七名（陸上、競泳、柔道）が出場しています。特に陸上競技については一九八〇年代にマラソンの国際大会で活躍したジュマ・イカンガーさんは日本でも人気

のあるランナーとして知られています。十月のタンザニア訪問時にはイカンガーさんとの面会が実現しました。また東京大会で入賞をうかがうマラソン選手もあり、その活躍が期待されます。

長井市では、山形県内で唯一の日本陸上競技連盟公認フルマラソンコースを有しており、毎年秋に開催される「長井マラソン」には全国から多くのランナーが参加しています。また山形県高等学校駅伝競走大会、東北高等学校駅伝競走大会が開催されるため、市民の陸上競技への関心が高く、まちの活性化につながっています。新たに整備された生涯学習プラザ運動公園は、日本陸上競技連盟の第三種公認陸上競技場に指定されていることから、陸上競技等の合宿招致をはじめとして、様々な交流イベント等への活用が今後期待されます。

長井のまちは最上川の舟運によって栄えた「山の港町」です。外へと開かれたこのまちの気風は、現代においても息づいています。ホストタウン事業をきっかけに、タンザニアとの関係が深まるよう積極的な交流活動を展開し、本事業が次世代の両国民の理解促進と友好関係の強化につながるよう、スポーツだけでなく文化面等においても交流を広めていきたいと考えています。

南陽市

これまでの五十年に感謝し、

百周年に向けて未来輝く南陽市へ

昭和四十二年四月一日に二町一村が合併し、南陽市が



南陽市役所庁舎

誕生してから、今年市制施行五十周年という節目の年を迎えることができました。これまでの市政運営に対する関係各位のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

さて、十月八日には、シェルトーナンようホール（南陽市文

化会館）において、南陽市市制施行五十周年記念式典が執り行われ、ご来賓をはじめ南陽市内三校の中学校全生徒を合わせ約一、三〇〇名にご出席いただき、盛大に開催することができました。式典では、各中学校の代表による「未来へのメッセージ」の発表があり、未来に向けた力強い決意が述べられ、南陽市の将来を担う子ども達の頼もしさを感じることができました。



南陽市 市制施行50周年記念式典（平成29年10月8日）

ブラスト！青少年海外音楽交流事業

市制施行五十周年を冠した各種事業の開催には、「最大の木造コンサートホール」として、ギネス世界記録®の認定を受けたシエルターなんようホール（南陽市文化会館）を積極的に活用し、同ホールを拠点にした文化の創造と地域活性、交流人口の拡大につなげました。



「ブラスト！：ミュージック・オブ・ディズニー」

特に目玉の事業に据えたのが、今年度全国四十七都道府県をツアーを開催した「ブラスト！：ミュージック・オブ・ディズニー」の本市での初日公演と、そのメンバーによるツアーに向けた約二か月間の直前合宿を誘致し、この期間を活用して市内

青少年への音楽指導や市民対象の公開リハーサルを行う「青少年海外音楽交流事業」です。

「ブラスト！」とは、六十種類以上の楽器を使って、ステージを所狭しと動き回り、演奏するミュージシャンや、空間をダイナミックに舞い色とりどりの旗やバトンを操るダンサーなど、超絶なテクニクをもつ出演者たちが、「魅せる」こと、「楽しませる」ことにこだわったパフォーマンスを繰り広げる米国のエンターテインメント音楽集団です。

青少年海外音楽交流事業では、五月中旬から七月上旬の初日公演当日まで、最大総勢一〇六名（内、外国人五十二名）の「ブラスト！」メンバーが赤湯温泉に宿泊しました。六十日以上に及ぶ滞在期間中、本市では、シエルターなんようホール（南陽市文化会館）を事業の拠点として開放し、メンバーが全国ツアーに向けた練習に打ち込んでいただく環境づくりにつとめました。

また、身近な市民レベルの交流機会を得て、彼らがでるだけ南陽市を満喫し、南陽のファンになつてもらえるような時間を過ごしていただけるようにつとめました。今回の「ブラスト！」による青少年海外音楽事業は、公演本番だけでなく、長期間にわたり、様々なかたちで

世界トップレベルの演奏とパフォーマンス、異文化を市民の皆さんに身近に感じていただく機会をつくることができました。

また、この事業の実施による経済波及効果は一億円以上と試算しています。

十月一日には沖縄県でツアー千秋楽を迎え、八十一公演の全国ツアーを無事完了したと伺っております。

【青少年海外音楽交流事業の主な取組み】

◆リハーサル一般見学会（十五日間、全二十九回、延べ人数三、六八六名）

◆市内中学・高等学校へのアウトリーチ（吹奏楽実技指導とパフォーマンスポイント）



ブラスト！メンバーによる市内中学校吹奏楽部へのアウトリーチ

◆ブラスト日本人メンバーと市長の五十周年記念対談
◆初日公演前日の市民プレビューリハーサル
最高のホールで最高の芸術に触れ、外国人パフォーマーとのふれあいと文化を経験した中学・高校生が、希望のふるさとを担う未来の人材に育ってくれることを願っております。

全国青年市長会

北海道・東北ブロック会議開催

全国青年市長会は、昭和六十三年に発足し、四十九歳までに当選した市長が地方自治の発展を目的として、青年市長が集う団体です。

国内を七ブロックに分割し、ブロック会議を行っており、北海道・東北ブロックでは北海道室蘭市・名寄市・登別市、青森県むつ市、秋田県横手市・大館市、宮城県白石市、山形県山形市・南陽市の九自治体が現在参加しております。

七月十三日に北海道・東北ブロック会議が、市制施行五十周年を記念し、南陽市のシェルターなんようホール（南陽市文化会館）で開催されました。この会議は、「青年市長と語るべい」をテーマに公開WEB会議として開



北海道・東北ブロック会議（平成29年7月13日）

からの質問、生中継の視聴者から寄せられた質問等にも答えるかたちで進行し、各市の市民参加型まちづくり事業の実践例のご紹介や、まちづくりに懸ける想いなどを熱く語っていただきました。

催し、若くしてリーダーとなった青年市長は、何を思い何を考えているのか、普段の市長の生活から市政について感じていることまで、青年市長の素顔に迫りインターネット上で会議の様子を動画で配信しました。

当日は、会場

市制施行五十周年記念事業

さらに、市制施行記念事業として、「国際学会」の致や、非核平和都市宣言三十周年を迎えるにあたり平和の尊さと戦争の悲惨さを再認識するためのミュージカルの公演、名称を変更し開催した「南陽さわやかワイン馬拉ソン大会」、将来の地域リーダーとしてこれからの南陽市を支えていく若い世代を発掘・養成するために青年教育推進事業「めざせ!!百万円南陽若者コンペティション」など、盛りだくさん開催しております。



市制50周年を記念し、南陽市役所庁舎正面玄関に看板を設置

市内で八十年ぶりワイナリーが創業開始

ワイン特区は、ワインのマーケティングや行政のイメージ戦略が最優先と考えられがちですが、南陽市の場合、新規就農の促進・農家所得の向上など人材育成にも力点を置くことが特色といえます。

本来、ワインの年間醸造量は一事業者当り六、〇〇〇ℓを超えなければなりません、特区になると二、〇〇〇ℓまで引き下げ可能となります。

これは、新規参入によるワイン産業の活性化はもちろんのこと、特にぶどう生産者が直接醸造・販売にまで取り組み、自身の所得向上に連携させる六次産業化への誘導を、まず期待してのことです。

また、生食に比べ労働過重の少ないといった醸造用ぶどうの特徴を活かし、規模拡大の気運を盛り上げ、遊休農地の増加傾向に歯止めをかける相乗効果を狙い、規制緩和を行ったところです。

事実、今年九月には、市内で約八十年ぶりに五社目のワイナリーが創業しました。数多くの若者が畑を耕し、ぶどう栽培に汗を流すとともに、海外も含め本市PRに大きく貢献いただくなど、新たな胎動が始まっております。

さらに、一連の事業を進める中では、コンクールにおける受賞やシェフ・ソムリエから支持される逸品ワインづくりを、原料確保及び設備更新の両面で後押しを行い、ワイナリー経営をより安定させる取り組みも重点化する考えです。

本市のキャッチフレーズは「菊とぶどうといで湯の里」です。

文化を伝承する菊、情緒漂う赤湯温泉に加え、豊かなぶどうがたわわに実る景観と、個性あふれる南陽産ワインの数々が、市場の評価を高め、世界で大きく活躍していくことを夢見しております。



ぶどうの収穫作業

高 島 町

新高島町立図書館建設へ

多くの町民が待ち望んだ、新しい町立図書館の建設に向けた構想が固まりました。平成三十一年七月の開館をめざします。

【経過】

高島町立図書館は、昭和三十年四月の町村合併に伴い高島公民館を拠点として図書資料の貸出サービスを行ったのが始まりです。

昭和四十七年に町中央公民館図書室として業務を行い、昭和五十八年、当時農業共済組合の事務所だった現在の建物を、組合事務所移転に伴い町が施



現在の町立図書館

設を買い取り、高島地区公民館とともに移転しました。平成二十一年度には、読書活動において文部科学大臣賞を受賞し、また同年横浜市から譲り受けたブックモビル車による移動図書館を開始し、多くの町民に利用されるようになりました。さらに平成二十三年度には図書館システムを導入し利便性の向上に寄与しました。

一方で、昭和四十五年に建築された現在の建物は、老朽化や耐震性への不安、図書館機能の利用者ニーズとの乖離など、問題を抱えていました。



新高島町立図書館イメージ図

【新町立図書館構想】

これまで町職員による検討チームによる協議や、町民対象のアンケートを実施したほか、学識経験者や建築技術者から高校生まで幅広く構成された検討委員会で検討を重ね、基本計画書が策定されました。

「たがいに学びあい 文化を高める情報拠点 心ゆたかに生涯読書」を基本理念に据え、四つの基本方針を掲げました。

①豊富な図書資料を備え、知的好奇心を満たし、生活に役立つ図書館

幅広い分野の豊富な図書資料を備え、子どもから高齢者までが生涯にわたって利用でき、町民の知的好奇心を満たすことができる図書館を整備します。

②子どもが集い、青少年にも魅力ある図書館

将来を担う子どもたちが楽しく集い、親も一緒に楽しめる親子にとって心地よい図書館をめざします。また、中高生を中心とする若い世代が、人生をより深く生きる力を身につけることに寄与します。

③時代の変化に対応できる持続可能な図書館

新図書館では、長く最適な図書館サービスを継続していくために、将来起こる技術革新や時代の変化に配慮し

た図書館を整備します。

④「たかはた」らしさをもった図書館

高畠の歴史、行政、文化、産業、観光などの歴史的価値のある資料・情報を収集、蓄積、提供する情報センターとしての役割のほか、児童文学の資料収集など、本町の特徴を活かした蔵書構築により「たかはた」らしさをもった図書館を整備します。

屋内遊戯場の整備計画・木育をコンセプトに

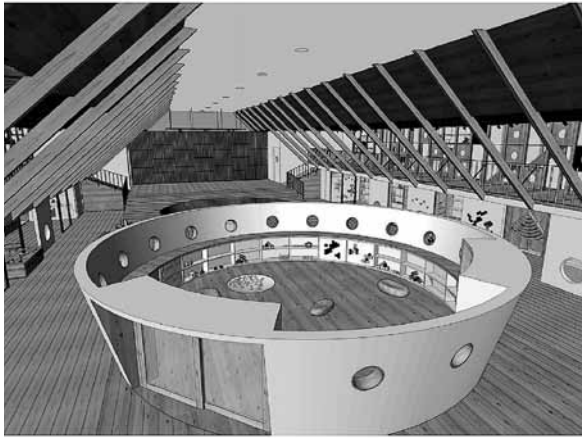
平成二十八年四月に高畠中学校が開校したことに伴い閉校となった、旧第四中学校（糠野目地区）の体育館を利活用し、子どもと保護者等がいっしょに遊ぶ空間を整備したいと考え、子育て支援の一環として屋内遊戯場を整備します。

【屋内遊戯場のイメージ】

屋内遊戯施設のコンセプトは、木育の考えを取り入れ、利用者から「木ってすばらしいものなんだな」ということを実感していただくことを想定しています。

施設は、町有林等を使用した高畠産の木材で造る木質化された遊戯場とし、木の香り、あたたかさを感じてもらうことはもちろん、「スギダマ」のプールやさまざまな

な樹種の遊び道具などをそろえ、既存の遊具での遊びにはない、子どもたちの自由な発想や大人が思いつかないような遊具を導入します。考えながら遊ぶ遊戯場、いつまでも、どこまでも遊びきれない空間をめざして整備したいと考えています。



屋内遊戯場イメージ図

【現在の取り組み】



ワークショップの様子

品品の製造工程を見学する体験型ワークショップなどを今後も開催していきます。

多くの町民のみなさんにワークショップや整備計画に参画していただき、地域の方々に子育て支援の応援団として協力していただけるよう、開館後のイベントの開催と屋内遊戯場開館後のサポート体制構築も視野に入れて進めていきます。

これまでに、木育に関する考え方を深めるための講演会を実施したほか、『スギダマ』みがきや木製遊具での遊びを体験するワークショップを開催しました。

町有林の伐採を行い、原材料の切り出しから遊戯場の材料となるまでのプロセスを理解し、木に対する思いやりを育むワークショップや、地元のオフィス等家具製造企業の協力の下で、製

川西町

「かわにし」とつなげる・つながる

「田園回帰」の流れの中で

突然ですが、「田園回帰」という言葉をお聞きになったことはありませんか？「田園回帰」とは、一部の過疎地域で都市部からの移住、定住の動きが活発化している現象を呼びます。この「田園回帰」の動きをいち早く捉えながら、地方創生につなげていきたいと、平成二十八年度にスタートした「かわにし未来ビジョン」（第五次川西町総合計画）では、基本目標「夢と愛を未来につなぐまち」に「田園回帰の流れの中で」というサブテーマを設定しています。

都市に住む人々が、川西町への関心を高め、新たな生活スタイルを求めて都市と川西町を行き交う。そして、移住、定住へ。川西町では、そんな「田園回帰の流れ」を町の資源、魅力を活かしながら、確かなものにしていきたいと考えています。そのためにも、資源の発掘、魅力を磨き、そして効果的な発信が重要になってきています。次からは「田園回帰」の確立に向けて、川西町が近年取り組んでいます特徴的な取り組みを紹介していきます。

「豆」で川西町をPR

「豆のあるまち」かわにし」プロジェクト」

川西町の主産業は農業です。「つや姫」、「はえぬき」といったブランド米を中心とした稲作、そして「米沢牛」の主産地として畜産も盛んです。

しかし、今回、町の産業振興の起爆剤として目を付けたのは「豆」でした。きっかけは、地元の方々と特産品の開発に関して議論した際の「町内では多くの種類の豆が作られている」という一つの情報からでした。検証すべく調査してみると、当初、四、五種類程度しかないと思われていましたが、調査二週間で、集まった豆の種類はなんと三十種類以上。その結果に沸き立つ町民。そして多くの町民の理解と共感が得られ、「豆のあるまちかわにし」プロジェクトが進み出しました。プロジェクトの取り組みは情報発信が中心です。予算が



なくてもできるSNSを多用し、フェイスブック上には公式ページを立ち上げました。

(<https://www.facebook.com/mamenoarumachi>) フェイスブックの運営には、豆を通して地元の豊かな食文化をPRする豆の調査研究員「マメリエ®」にも協力いただきながら積極的な情報発信に努めています。その結果、プロジェクトの取組みが様々なマスコミ関係者の目に留まり、NHKの全国放送で紹介されたり、JR東日本の



車内で配布される広報誌「トランヴェール」の特集に掲載されたりと、多くのマスコミに取り上げられ、「豆のあるまちかわにし」の知名度向上につながりました。

情報発信の取組みとしては、平成二十七年度的から開催している「山形かわにし 豆の展示会」も大きな反響を得ています。東京都台東区上野桜木にある、大正時代に建てられた住宅を再生した

複合施設「上野桜木あたり」をメイン会場として開催しているこのイベント。豆をテーマに、「川西ファンの拡大」を目的にこれまで二回開催し、三日間の期間中における来場者は、第一回は一、七〇〇人、第二回は三、九〇〇人を数えました。

展示会では、豆をはじめとした川西産の農産物のPR、販売はもちろん、会場内の座敷には、川西町からお連れした「ばあちゃん」とばあちゃんお手製の郷土料理がテーブルいっぱいに並んだ「ばあちゃんの茶の間」を再現。一方、別の会場には、川西町の「じいちゃん」をお連れし、しめ縄づくりなどのわら細工の実演とワークショップを実施し「じいちゃんの土間」を再現するなど、東京にしながら川西町の空気感を感じてもらうことができ、川西町と多くの首都圏在住者とのつながりが生まれたイベントとなりました。

地域に活力を

地域おこし協力隊 活躍中

平成二十九年十月現在、川西町では十二名の地域おこし協力隊が活動しています。この隊員数は、山形県内では最多になります。三年間の任期中、それぞれの隊員が、自分のスキルや経験を活かしながら、地域の活性化のため、そして任期後の川西町への定住に向け日々活動して

います。

本町の協力隊は、各地区に入りながら地域づくりを支援する「地域づくり担当」と農業の担い手として農業を学び活動する「農業研修生」、本町出身の作家井上ひさし先生から寄贈された蔵書を収めた「遅筆堂文庫」で、井上作品の研究を行う「遅筆堂文庫研究員」の三つのメニューで募集し、それぞれ特徴的な活動を展開しています。

例えば、「地域づくり担当」のある隊員は、萱葺き屋根の屋根葺きの技術を習得し、町内外で萱葺き作業に従事。次世代の担い手として大いに期待されています。また、ある隊員は隊員になる前から研鑽してきた陶芸の技術を活かし、各地区での陶芸教室の開催や、町の産直施



設「森のマルシェ」への出品など、地域の活性化とともに、起業、定住に向けた準備も進めています。その他にも、町非公認のゆるキャラ「虎駒（とらこま）」を制作し、町内外のイベントに参加しながら、賑わいを生み出そうとする隊員や、これまで身に付けたデザインのスキルを活かし、イベントポスターや町内企業のロゴマークのデザインを手掛ける隊員など、それぞれの視点で様々な活動を展開しています。一方、「農業研修生」は農事組合法人などに隊員を受け入れていただき、農業をゼロから教えていただいています。「遅筆堂文庫研究員」についても、遅筆堂文庫での司書業務をこなしながら、企画展の開催など研究業務に取り組んでいます。

前記のように山形県内で最多の隊員が在籍していることから、協力隊間の連携や情報交換等が行いやすい環境であること、これまでの隊員の活動により、町民に地域おこし協力隊が浸透していること、併せて礎を作ったOB、OGが町内に定住しておりサポートが可能であることなど、活動しやすい環境にあることが、川西町地域おこし協力隊の魅力でもあります。川西町地域おこし協力隊は、来年度も隊員を募集予定です。ご興味をお持ちいただいた方は、町ホームページ等で募集要領をご覧ください。

チャレンジの場所に 産直施設「森のマルシェ」オープン！

川西町には、町内全体を網羅する直売施設がないという課題があり、その解決に向け、平成二十八年度に整備されたのが産直施設「かわにし森のマルシェ」です。平成二十八年五月にオープンしたこの施設は、「かわにし」の「いい」ものを販売する「かわいい」をコンセプトにしています。町内産を中心に新鮮な野菜やお米などが買える直売所、町内産の食材をふんだんに使ったランチメニューや軽食が充実するレストランなど、充実したコーナーが満載で、たくさんのお客様にご利用いただいています。

一方で、森のマルシェは、生産者、出店者のチャレンジの場所でもあります。自分の生産品をより高く、より



たくさん買ってもらう。そのためのチャレンジの場所でもあつてほしいと考えています。川西町の魅力を発信する場所という役割だけでなく、町民にとつて夢や希望が持てる場所に。森のマルシェのチャレンジもまだまだ続きます。

最後に

これまでご紹介した三つの取組みも現在は順調に進捗しているものの、スタートして数年であり、まだまだ課題が多いことも事実です。その課題を一つ一つ解決しながら、より一層の充実を図っていきたいと考えています。有為会会員の皆様におかれましては、本町のまちづくり、田園回帰の取組みに今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



小国町

白い森まるごとブランド構想

小国町は飯豊・朝日の両連峰に抱かれたでっかい町です。町土の九十四％にはブナなどを中心とした広葉樹の森が広がり、美しい四季のうつろいが見られます。また、全国有数の豪雪地帯でもあり、降り積もった雪が多様な生命を育む源泉となっています。この、町を象徴する二つの素材であるブナと雪から共通してイメージできる「白」をキーワードに、町全体を「白い森」と表現しており、小国町における地域ブランドも「白い森ブランド」として推進しています。

「白い森まるごとブランド構想」とは、当町が有する豊かな自然、多様な人財などが生み出す農林水産物や観光資源のみならず、生活文化や伝統文化、町内企業の生産品、さらには教育、子育て、福祉などの暮らしやすさという視点を含めて町全体をまるごとブランド化するもので、住民満足度の向上と町外における小国町の認知度

向上を図ることにより、地域経済の発展を目指しています。

白い森 O G U N I ロゴマーク



町全体で白い森まるごとブランド構想を推進するため、白い森OGUNIIのロゴマークを作成しました。

「白い森」の文字は、豊かな恵みをもたらししてくれる清らかな雪解け水のしずくでかたどられており、シンボルマークは水滴が集まって雪の結晶をかたどり、三つ集まることで森をイメージしています。小国のみんなが集まって一つになるうというメッセージが込められています。

プロジェクトチーム発進！

八月には、様々な立場や視点から白い森ブランドを展開するため、米農家、きのこ農家、会社員、森林セラピーアテンダントなどからなるプロジェクトチームが立ち上がりました。

第一回目のミーティングでは、十年後の小国町や叶えたい夢などについて熱く語り合い、それにより、いま町が抱える課題や今後の取り組み方についても浮かび上がってきました。

「小国は今・・・

人が減っている

子どもが町に残らない

小国の人が小国のことを

知らない・・・

でも、小国には

たからものがいっぱい。

まずは、

住んでいる私達が

もっと小国を知って

好きになろう。

他人事でなく

自分のこととして

関わろう。」



第二回目のミーティングでは、小国のたからものをあらためて掘り起こし、各メンバーからとっておきのたからものストーリーを披露してもらいました。

・畑作業の間に、空が紫色に染まる。かえるの鳴き声だけが聞こえる。神隠しにあったような瞬間の風景に出会える。

・窓から見える田園風景。夕陽と空の色が移り変わるのを、一人でゆっくり眺める。

・山と青空を背景に、たわなに実ったたかきび。喜びを感じる。



・一番好きな場所はダム湖の大イチョウ。ボートと眺めていると心が落ち着く。

・小国は森の中のリトル東京。

・子どもと一緒に四季を感じる暮らしができる。花見、ホタル、紅葉、月、雪、わかさぎ釣り・・・、美しいものがいっぱい。

第三回目のミーティングでは、白い森のたからものをめぐり、実際に体感するフィールドワークを行いました。小国に住んでいるのに小国の魅力を知らないというメンバーも多く、今回はブランドストーリーにつなげるキーワードを探しながら南部地区のたからものをめぐりました。

訪れたのは、エメラルドの清流が望める玉川大橋、やまがた地鶏のハウス、きのご栽培農家たるまさ、飯豊連峰が一望できる樽口峠、近代建築遺産としても貴重な長者原発電所、秋には紅葉も美しい天狗橋、森の中で心から癒される森林セラピー温身平、オムライスが美味しいマタギの郷交流館で、お昼は森の中で地元食材を使った体に優しいセラピー弁当をいただきました。

あらためて山々の美しさや水の豊かさなど、小国の魅力を感じられた一日となりました。





みんなで巻き起こすプロジェクトに

まるごとブランドをすすめるには、町民一人ひとりが自分事としてとらえ、主体的に取り組むことが大切です。そのため、プロジェクトの活動の様子を多くの方に知っていただけよう、ショッピングセンター内にコワーキングスペースを設けて掲示したり、フェイスブックで発信したりしています。コワーキングスペースにおいては、見てくださる方からの意見やアイデアも募っています。

今後は町民を対象として、おもてなしの心や地域文化などについて学ぶ「白い森まるごと塾」も開催する予定です。

『白い森まるごとブランド構想』が、一部の誰かではなく町民みんなで巻き起こすプロジェクトに広がり、ブランド化によってほんの少しでも暮らしが豊かになった実感が得られるよう、町全体で取り組んでまいります。

皆さんも、ぜひ小国町にいらして、白い森おぐにをまるごと味わってみてください。

白 鷹 町

白鷹町では、本年度から「まちづくり複合施設」の整備工事に着手しました。

この施設は、現在の中央公民館、図書館、役場庁舎機能に加え、災害時の対策本部など多様な機能を合わせ持つ複合施設を整備するものです。

◇ 取り組みの視点

この事業は平成二十四年度から取り組みをはじめ、大きく三つの視点（課題）で検討を進めてまいりました。

一点目は、安全・



安心の視点です。

今年も台風により全国各地で災害が発生しておりますが、私たちも東日本大震災と、平成二十五年、二十六年の豪雨災害を経験し、改めて町民の安全を守り、安心を確保することの大切さを実感しました。

二点目は、既存施設の老朽化への対応です。

役場庁舎は昭和三十九年の建設から五十二年、中央公民館は昭和四十九年の建設から四十三年が経過し、耐震診断でも危険性が高い建物という結果が出ておりました。また、前述の災害時には災害対策本部機能が十分に果たせなかったことなどの課題もありました。



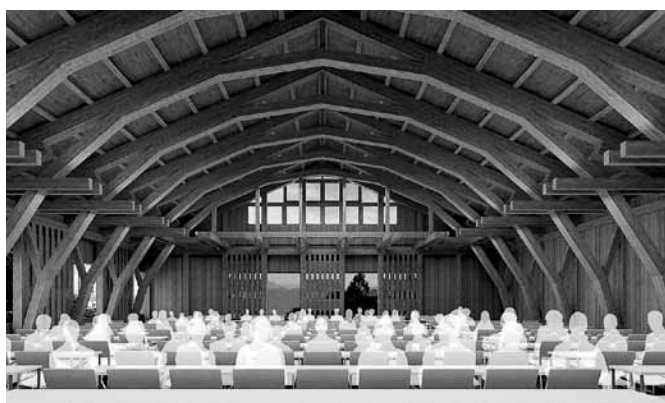
三点目は森林・林業再生の視点です。白鷹町は町土における森林の割合が約六十五%、人工林率も五十八%で県内一位という資源があるにもかかわらず、これまで活用されずにおりました。

現在、戦後に植林した木が伐期時期を迎えたこともあり、林業の活性化、成長産業化が課題でありました。

◇みなさんの意見の反映

このような視点から、平成二十六年度に策定した基本構想には、「町民の『あんぜん・あんしん』、自然（木）を生かし環境に『やさしい』施設」という基本理念と、「利用しやすい

た。加えて、パブリックコメントや出前講座などでも意見を頂き、これから数十年間、白鷹町のまちづくりの顔となる施設を目指し設計を進めてまいりました。



く、親しみやすい施設」「まちづくりの拠点となる施設」「木材を活用し、白鷹らしさを感じられる施設」など八つの基本方針を掲げました。

平成二十七年には、基本設計策定にあたり町民と役場職員計二十九人の委員からなる「町民会議」を計七回開催し、様々なご意見を頂き設計に反映しました。



◇ 白鷹町の木

この事業の大きな特徴は、白鷹町の木（無垢材）をふんだんに使って整備する複合施設であるということだ。知識も経験も、そして木材の生産体制もほぼゼロの状態から「町の木を使いたい」という一心で、約三年をかけて方法を模索してきました。

はじめは「無理だろう」というご意見が多数でしたが、一つひとつの課題に対し、多くの方からお力添えを頂き、山主、森林組合、製材事業者、町などで構成する「白鷹町森林・林業再生協議会」での議論、林野庁からの技術支援事業の活用、森林林業再生・木材コーディネートターの設置、プロポーザルによる設計業者の選定、町民会議などを経て、構造材にも白鷹町の木を使い、木造二階建て約四、六〇〇㎡の施設として整備する予定です。

また、この事業の進捗に伴い町には木材乾燥施設が整備され、町の木を使うシステムも確立するとともに、今後中規模から大規模の木造施設の整備も予定されております。

◇ 誇れる施設

町といたしましたも、町民のみなさんと一緒になって作り上げてきた過程と、町の木を使うシステムの構築は、対外的にも誇れるものであると考えております。

平成三十一年にこの施設が完成したあかつきには、町民の方々はもとより、置賜地域をはじめ山形県内、そして全国の方々にもご覧いただくとともに、今後数年、まちの顔、そして親しみやすい施設として多くの方にご利用いただきたいと思います。



飯 豊 町

◆埼玉県桶川市と「友好都市」、「災害時応援協定」締結◆

二月二十五日(土)、ホテルフォレストいいでにおいて、「桶川市・飯豊町友好都市並びに災害時応援協定提携調印式」が執り行われました。

調印式

桶川市から小野克典市長や市川幸三市議会議長などに参加いただき、桶川いいでの会の会員など多くの方に見守られた中で友好都市宣言と災害時応援協定に署名が行われました。

後藤町長は「民間から始まった交流が、本日ここに大きな実りを迎えることができました。感無量です」とあいさつ。それを受け、小野市長は「以前から飯豊町の温かいもてなしに感銘を受けていた。飯豊の魅力を市民に伝え、そして、交流の輪が大きくなることを期待します」と挨拶されました。

交流経過

桶川市との交流の始まりは、中津川むらづくり協議会

が平成十六年に取り組んだ山村留学です。同協議会は山村留学PRのために、桶川市在住で当時の東京飯豊会長の手塚久雄氏の紹介で桶川市役所を訪問しました。同年七月の短期山村留学には、桶川市と川口市から三十名の児童が参加しました。

以来、毎年十一月に開催される「桶川全国ふるさとまつり」と二月に開催される「中津川雪祭り」への相互訪問などを中心に幅広い交流を継続してきました。

【交流年表】

平成十六年四月

中津川むらづくり協議会山村留学運営委員会が山村留学のPRのために桶川市を訪問

平成十六年七月

短期山村留学（三泊四日）

平成十六年十一月

桶川全国ふるさと祭りに参加し特産品を販売

平成十七年四月

長期山村留学（一年間）

平成十八年三月

長期山村留學生修了式開催

平成十九年九月

いいでFun Club設立総会に多数の桶川市民

が参加

平成二十年二月

本町の「共生対流事業ブレモニターツアー」に多数の

桶川市民が参加

平成二十年九月

飯豊町町制施行五十周年記念式典で、桶川市長より映像によるお祝いの言葉をいただく

平成二十二年十一月

桶川市市制施行四十周年記念式典に町長と町議会議員が参加

桶川市の概要

桶川市は、人口約七万五千人、総面積約二十五km²で埼玉県ほぼ中央部に位置しています。桶川市は、昭和三十年に桶川町と加納村、川田谷村が合併。昭和四十五年に県下三十一番目の市として誕生しました。市制施行後は、都市基盤整備が盛んに行われ、都心から四十km圏内ということもあり、東京方面への通勤・通学に便利な首都圏近郊の住宅都市として発展しています。古くは、江戸から十里、中山道六番目の宿場町として栄え、江戸時代後期には、米や麦、紅花など農産物の集散地として大変にぎわいました。特に、紅花は「桶川臘脂（えんじ）」として、山形の「最上紅花」に次いで全国二番目の生産

量を誇り、多くの富をもたらすとともに文化に大きな影響を与えました。



◆西置賜行政組合消防署飯豊分署竣工◆

四月十四日、西置賜行政組合消防署飯豊分署の竣工式が行われました。

飯豊産の木材をふんだんに使用した温もりある庁舎で、さまざまな防災訓練活動を行いながら、町民の安全で安心な暮らしのために、昼夜を問わず業務にあたります。

【庁舎概要】

- ◆場 所 … 飯豊町大字椿二八〇〇番地一
- ◆敷地面積…二、四九九㎡
- ◆建 物 … 分署棟 鉄骨造 六八五・四四㎡
倉庫棟 鉄骨造 五五・四八㎡
- ◆飯豊産材使用率…九十五%
(使用した木材のうちで集成材を除く)

この度完成を迎えた飯豊分署は、町内中津川地区や隣接する小国町にも出動しやすい椿地区に建設され、西置賜地域約六万人の防災拠点の一つとして建設されました。分署員は、日勤者を除く十五名が隔日勤務で業務にあたります。平成二十八年度の出動実績として、町内の火災件数は七件、救急件数は三九五件でした。



◆「日本で最も美しい村」連合 総会・フェスティバル2017 in いいで◆

六月二十八日～三十日、町民総合センター「あゝす」などを会場に、「日本で最も美しい村」連合総会・フェスティバル2017 in いいでが行われました。定期総会、基調講演、パネルディスカッション、そして加盟町村・地域の首長、地域協議会長によるグループディスカッションが開催され、美しい村が目指すべき方向性の確認を行いました。

同連合加盟の六十町村・地域から約三〇〇人が参加。交流会では、なかつがわ農家民宿組合や食生活改善推進員の皆さんなど七団体が町の伝統料理や飯豊産米・沢牛などを提供し、参加者たちは飯豊の食を堪能しました。

また、アトラクションとして、萩生諏訪神社獅子連中による獅子舞が披露されました。勇壮で豪快な獅子舞に、参加者たちは魅了されました。獅子



交流会のアトラクションとして登場し、参加者を魅了した萩生諏訪神社獅子連中による伝統的な獅子舞

子が納められ、幕の中から白い御衣をまとった獅子連中が顔を出すと、地域の伝統継承する若者たちに、参加者たちから割れんばかりの拍手が送られました。

総会・フェスティバルの開催に当たり、例年より一週間前倒しで行われた「きれいな川で住みよいふるさと運動」への協力、景観保全や環境美化に対して町民の方々による多大な協力がありました。

参加者からは、手入れの行き届いた水田の畦畔や、道沿いに植えられた花々に感激する声が聞かれました。日頃の景観保全・維持活動の賜物であり、その気概こそが本町の誇りです。



男性合唱団ブロージットと女声合唱団コラル・ド・めざみによるラブリーホームタウン合唱で幕開け



中津川地区の視察研修で、町の伝統工芸であるすげ笠作りを披露。熟練した手技に参加者たちは見入っていた

基調講演



講演する澁澤寿一氏

二十九日に行われた基調講演では、認定NPO法人共存の森ネットワーク理事長 澁澤寿一氏から「住民自治からの美しい村づくりを考える」と題して行われました。

連合加盟町村・地域からの参加者に町内からの来場者に加え、約四〇〇人が聴講しました。

澁澤氏は「地域とは共感を共有できる範囲のこと。行政区分ではなく明治以前の自然村。生存するための運命共同体のようなもの。そういう範囲の地域の人をみんなが知っていて、相互に支え合い、助け合い、食料や労働の交換・贈与・連携を行いながら、地域みんなが食べていけることが幸せな社会である。その中で、自分が人の役に立っていると思えること。例えば、産地直売所で野菜を売る人と買う人や収穫して食べきれない野菜を机に並べてご自由におとりくださいと配る人。経済的豊かさだけを求めるのではなく、未来の社会・幸福・生きがいを含んで考え実践しよう」と語りました。

パネルディスカッション

二十九日に行われたパネルディスカッションでは、四つの加盟地域から取組事例の報告が行われました。本町からは、手ノ子区協議会宇津峠部会の高橋純部会長が参加されました。

高橋部会長は、かつてイギリスの女性旅行家イザベラ・バードが歩いた宇津峠の復元、維持管理に努めてきた取組を紹介しま

した。
平成十五年に設立した同部会の取組みは、地道な保全活動や、年二回の歩こう会の開催、近年の遺跡発掘調査など多岐にわたります。その取組みが認められ、「未来に伝える山形の宝」に登録されています。



定期総会

定期総会には、連合加盟町村・地域などから、二六九人が出席。

総会では、平成二十九年度事業計画などが承認されたほか、来年度の総会は北海道鶴井村で開催されることが決定しました。

また、連合加盟村である、福島県飯館村の菅野典雄村長からは、東北電力福島第一原発事故による全村避難が今年四月に解除されたことを受け、復興状況の紹介がありました。菅野村長は「全村避難解除はゴールではなくスタート。これから村民が一丸となって、村の復興に励んでいかなければならない」と語りました。



グループディスカッション、草木塔建立・町内視察

グループディスカッションは、連合加盟町村の首長六十名が六つの会場に分かれて行われました。美しい村を維持するための取り組みが議論され、翌日にはその内

容が報告されました。

町内視察では、五つの班に分かれ、散居集落景観の見学や中津川地区の雪室施設などを見学しました。

また、ゆり園内に自然への感謝と草木への供養、畏敬の念を込め草木塔が建立されました。連合総会・フェスティバル開催を記念し、連合理事らがそれぞれの想いを託しメッセージを記した「いしぶみ」を供えました。



◆山形県中学校総合体育大会

飯豊中学校野球部優勝◆

七月二十一日から二十七日にわたって開催された、第七十回山形県中学校野球大会・第五十七回山形県中学校総合体育大会軟式野球競技において、飯豊中学校野球部が初優勝の快挙を成し遂げました。

二十六日に行われた決勝戦では、河北町立河北中学校に対して、足を絡めた攻撃で自分たちのリズムをつくり、十二点を奪っての圧勝でした。

見事初優勝を果たした飯豊中学校野球部。
武田伸彦監督と寒河江俊介主将に、優勝の喜びを伺いました。

◆武田伸彦監督（飯豊中教諭）
選手たちには、競り合わないで勝てるような試合がし

【各試合の結果】

1 回 戦	飯豊中	6	—	0	明倫中
準々決勝	飯豊中	8	—	1	楯岡中
準 決 勝	飯豊中	6	—	0	温海中
決 勝	飯豊中	12	—	1	河北中

たいねと話していました。自分たちが積み重ねた練習には自信があったので、自分たちのスタイルを貫くことを共通理解し、本番で発揮できれば勝ると信じていました。

◆寒河江俊介主将

目標としていた県制覇を達成することができてうれしいです。決勝では、ランナーは出したけど、味方の守備もあって抑えられることができました。

—優勝の喜びを伝えた人は

やっぱり家族です。食べ物を用意してくれて、練習や試合に送り出してもらいました。あとは、監督やコーチなど野球を教えてくれた人みんなに感謝しています。



トピックス ①

東北中央自動車道が開通

はじめに

平成二十九年十一月四日、待望の東北中央自動車道福島大笹生ICから米沢北ICまでが開通した。三五・六kmで、八、九七二mの栗子トンネルがあり東北一位の長いトンネルである。しかも、この区間は高速料金無料となる。国と山形県・福島県が建設するという新直轄方式で工事が行われたためである。ここに福島及び首都圏を結ぶ高速道が出来たのは、明治の山形県初代県令三島通庸が、山形県は三方が山に囲まれていて輸送路がなく、閉鎖的であるので道路をつくるのが第一であるということから始まった。初代の栗子隧道の手掘りから今回で四世代となるトンネル工事を振り返ってみよう。



刈安チェーンベース合同セレモニー（栗子トンネル米沢側入口）



米沢八幡原 IC での山形県開通式（高速道路特設会場）

一 万世大路の長さ（初代の隧道）

米沢市の相生橋から福島市まで約四十八キロメートルある。トンネルが三か所、橋が七か所ある。栗子山の高さは一、二一六メートルあり、標高八八四メートルのところに八六七メートルのトンネルを掘った。これが栗子隧道である。その他に刈安洞門と二つ小屋隧道がある。刈安洞門は大正十二（一九二三）年七月十六日崩壊した（同年掘割とする）。橋は相生橋、吾妻橋（万世橋）、瀧の小橋、瀧の岩上橋、杭甲橋、大平橋、烏川橋がある。

二 栗子隧道について

明治九年（一八七六）十月十五日から一週間高木秀明土木課長らが現地調査。同九年十一月二十五日工事着工する（完成予定は同十年十一月とする）。当時のトンネル堀は手掘りであり、鉄のノミと金づちであった。幅三間（約五・三メートル）、高さ二間（約三・六メートル）であり、荷馬車が通れる道路とした。勾配は平均九%であった。手掘りの工事は難航して進まなかったで、三島県令は、世界に三台しかなかった蒸気削岩機をアメリカから一台買い入れて、ダイナマイトを仕掛けて工事を進めた。結果は工事が進み明治

十三（一八八〇）年十一月十九日に貫通した。その後一年をかけて沿道を整備し、翌十四（一八八一）年十月三日、明治天皇が東北御巡幸の時ここをお通りになり開通式を行った。（平成二十九年で一三六年となる

初代の隧道）

三 交通の状態

栗子隧道が完成したことにより、梓山に一軒、刈安に三軒、瀧の澤に一軒、栗子隧道前に二軒の宿屋ができて繁盛した。当時の記録では、一日の交通量は人七十一、一二人、荷車十一、二十七台、荷馬五、十七匹で、当時としては相当の賑わいであった。（電気のない時代の真つ暗なトンネルをどのようにして通ったでしようか。）

道路の補修や雪道の雪踏みには囚人たちが作業した。西南戦争の囚人が主であった。

四 鉄道の開通

福島―米沢間の鉄道が開通したのは、明治三十二（一八九九）年五月十五日であった（栗子隧道開通後十八年）。人、物資の輸送は鉄道に代わってしまった。それからは栗子隧道を通る人はいなくなった。

五 自動車の普及による道路改築（二代目のトンネル）

昭和八（一九三三）年になって自動車が普及したので、栗子隧道の幅を広げて自動車が行ける道路に大改築した。昭和八年着工、同十二（一九三七）年三月に完成し、自動車が行けるようになり便利になった（三十四年ぶりに栗子隧道が行けるようになった）。しかし、冬期間は除雪が間に合わず不通であった。

六 現栗子ハイウェイの建設（三代目のトンネル）

米沢市にとっては冬期間も行ける道路が必要となった。国に働きかけて昭和三十六年から東栗子トンネルと西栗子トンネルを持つ現栗子ハイウェイの建設を進めた。五年の歳月がかかり昭和四十一（一九六六）年五月二十九日に開通した。昨年開通五十周年の記念事業シンポジウムが伝国の杜で行われた。

七 東北中央自動車道の開通（四代目のトンネル）

この度の高速道路は東北中央自動車道として建設されている。福島県相馬市から米沢・山形を通って秋田までの道路で、平成二十九年十一月四日に福島・米沢間が開通した。時間は今までの四十分から二十分で行けるようになり、高速道路であるが無料である。平成十一年三月二十七日に、中央道の中心杭打ち式に刈安

で梓山獅子踊りが出演して地固め踊りをした。トンネルが貫通した平成二十六年三月二十二日にもトンネル内で奉納踊りをし、この度の開通式でも獅子踊りを披露し、参集者を歓迎した。

八（仮称）万歳の松公園について

明治二十二（一八八九）年万世村となった時、記念として明治天皇が御休憩された観音原（元万世小学校の庭）に松の木を植えた。これが平成二十一年三月十七日に山形県景観重要樹木第一号に指定された万歳の松である。現在市が公園として整備している。なお、明治二十八（一八九五）年四月には『駐輦の碑』が建立された。輦は鳳輦と言って天皇のお車である。万世小学校の校歌の二番に「いにし明治の十四年十月三日の駐輦をおおぎまつり



しみ跡にていとも尊き庭なるぞ」がある。今年十月二十一日にこの公園に置賜文化フォーラムの助成を受け、自然の恵みに感謝し草木を供養するという置賜特有の民間信仰である『草木塔』を設置した。なお、県社会貢献事業の助成を受け、万世ジュニアリーダーでは桜に青少年の夢を託して十五本植樹した。更に、山形新聞主催の最上川さくら回廊事業としても十月二十八日に桜十五本を植えた。旧万世小学校跡地はさくら公園になることだろう。

九 記念碑公園について

平成二（一九九〇）年十一月に開園された国道十三号万世町刈安地内の万世大路記念碑公園には、万世大路に立てられた明治天皇に関わる駐輦碑や道路改築記念碑、栗子神社碑がある。また、隧道の手掘りの跡のレブリカもある。

更に、平成二十四（二〇一二）年に万世大路が土木学会選奨土木遺産として認定され、入口に記念プレートが設置された（平成二十五年七月十三日除幕）。

十 「栗子隧道碑記」の道の駅米沢への移設について

現在、栗子国道維持出張所にあるこの碑は、来春開設される道の駅米沢に移転される。この碑には万世大

路と命名された経緯や工事の困難さなどが一、七〇〇字余りで漢文で刻されている。併せて、高速道路建設のきっかけとなった万世大路の案内インフォメーション設備が設置予定である。

十一 「万世」という地名について

明治二十二（一八八九）年四月一日市町村制施行により、周辺の梓山村、桑山村、金谷村、堂森村、片子村が合併して万世村となった。ここで初めて万世と云う地名が生まれた。昭和二十九（一九五四）年米沢市と合併して米沢市万世町となる。平成十一（一九九九）年に片子地区が東部地区に編入され、刈安、梓山、桑山、牛森、堂森、金谷地区が万世地区となる。

十二 「万世」の由来

中国の古典に四書五経と云われる書籍があり、その中の尚書（教書）の一部に「万世永頼惟汝功」という文章がある。これは明治天皇が三島通庸山形県令の栗子隧道開発の業績を大変良くできているとお褒めになった言葉である。

また、この文の前に「地平天成」という文章がある。この文から今の平成と云う年号が採用されたとされている。

トピックス ②

「我妻榮展」と記念講演会

先人顕彰コーナー「我妻榮展」

平成二十九年十月二十七日から十二月二十七日まで、米沢市立図書館先人顕彰コーナー（ナセBA中二階）で、「我妻榮展」が開催されました。日本を代表する民法学者で文化勲章受章者、米沢市名誉市民でもある我妻榮（明治三十（一八九七）年～昭和四十八（一九七三）年）の生い立ちや業績をパネルなどで詳しく紹介しました。

また、幼少時使った机や日頃愛用した洋服、鞆、眼鏡、時計、文具類のほか、心血を注いで著作したとされる『民法講義』とその原稿、胸像（桜井祐一作）に肖像画（行木正義作）も展示されていました。

さらに、愛用の釣り竿と釣った鯉の魚拓、日本棋院から追贈された五段の免許状も飾ってありました。

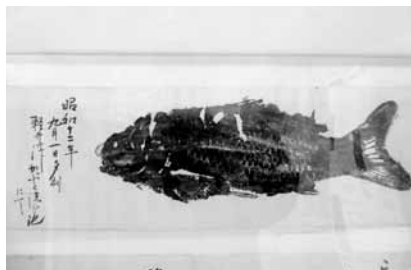
我妻学氏による記念講演会

この「我妻榮展」開催中の十一月十二日、伝国の杜大会議室で記念講演会（米沢上杉文化財団主催）が開催さ

れました。講師は我妻榮の孫で首都大学東京大学院教授（民事訴訟法専門）の我妻学氏。氏は、祖父我妻榮の生い立ちから民法の研究者になるまでとその業績、趣味の釣りと囲碁、鯉料理や自願奨学財団設立など米沢との関わりなどについて語り、「榮は生涯にわたり米沢を愛し、愛された人でした」と懐かしい思いを込めながら紹介しました。



『民法講義』



『鯉の魚拓』

トピックス 3

挑戦する山形大学

有機エレクトロニクスイノベーションセンター

二〇一三年四月、米沢オフィスアルカディア内に開所した山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）は、同大学構内にある有機エレクトロニクス研究センター（ROEL）と一体となって運営されています。後者が有機エレクトロニクスの基礎・先端研究を行うのに対し、前者では実用・応用研究が行われています。

具体的には、同イノベーションセンターでは有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタ及び蓄電デバイスの四領域に関して、産業化に向けた基盤技術の開発と、その成果を企業と連携して商品化に結び付ける活動を展開していると、ホームページで高橋辰宏センター長は紹介しています。

国内外から優れた研究者を招聘し、軽くて安価な有機材料を用いて、次世代の高性能な有機エレクトロニクス製品の創造を目指しているのです。現在、企業は四十二



有機エレクトロニクスイノベーションセンター

社が参画しており、共同研究費の受け入れ額も伸びている中、将来的には五十社を目標にするとしています。

山形大学の
大場好弘
副学長によれば、サイ
エンスイノ
ベーション
分野でハー
バード大学
やオックスフォード大学に負けない、世界一の研究拠点を
目指すため、研究テーマを有機ELに決定し、施設・
設備や陣容の拡充に努めてきました。

有機エレクトロニクス研究センター（ROEL）開設までの経緯

まず、一九八七年に山形大学に赴任した城戸淳二教授は、九三年世界初の白色有機EL開発に成功し、九七年に世界初の有機EL製品が誕生しました。二〇〇三年山形県有機エレクトロニクス研究所が開設され、〇八年には米沢に世界初の有機白色照明パネル製造会社が設立されました。その後、山形・米沢地域の電気・電子産業集積地から有機エレクトロニクス産業集積地を経て、一〇年十二月山形大学工学部創立百周年の年に当センターが開設されたのでした。このセンターでは、1cm以下の小さなもので五年、十年先の先端基礎研究を行い、世界的規模の最新先端技術を創り出そうと国内外の研究者が集まっています。現在三十一名の中には、一六年十月一日米沢支部で「フレキシブル・プリントド有機エレクトロニクスの基盤研究と事業化展開」と題して講演された時任静士・卓越特任教授も含まれています。

国際競争力強化地域に指定

二〇一一年山形大学工学部を中心とする山形県内の有機エレクトロニクス研究開発地域が、国から地域イノ

ベーション戦略推進に関わる「国際競争力強化地域」に指定されました。これは文部科学省・経済産業省・農林水産省によって選定され、山形県、同産業技術振興機構、米沢市の強力な支援を受けたもので、二〇一三年の「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」開所の原動力となりました。

INOELの研究概要

ここでの研究概要は、①電気を光に変える有機EL②光を電気に変える有機太陽電池③電気を制御する有機トランジスタ④電気を蓄える蓄電デバイスの四領域で、新たな価値を生み出そうとしています。

二〇一五年四月、米沢アルカディア内にデバイスやシステムの実証工房として、「スマート未来ハウス」が建設されました。近未来の住環境の実証研究を行うとしています。また、二〇一七年一月には、蓄電デバイス開発研究センターが竣工し、リチウムイオン電池の長期寿命化や次世代リチウムイオン電池の開発に取り組んでいます。

やる気と行動力

日本は優れた科学技術や製造技術を持っているのに、

なぜ世界市場で最初だけしか勝てないのか、との疑問があります。科学や技術者が世界に拡散する結果、人件費の安い国々から負けてしまうのです。では、人々の幸福な生活のため、どんなビジネスでグローバルマーケットを支配すればよいのか。そこで、ビジネスイノベーションを考えシステム化を図る。つまり、先端技術の拡散を遅くしたりビジネスを科学するマネジメントに取り組み、経営戦略も意識も変えて、AIなどを加えたシステムビジネスを提供することが必要であるとしています。

これからの展開

今までの山形大学における産学連携の取組の実績の上に、これからの展開として次の四点が考えられています。

①サイエンスイノベーションにおける世界的な研究拠点の形成。人・物・金・情報・戦略を集め、組織と意識を改革する。②プロセスイノベーションにおける世界的な開発実証拠点の形成。世界のスーパーイノベーターと開発実証設備の終結を図り、実証実績を上げる。③ビジネスイノベーションにおける分野を超えた人的な結集拠点の形成。医学・脳科学・AI・社会科学者・心理学者・経営者・産学官金連携コーディネーターの結集を図る。

④ベンチャー企業支援による地域創生（現在五社）。これらの展開を通して、未来の科学者・技術者・起業家・支援家を育成・結集し、ビジネス創出が伝統文化となることを目指しています。さらに、山形大学は、そうした資源を教育と研究に還元し、社会貢献に資するサステナブル（持続可能な）大学を実現させたいとしています。



スマート未来ハウス

トピックス 4

「米沢牛」

地理的表示登録認定される

米沢牛銘柄推進協議会が申請

「米沢牛」が平成二十九年三月三日、農林水産省より地理的表示（G I 〓 G E O G R A P H I C I N D I C A T I O N）保護制度登録の認定を受けました。

この制度は、特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（地理的表示法）に基づくもので、置賜三市五町と J A 山形おきたまなどで構成する米沢牛銘柄推進協議会（会長・中川勝米沢市長）が平成二十七年九月に申請していました。

同日農林水産省で登録証授与式が行われ、同協議会副会長の木村敏和・J A 山形おきたま組合長が磯崎陽輔農林水産副大臣から授与されました。地域全体で肥育技術の向上に取り組んでいる点が高く評価されたものです。

地理的表示保護制度とは

地理的表示保護制度は、品質、社会的評価その他の確立した特性が産地と結びついている産品について、その名称を知的財産として保護するものです。

この登録により、基準（生後月齡三十二か月以上、黒毛和牛の未經産雌牛）を満たした「米沢牛」は、「地理的表示」と「G I マーク」の使用が認められました。生産者はこれからの消費拡大に向けて自信を持って生産できるし、消費者は安心して高品質の美味しい牛肉を味わうことができます。

さらなる品質向上と増産体制の確立へ

報道によれば、中川会長は「長い歴史と伝統に輝く米沢牛が登録されて誇りに思う。自信を持って国内外の消費者・観光客に P R していきたい」と喜びを語りました。今後はさらなる品質向上が期待されるし、米沢牛枝肉市場の年間出荷頭数を現在の二、八〇〇頭から三、〇〇〇頭に増やす増産体制の確立が課題とされています。

肉牛は、既に登録された「但馬牛」（生産地・兵庫県）と「神戸牛」（同）の他に、「特産松阪牛」（生産地・三重県松阪市）と「前沢牛」（同・岩手県奥州市前沢地区）

を含めると五件となりました。国内外に向けて競争がますます激しくなりそうです。

「米沢牛の恩人」C・H・ダラス

ところで、「米沢牛の恩人」とまで言われた英国人チャールズ・ヘンリー・ダラス（一八四二～九四）はつとに有名ですが、明治四（一八七一）年三十歳の時、興譲館洋学舎の新設に伴い外国人教師として招聘され、四年間英語や代数などを教える傍ら、畜牛数頭を飼育していたそうです。横浜の外国人居留地に帰る時雌一頭を連れて行き、英国人の知人らに御馳走したところ好評を博しました。また、横浜から米沢に連れてきていたコックの万吉に資金を出して、「牛万」という屋号で米沢初の牛肉店を開業させました。こうして、米沢牛繁栄の基が築かれたのです。



米沢牛

トピックス 5

伊達政宗生誕四百五十年

今年は仙台藩初代藩主伊達政宗の生誕四百五十年となる節目の年です。それを記念して米沢市や宮城県内などで様々なイベントが企画されました。

政宗は永禄十（一五六七）年、出羽国米沢で、伊達氏十六代当主輝宗の嫡男として、正室義姫（最上義光の妹）を母に生まれました。幼名を梵天丸といい、元服して伊達藤次郎政宗と名乗りました。

舘山城保存会

米沢では、地元の歴史愛好家で作る「舘山城保存会」（松浦衛会長・会員百二十名・二十二年発足）が平成二十八年十二月二十九日（木）、舘山城跡の入り口付近の木造小屋の正面に、「平成二十九年 祝 伊達政宗公生誕450年」という大型看板（縦一m、横九m）を取り付けました。

また、同保存会では今年二月、歴史案内書『舘山城ハ

ンドブック』(A5判六十九ページ、二千部、一冊五百円)を発行しました。「伊達氏の置賜支



配」「館山城の構造」「館山城と主要遺跡、関連城館跡」など五章から構成されています。同保存会では、今後も館山城を広く知ってもらうため、城跡での説明会や案内板設置、見学者への飲料水提供などの活動が続けていくとしています。連絡先・小野里一栄氏、TEL〇二三八二二一一一九。

よねざわ市民ミュージカル「梵天丸」上演

五月二十(土)・二十一日(日)の両日には伝国の杜置賜文化ホールで、政宗生誕四百五十年と館山城跡国史跡指定を記念して、よねざわ市民ミュージカル劇団「伝国座」(松田純一代表)が「梵天丸」を公演しました。

舞台は生誕から天然痘で右目を失明した幼少期、十三歳で愛姫を正室に迎え、十七歳で家督を継ぎ、二十五歳で岩出山に移る青年期までの成長過程を描いています。原作・演出・振り付けは、元劇団四季の演出家・梶賀千鶴子氏、音楽は上田亨氏。

米沢と伊達を語る鷹山公シンポジウム

また、八月二十七日(日)には同ホールで第二十七回鷹山公シンポジウム(上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会(先人顕彰会)主催)が開催され、「秀吉も恐れた政宗と彼を育てた米沢と伊達」を大テーマとして、講演とシンポジウムが行われました。

第一部は、『岩出山・仙台』時代の伊達政宗」と題して、元仙台市博物館館長の佐藤健一氏が講演。氏は初めて、天正十九(一五九二)年九月、政宗が二十五歳の時、豊臣秀吉の命で旧葛西・大崎領を与えられ、米沢から岩出山(宮城県大崎市)へ移った後、豊臣政権へ忠勤を励んだことを述べました。

次に、三十四歳から七十歳まで仙台藩六十二万石の藩主として、国づくり、町づくりにかけた彼の夢について紹介しました。上杉景勝(西軍)と伊達政宗(東軍)が

戦った「奥羽の関ヶ原合戦」、仙台築城、桃山文化の導入、

城下町仙台の町づくり、米どころ宮城の新田開発、支倉常長と慶長遣欧使節の派遣など多岐にわたりました。

最後に、政宗の人物像として、文化・教養を重んじ、筆まめで気配りの人、繊細かつ大胆で前向きに天下への夢を持っていた人であると評価しました。

第二部は、「置賜・米沢での伊達家と政宗を語る」をテーマに、先人顕彰会副会長の石栗正人氏の司会で、島津憲一氏（たかはた伊達の会顧問・高島町）と竹田昭弘氏（歴史探訪家・米沢市）が研究の成果を熱く語りました。

島津氏は、伊達家八代から十七代まで二百十一年に及び置賜を治めた十人の当主を概観した後、十七代政宗に焦点を当て、二井宿古道や高島城、亀岡文殊堂、安久津八幡宮、資福寺跡と上杉鷹山公との関わりなどのエピソードを交えながら、その生涯を詳しく解説しました。

また、竹田氏は、この節目の年に、「歴史の町米沢」を「伊達政宗の故郷・上杉の城下町」として全国に発信したいとの考えから、「伊達氏三代の米沢」についてその一端を披露しました。十五代晴宗の伊達郡から米沢への入部、十六代輝宗の畠山義継による殺害、十七代政宗の誕生・成長、芦名氏に勝利し会津黒川城入城後豊臣秀吉の命に

よる岩出山移封などが主な内容でした。

入場無料

第27回 鷹山公シンポジウム

『秀吉も恐れた政宗と彼を育てた米沢と伊達』

—伊達政宗公生涯450年を記念して—

第1部 全体講演

演題 「岩出山・仙台」時代の伊達政宗

講師 佐藤 憲一 氏（仙台市博物館館長兼）

第2部 置賜・米沢での伊達家と政宗を語る

テーマ 「置賜での伊達氏の歴史と政宗親子の会津退治のわらいとは」

演者 島津 憲一 氏（たかはた伊達の会顧問 高島町）
竹田 昭弘 氏（歴史探訪家 米沢市）
司 会 石栗 正人 氏（先人顕彰会代表）

日時 平成29年 8月27日(日) 開演 午後1:00 閉演 午後1:30
第1部 / 午後1:50～3:20 第2部 / 午後3:30～4:45

会場 伝岡の杜 置岡文化ホール

主催・お問い合わせ 上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会（先人顕彰会）
TEL: 0242-8266 / 4172 携帯: 090-1376-8512 (061)
協賛 米沢四季のまつり委員会
後援 米沢市教育委員会、米沢市、米沢市観光協会、米沢市歴史博物館、米沢市歴史民俗資料館

日本・スペイン文化交流フェスティバル二〇二七

十一月二十二（水）・二十三日（木）には伝国の杜で、一般社団法人支倉常長日西文化協会が、政宗生誕四百五十年を祝し表題の特別事業を開催しました。

同協会は、政宗が慶長十八（一六一三）年派遣した「慶長遣欧使節団」の支倉常長を顕彰するため、今年四月米沢市に発足しました。常長の生誕地は米沢市の関地区と

され、二〇一五年に生誕祭が催されています。

二十二日の前夜祭に続き、二十三日は「支倉常長讃歌」として、まず津軽三味線黒沢会による奉祝演奏で開演しました。第一部は記念式典の後、伊達家第十八代当主・伊達泰宗氏と支倉常長家第十四代当主・支倉正隆氏による対談が行われました。テーマは「政宗公のめざす国づくり、そして常長の決断とは…」。宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）館長の濱田直嗣氏の司会により、二人は政宗生誕四百五十年への思いやその国づくり、そこから学ぶこと、常長ら遣欧使節への思いなどを存分に語りました。そして、支倉氏は「常長の遺産を後世の語り継いでいく」し、伊達氏は「壮大な構想の下、全力を尽くして生きた先祖に感謝している」と結びました。

その後、Soul & Beat TEN・CHI・JINによる「支倉常長讃歌」楽曲（「HASEKURA」）の発表やフラメンコ舞踊の祭典が華やかに繰り広げられました。

来年は、明治元（一八六八）年日西友好通商航海条約が締結されて貿易を開始してから百五十周年。今年四月にスペイン国王フェリペ六世夫妻が国賓として来日した

際、同協会の九里廣志理事長（九里学園高等学校校長）が東京で謁見。同協会では二〇一八年スペインに特別使節団を派遣したいとしています。

支倉常長生誕の地 米沢
日本・スペイン文化交流フェスティバル2017

2017.11.22. 23.
会場：仙臺の杜 宮城文化ホール

前夜祭 19:00 開演
支倉常長讃歌 19:30 開演

Program

時空を超え現代へ！
常長の功績を顕彰する

一般社団法人 支倉常長日西文化協会
〒982-1322 米沢市大町1-1-1 TEL: 011-766-1541

公式サイト: <http://hasekura.info> mail: info@hasekura.info [facebook.com/hasekuraofficial](https://www.facebook.com/hasekuraofficial)

宮城県内のイベント

一方、宮城県内では、仙台藩祖伊達政宗の生誕四百五十年関連イベントをPRする「特設ウェブサイト」の公開を始めたほか、各地でシンポジウムや展示会、歴史講座、祭りなど多彩な記念行事が繰り広げられています。

「館山城跡」（米沢市）が

国史跡に指定

米沢市の「館山城跡」が平成二十八年三月一日付で国史跡に指定されました。

米沢市教育委員会が平成二十二年度から二十六年度にかけて行った発掘調査を基に、国史跡指定の手続きを進めていたもので、二十七年十一月国の文化審議会で史跡名勝天然記念物の指定等について文部科学大臣に答申が行われていました。

史跡の指定範囲

史跡の指定範囲は、山城と根小屋部分であり、指定面積は約六万三千㎡です。

館山城は、米沢市西部の口田沢・城山に位置し、南側の大樽川、北側の小樽川に挟まれた標高約三百十mの丘陵に築かれた山城と、麓の河岸段丘上に形成された平場で構成されています。

史跡の指定理由

史跡の指定理由として、①伊達氏が治めた天正十五（一九一五）年（一五八七）年に政治的・軍事的な拠点の一つとなったこと②山城と山麓居館跡が良好な状態で残されていること③東北地方南部の有力大名の城館構造だけでなく、中世社会の動向を知る上で重要であることが評価されました。

五番目の国史跡

報道によれば、指定の決定を受けて、中川勝・米沢市長は翌三月二日、次のようなコメントを発表しました。「本市で五番目の国史跡として指定を受けたことを嬉しく思います。館山城跡は、戦国時代から江戸時代にかけて、米沢を支配していた伊達氏並びに上杉氏、この二つの有名な戦国大名が関わった山城です。当時の遺構が良好な形で残っており、米沢をはじめ東北地方の中近世社会を考える上で、貴重な山城であると考えております。今後は広くPRしながら、歴史資産として適正に保存するとともに、新たな観光資源や地域づくりに活用してまいりたいと思います。」

トピックス 7

第六十八回置賜地区高等学校美術展が八月一日から六日まで、ナセBAの米沢市民ギャラリーで開催され、絵画の最優秀作品として一点ご紹介いただきました。



「搾乳」 高橋 菜々美 山形県立置賜農業高等学校 3年

トピックス 8

大滝則忠会長、就任挨拶回り

去る平成二十九年六月二十四日の定時総会・理事会の議を経て、第十五代会長に選出された大滝則忠会長の就任挨拶のための置賜三市五町の市長・町長・教育長訪問が、白鷹町・飯豊町・川西町・小国町・長井市・高島町・南陽市・米沢市の順に実施されました。三日間にわたる一連の訪問には、米沢支部副支部長の種村信次地域振興部長理事及び米沢支部遠藤善則常務理事が同行し、新役員名簿、育英事業（高校別）利用状況一覧及び会誌（第六十六号）を持参しました。

懇談では、米沢有為会の目的や事業などを説明、再来年には創立百三十年を迎える節目の活動で、一層のご指導ご協力をいただき、自治体との連携を深めながら進めたいことをお願いしました。一方、自治体からは少子化時代の施策のご苦勞をお伺いするなど、和やかに意見交換が行われました。また、毎号の会誌に置賜市町だよりを寄稿いただいていることのお礼も申し上げまし

た。とりわけ、育英事業（高校別）利用状況一覧により、置賜一円の高校生が奨学金や東京・仙台の学生寮を利用していることを説明して理解を深めていただきました。

このたびの一連の挨拶回りを通じて、案外、本会の目的や活動がまだまだ浸透していないことを感じ、さらに積極的に情報を発信して、一層のご理解を得ていかなければと思った次第です。訪問日程の調整でお世話いただいた米沢市秘書広報課に感謝申し上げます。

一方、報道各社に対する就任の挨拶は、鈴木幸一理事が同行して行いました。また、置賜の十四高等学校長に順次、挨拶を行っており、これまで伊藤和夫育英事業部長理事が同行して、米沢工業、米沢中央、九里学園、長井、置賜農業の各高等学校長と懇談しました。引き続きその他の各高等学校長にも、ご都合を伺って参上する予定です。



左から種村信次理事、内谷重治長井市長、大滝則忠会長

トピックス 9

種村信次氏「米沢市功績者」

本会理事（地域振興部長）の種村信次氏が平成二十九年年度の米沢市功績者（一名）に選ばれ、十一月三日（文化の日）アクティ米沢で開催された米沢市表彰式で中川勝米沢市長から表彰されました。

米沢信用金庫会長である種村氏の永年にわたる市民交流・教育文化・産業振興への功績が認められたものです。氏は米沢製作所（後のNEC米沢）取締役を経て米沢信用金庫に迎えられ、平成十六年から十年間理事長を務め、リーマンショックや東日本大震災などの危機を乗り越えて地域経済の振興発展に大きく貢献されました。

この間、氏は多くの役職を歴任。平成二十二年「米沢・上杉吉良温故交流会」を設立、会長として吉良町（現在の西尾市）の「吉良・米沢親善交流会」と交流。

また、平成十六年から米沢「小さな親切」の会会長として、「小さな親切」活動の実践とその普及啓発に貢献されています。

このほか、米沢商工会議所副会頭、まちづくりプランナー創出実行委員会委員長、学園都市推進協議会会長等の役職に就かれ、米沢市のまちづくりや人材育成に様々な方面から寄与されています。

今回の受賞を記念して十二月七日グランドホクヨウで祝賀会が催され、約一八〇名が氏の栄誉を称えました。



種村信次・京子ご夫妻（米沢信用金庫提供）

トピックス 10

学生寮の出身者から高額のご寄付

このたび、元札幌興譲館寮の出身者（ご意向により匿名扱い）から、「昭和の終わりに寮でお世話になった。東京と仙台の寮生のために使ってほしい」とのご趣旨を添え、学生寮向けの使途特定及び一般の各寄付として、本会に総額三〇〇万円をお寄せいただきました。

深甚なる感謝を申し上げ、ご趣旨に沿って、ご芳志を有効に活用させていただきます。
（総務部）



会員の広場

俳誌「漆の実」近況について

主宰 鈴木 淳一

俳誌「漆の実」もこの十一月で通巻六十二号。二〇〇七年一月、上野文化会館4F応接室で僅か五名の有志で産声を上げ十一年。欠号も欠会も一回もないのが自慢。現在句会場は、毎月、都内、田町駅前田町イノベーショナルセンタ4F。午後十二時三十分～午後四時まで。初心者も是非ご参加を。

改めてこの一年を振り返れば、「漆の実」編集発行人の中川はじめさんが昨年十一月二十九日急逝されたこと。ここに中川さんの遺句ともいべき「漆の実」十二月号の五句より一句を抽出して、はじめさんのご冥福を祈りたい。

〈小半時綿虫どこへ行つたやら〉はじめ

十二月号の私の特選句であった。古風な時間の呼びか

けで、綿虫の安否を気づかっている気配が、短い詩情で包まれている。

※全会員のこの一年の作品を「漆の実」より私が五句抽出。是非ご鑑賞を。

漆の実（十句）

鈴木 淳一

追悼 中川はじめさんへ（一句）

漆の実春待ちきれず光り墮つ

クリスマス地下鉄通路長すぎる

たそがれて猫柳ほど見栄っぱり

グランドに白線引かれ寒明ける

東風の駅背凭れのなきベンチかな

桜前線ござ一枚の時間かな

どぶ河に風船ながれ映画「終」

プラネタリウム出る銀漢どつと来る

丸ビルの正面受けカンナ映ゆ

満月や山ノ手線の円周率

小山八州史

中川はじめさん追悼（一句）

冬月へ一人乗りゆく樞かな

鮫鰈の吊られ総身の力抜き

鮫鰈の腹這ふ前へ糶移る

水洩や肉餠割ればハマの湯気

炸裂の雷や雨粒まだ落ちず

下條 怡生

追悼 はじめ氏（二句）

逝く水の声聴く年の瀬の速み

漆木の言葉光らせ一葉散り

青空や鼓動地に来る揚ひばり

まほろば吟行（一句）

廃線となりし峠の木下闇

乱れ飛ぶ電波空間糸蜻蛉

池田弁之助

追悼 中川はじめ氏（一句）

冬の星元麻布へと歩き継ぐ

水洩や古地図を覗く周平展

やはらかく踏む再開の春の土

神の留守出雲蕎麦屋に立ち寄りぬ

綿虫に老い先をおまかせします

片山 丹波

青葉風地より湧き出るサキソフォン

著凝の琥珀を添へし朝の膳

絵馬の字はいずれも楷書梅真白

接岸の大型船から春日傘

山菜莢の花のさがけ津輕富士

登坂かりん

越後獅子雪の津南を越え来しか

夕空にルビ振りしごと燕来る

中振袖に風朶ませ卒業す

祖母風の春の日傘も松坂屋

医院行く角地の窪み春落葉

太田 甘美

シャボン玉五線譜にのり音となる

チューリップ赤が一番先に咲き

神の留守内なる神に気付くとき
綿虫や何掴まんと背負いし子
父の顔知らぬ従兄弟の終戦日

ライブ果つところに熱き冬の雨
エアメール春一番に乗せてだす
ヴェルレーヌ詩集片隅の雲母虫
大見得を切って川鶉の孤独かな
山百合のひらく気配の夜道かな

冬の夜時のすき間にじつという
貴婦人の鼻水を拭く仕草かな
冬の夜や星座をつなぐ線見えず
弾む声空いっぱいのしゃぼん玉
いつまでもマドンナであり春日傘

わが爪のふてぶてしさよ冬の雨
向き合いて鼻水の音だけとなる

濱田 扇風

松原 薫子

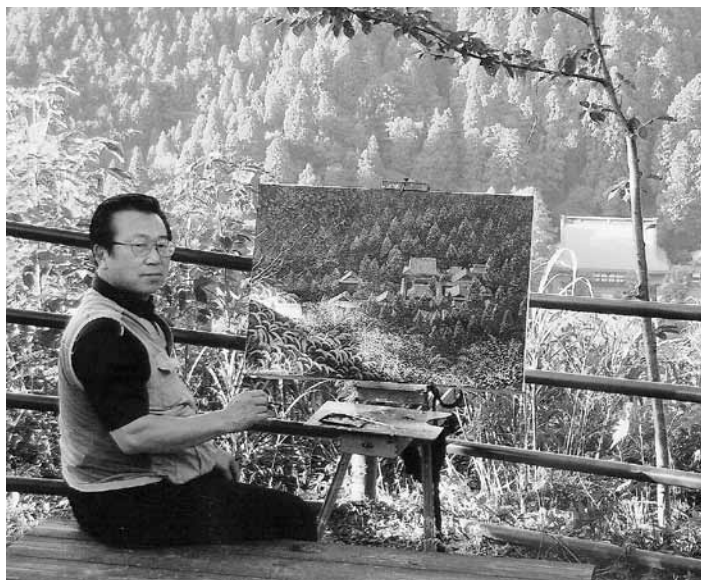
佐野 真

シタールを抱える妻や冬の夜
黒と黄のマツモトキヨシ春疾風
秋暑しビオラの揺るる少女の背

永平寺本堂覆る天の川
冬の夜のツリーリング前のオートバイ
七五ななはんの黒装束や緋のマフラー
日本海潮騒高し神無月
夜間工事水洩拭いてるドラムの火

松坂 六義





愛宕山より永平寺全景を描く 沖津信也氏

日展（日本美術展覧会）入選作品紹介

洋画家・沖津信也氏プロフィール

一九四七年米沢市生まれ。米沢興譲館高校・山形大学教育学部卒業後、県内中学校の美術教諭。

校長時代「もう一つの卒業証書」として卒業生の似顔絵を総計八五〇点描いて保護者に贈呈した。

七七年一水会（本部さいたま市）展に「民家残雪」で初入選、以来十回入選。現在一水会会友。

八八年第二十回日展に「斜平山夕照」で初入選、以来二〇一七年まで十三回入選。最近作として、

一六年「峠・光る雪」一七年「晴れゆく峠」現在日展会友。

二〇〇三年ルーブル美術館「美の革命展」に「夕照最上川」でグランプリ受賞。

〇三年ル・サロン展に「陽は昇る」で初入選。以来連続入選。

〇六年ル・サロン展永久会員。
一一年一水会展に「鎮魂の海二〇一一」で小山敬三奨励賞受賞。

一五年白日会（本部東京）展入選。

一六年白日会会友。



改組 新 第3回日展2016 入選 峠・光る雪



改組 新 第4回日展2017 入選 晴れゆく峠

郷土の本紹介（H28～H29・9）

資料提供——市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内 容 等
1	図書館と江戸時代の人びと	新藤透	柏書房	K010	2017・8	300	著者は米沢女子短期大学准教授。米沢藩校興讓館の蔵書も紹介される。
2	武士と印刷	印刷博物館	凸版印刷株式会社	K022	2016・1	299	印刷博物館（東京都文京区）で開催された特別展の図録。市立米沢図書館からは直江版『文選』や『かて物』『養蚕手引』などを貸し出した。
3	館山城ハンドブック	館山城保存会	館山城保存会	K202	2017・2	69	館山城が伊達家の居城であった視点から、館山城跡について紹介した一冊。
4	森と暮らせば	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	K202	2016・9	72	高畠町にある、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館で行われた企画展の図録。
5	戦国時代展	東京都江戸東京博物館ほか	読売新聞社	K210	2016・11	210	米沢市上杉博物館で開催された巡回展の図録（東京都立江戸東京博物館と京都府京都文化博物館と合同開催）。上杉関係の史料も数多く展示・紹介される。
6	越後戊辰戦争と加茂軍議	稲川明雄	新潟日報事業社	K210	2016・9	283	戊辰戦争の北越戦線で開かれた奥羽越列藩同盟の軍議。長岡藩・会津藩、米沢藩などが、藩の面子と命運をかけた情と儀の極限の駆け引きを描く。
7	明治維新というクーデター	星亮一	イースト・プレス	K210	2017・2	343	明治維新を従来とは違う観点から考察した一冊。米沢藩の動向についても述べる。
8	川中島合戦	海上知明	原書房	K210	2016・11	334	戦略研究者の著者が、軍記物語の記述を利用しながら川中島合戦について戦略・戦術的に分析し、実像を明らかにする。
9	暴かれた伊達政宗「幕府転覆計画」	大泉光一	文芸春秋	K210	2017・9	185	ロマン教皇の力を借りスペインと軍事同盟を結び、徳川幕府に挑むことを読み解く。
10	東北の近代と自由民権	友田昌宏	日本経済評論社	K212	2017・2	360	東北地方の自由民権運動の研究論文集。雲井龍雄と米沢の民権家を収録する。
11	中世宇都宮氏	栃木県立博物館	栃木県立博物館	K288	2017・9	239	会期中、市立米沢図書館所蔵『前九年合戦絵巻』（興譲館本）『日本百将伝』夕話・第九巻（同）『義烈百人一首』（同）を展示。図録にも掲載されている。
12	大正天皇と楽の音	宮内孝子	文藝春秋金画出版部	K288	2017・1	239	著者は米沢出身の音楽家・大沼哲の娘。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内 容 等
13	家康に天下を取らせた男 最上義光	松尾剛次	柏書房	K289	2016・4	238	山形大学教授の松尾剛次氏による、最上義光の研究書。
14	畠山入庵義春	志村平治	歴研	K289	2017・8	127	能登の畠山氏の出で上杉謙信の養子となり、上条政繁として活躍した武将の生涯を描く。
15	武田氏滅亡	平山優	KADOKAWA	K289	2017・2	751	著書の中で、御館の乱について触れる。
16	山田寅次郎宗有	山田寅次郎研究会	宮帯出版社	K289	2016・10	320	明治から昭和にかけての茶人であり実業家の山田宗有（寅次郎）に関する論文集。「伊東忠太のオスマン帝国旅行と山田寅次郎」（ジラルデッリ青木美由紀）を所収。
17	軍医大尉桑島恕一の悲劇	工藤美知尋	潮書房光人社	K289	2016・6	156	長井市出身の軍医・桑島恕一について、その生涯と、BC級戦犯として処刑された悲劇を紹介。著者は長井市出身。
18	山形 ぶらり歴史探訪 ルートガイド	みちのく巡りん 倶楽部	メイツ出版	K291	2017・6	127	山形県の各地域の歴史探訪ルートを紹介。米沢では「上杉家ゆかりの城下町・米沢市をめぐる」と「伊達・上杉ゆかりの温泉地をめぐる」のルートを紹介。
19	東北の名城を歩く 東北編	飯村均・室野秀 文編	吉川弘文館	K291	2017・9	287	宮城・福島・山形の三県から精選した名城を紹介。米沢市では国指定史跡となった館山城が紹介される。
20	対中借款の政治経済史	久保田裕次	名古屋大学 出版会	K338	2016	372	内容は対中借款の政治経済史であるが、米沢出身で上海総領事や横浜正金銀行取締役などを歴任した小田切万寿之助の活躍が紹介される。
21	山形銀行百二十年史	山形銀行120 年史編纂室	山形銀行	K338	2016・12	580	山形銀行の120年史。
22	ふるさと（たざわ）の むかしばなし	ほととの会	ほととの会	K388	2016・3	51	米沢市田沢地区に伝わる民話集。
23	新建築 第92巻第3号	新建築社	新建築社	K520	2017・3	222	市立米沢図書館の建物の紹介
24	南部邸	山形県立米沢工 業高等学校 建設 環境類 建築 コース 3学年	山形県立米沢 工業高等学校 建設環境類 建築コース 3学年	K521	2016・12	（1冊）	米沢市に残る古民家「南部邸」についての調査報告書。
25	日本近代建築家列伝	丸山雅子	鹿島出版会	K523	2017・1	390	米沢市出身の建築家、伊東忠太についても紹介。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内 容 等
26	万世大路ガイドブック	歴史の道土木遺産万世大路保存会	歴史の道土木遺産万世大路保存会	K685	2016・8	94	万世大路（旧国道13号）についてのガイドブック。
27	粟子ハイウェイ開通50周年記念誌	粟子ハイウェイ50周年行事実行委員会編	粟子ハイウェイ50周年行事実行委員会	K685	2017	67	一般国道13号線の米沢市万世町・福島市飯坂町間（愛称・粟子ハイウェイ）開通50周年の記念誌。
28	山形の凸凹と東北中央自動車道	米沢市上杉博物館	ネクスコ・エンジニアリング東北	K685	2016・11	148	東北中央自動車道（米沢市も通過する）について、地形と交通の点から考察する。
29	万世大路散策マップ	千葉市美術館学芸課	歴史の道土木遺産万世大路保存会	K685	2016・8	（1冊）	明治14年から昭和40年まで使用されていた万世大路（旧国道13号）の案内パンフレット（散策用の地図付き）。
30	生誕100年 遠藤桑珠	ますむら・ひろし	米沢市上杉博物館	K721	2017・6	56	米沢市上杉博物館で開催された、米沢市出身の日本画家、遠藤桑珠の企画展の図録。会期・2017年6月24日～7月23日
31	椿貞雄歿後60年記念師・劉生、そして家族とともに	米沢市上杉博物館ほか	千葉市美術館	K723	2017・6	284	千葉市美術館で開催された、米沢市出身の画家、椿貞雄に関する展覧会の図録。会期・2017年6月7日～2017年7月30日
32	アタゴオル博物誌	小野崎紀男	ヨネザアド・カタツムリ社	K726	2017・7	263	米沢市出身の漫画家、ますむらひろしの画集
33	上杉家の名刀と三十五腰	宗田 實	米沢市上杉博物館ほか	K756	2017・9	166	米沢市上杉博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館（埼玉県さいたま市）・佐野美術館（静岡県三島市）で開催されている巡回展「上杉家の名刀と三十五腰」展の図録。
34	米沢藩の武術	天野純希	ツーンライフ	K789	2017・3	260	米沢藩の武術について、各武術について流派ごとにまとめた本。
35	東北方言と日本語の祖先	深町秋生	八朔社	K818	2016・10	265	山形の方言とそのルーツを民俗学的に考察した一冊。
36	燕雀の夢	ますむらひろし	KADOKAWA	K913	2017・2	285	戦国の英傑たちの父を描く歴史小説。上杉謙信の父・長尾為景や伊達政宗の父・伊達輝宗が描かれる。
37	卑怯者の流儀	古川 純	徳間書店	K913	2016・9	316	著者は南陽市出身

米沢有為会ホームページ活用のお薦め

公益社団法人米沢有為会のホームページをご覧になっている方も多いと思いますが、どれほどの頻度で見ているかと尋ねられると、「たまに見る程度」と答える人が大部分ではないでしょうか。その理由として、自身の日常生活にとつてあまり必要性がなく、また身近に感じていない点があげられると思います。一方、もし米沢有為会について調べたい場合は何で調べるのかと尋ねれば、インターネットを駆使する多くの人が「ホームページの閲覧で」と答えるのではないかと思います。

ホームページの役割は、必要な情報をウェブ上に予めきちんと提供しておくことです。その目的は、会員や一般の人たちが「米沢有為会情報の共有化」をしつかりと行うことができるようにするためです。そのためには正確で新しい情報を常に備えておく必要があります。

米沢有為会のホームページは、先輩諸氏のためまい努力と創意工夫で記事内容の更新を重ね現在に至っていますが、現状は必ずしも満足のいく状態とは言えず、いろいろご批判も受けながら改良を重ねています。例えば、米沢有為会の主要事業である東京、仙台興譲館寮の寮生募集や奨学金貸与生の募集などは、切実な学生の目に留まり易くするようにホームページの最初に募集案内のバ

ナーを設けておくとか、会員間のコミュニケーションを活性化するためトップメニューに「会員の広場」を新たに設けるとか工夫を重ねています。なおこの広場では会員の絵画、写真、俳句、短歌等の趣味や、各種論文、資料及び意見等も掲載しています。また、過去の記事に興味を持つ会員の利便性を図るため「アーカイブ」を充実しました。更に全体を通じ、多くの関連情報に直ぐにアクセスできるように、必要な所にはリンク（ハイパーリンク）を埋め込むようにしています。

米沢有為会は二〇一九年に設立後百三十周年を迎えますが、古い歴史を大切にしながらも最近のAIやIoT時代の流れに適合すべく、情報発信や交流の場であるホームページの内容も変化（更新）させて行かなければなりません。また多くの人、特に大多数の若者が活用しているスマートフォンから容易にホームページにアクセスできるようなツール（例えばQRコード）も準備しておく必要があります。そして、その結果多くの人にとつてホームページが身近に感じられ、活発に利用される存在になることができればと期待しています。

（五雲寺 卓 記）

米沢有為会ホームページ

URL: <http://www.yonezawa-yuukai.org/>
米沢有為会ホームページQRコード



法人賛助会員名簿

(平成二十九年十二月四日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。

東京支部

(株)アルックス

(株)向洋アドシステム

舟寿司

鈴木会計事務所

(株)羽黒洞

(株)ウツズ

米沢支部

相田建設(株)

浜田(株)

(株)小嶋総本店

置賜建設(株)

(株)大清

(株)丸定

(代表者 敬称略)

宮坂孝夫

金子晃司

深沢和子

鈴木信之

木村品子

林直司

(代表者 敬称略)

相田晃輔

濱田淳

小嶋彌左衛門

川野敬典

中村恵一

佐藤良喜

米沢中央高等学校同窓会 椎の実会

さの医院

中條医院

若松工業(株)

舟山清

(公財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社置賜総支社

中條齒科医院

東北警備保障(株)

(株)カワサキ印刷

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニク

米澤信用金庫

(株)きらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

(有)今泉商店

石橋医院

佐野隆一
中條明夫
片倉尚

宮坂直樹

永井弘

井上吉昭

安房毅

石田一郎

松本昭弘

中條良文

武田誠一郎

川崎信一

佐藤博

田中雄二

加藤秀明

川村淳

廣居誠

佐藤英司

今泉宏

石橋正道

高橋胃腸科外科医院
 山岸草木工芸(株)
 (株)米澤紀伊國屋
 (株)米澤新聞社
 (株)本多建設
 佐々木隆一司法書士事務所
 (株)荘内銀行米沢中央支店
 (株)平山孫兵衛商店
 (株)米沢牛 黄木
 (株)新田
 村正運輸(株)
 (株)ナウエル
 (株)川島印刷
 (株)タスクフーズ
 (株)上杉コーポレーション
 (株)データシステム米沢
 金子建設工業(株)
 米木建設(株)
 (株)青葉堂印刷
 太田建設(株)
 (有)平田自動車工業
 (株)エービーエム

高橋秀昭
 山岸幸一
 佐藤知由
 保刈正男
 本多作之助
 佐々木隆一
 小松久弘
 平山順一
 黄木修太郎
 新田英行
 村山正博
 宮嶋敏郎
 川島良範
 宮坂宏
 松田理
 高橋孝二
 金子尚人
 前山郁朗
 中村隆志
 太田政往
 平田憲二
 赤間俊明

(株)後藤組	後藤茂之
(株)セゾンファクトリー	齋藤峰彰
ハイメカ(株)	亀森俊博
(株)村山商工	村山順彌
(株)堤商店	堤孝雄
(株)天元台	斎藤友久
ジーエスデザイン(株)	福崎真知子
東亜熱研工業(株)	増村力
(有)HYOコーポレーション	兵庫等
日台マシナリー(株)	丹野信嗣
(株)小島洋酒店	小島長五郎
(株)ニューテックシンセイ	栗原晃
(株)我妻組	我妻悦雄
我妻建設工業(株)	我妻弘一

仙台支部	(代表者 敬称略)
仙台環境科学(株)	加藤啓二
(株)東北オフィスマシ	林崎まつ子
・東京支部 六社	・米沢支部 六十五社
・仙台支部 二社	合計 七十三社

公益
社団法人

米沢有為会役員名簿

平成二十九年九月現在

名誉会長

上杉邦憲

名誉会員

本間敏雄

下條泰生

須貝英雄

会長・代表理事

(理事)大滝則忠

副会長・代表理事

(理事)平山英三

理事

青木恵子

伊藤和夫

加藤国雄

甲國信

川合勝雄

五雲寺卓

佐藤憲一

鈴木吉助

鈴木幸一

種村信次

手塚宮雄

宮坂孝夫

監事

伊藤秀太郎

菅野憲幸

諮問員

(東京)赤井淳一

(仙台)安部金之丞

(東京)飯沼俊男

(同)今井浩之介

(米沢)遠藤善之

(仙台)大武清夫

(米沢)小野庄士

(仙台)加川巖

(東京)片平善造

(同)金子晃司

(米沢)金子周治

(東京)紺野耕

(同)佐藤陞三

(同)佐藤好明

(米沢)庄司芳彦

(同)高橋節子

(東京)瀧澤新

(仙台)田林暁一

(北海道)田村邦夫

(同)丹野久

(米沢)塚田昌伸

(仙台)塚原保夫

(米沢)仁科義英

(東京)西村純

(同)羽隅弘宣

(同)樋口正宏

(同)平山和博

(同)深澤和子

(同)本郷友信

(米沢)宮坂宏

(東京)村石房男

(同)村山浩和

(米沢)山本勇一郎

相談役

大関修敬

大友久太郎

小関薫

佐藤 広明	島津 眞一	高橋 節子	辻 雅人	○産業振興委員			斎藤 友久	柴田 正孝	渡部 洋己	○寄宿舎興讓館		川合 勝雄	福田 富子	東京寮母	仙台館長	仙台寮母	小野寺 眞知子	○我妻榮記念館		名誉館長	館長	管理人
運営委員	同	同	同	同	同	同	同	同	顧問	同												
安部 敏	五十嵐 京子	佐藤 繁	神保 厚	高橋 節子	本多 和彦	山田 隆弘	小関 薫	村上 勘二														
理事																						
平山 和博	宮坂 孝夫	渡邊 忠義	監事		相談役		本間 敏雄	小森 力雄	鈴木 脩二	石原 俊一	米野 宗禎	諮問委員										
平山 和博	宮坂 孝夫	渡邊 忠義																				

副支部長

岩瀬和子

遠藤弘隆

神野民夫

金藤康伸

佐藤孝夫

佐藤毅

橋本享子

深澤和子

舟山国夫

村石房男

村山浩和

山田雅宏

山田幸生

理事

(理事)

本多和彦

(理事)

伊藤和夫

(理事)

種村信次

(常務)

梅津幸保

(常務)

井熊征一

(常務)

安部敏

(常務)

赤木義信

(常務)

遠藤善之

(常務)

大貫栄一

(常務)

小野庄士

(常務)

金子周治

(常務)

岸順一

(常務)

後藤穂

(常務)

佐藤孝市

(常務)

佐藤知由

監事

矢尾板操

顧問委員

中條良文

顧問委員

柴田正孝

顧問委員

石田和弘

顧問委員

磯部道昭

顧問委員

稲村修

井上栄子

漆山裕

遠藤友紀雄

奥村政秋

川島良範

川野裕章

後藤仁

小林圭一

近野久左門

近野洋一

斎藤裕司

宍戸義宣

島津眞一

庄司芳彦

須崎登志

高橋善彦

武田誠一郎

土屋宏

支部長

(理事) 中川勝

米沢支部役員

137

(平成28～29年)

大
淹
則
忠

甲國信

関
二
郎

孫
田
敏

田中健治

佐藤 豊

大
峡
康
治

安部英夫

菅野憲幸

(東京OB)

加藤 国雄

(札幌OG)

上野和子

(仙台OB)

宮坂孝夫

菅野憲幸

會計幹事

本
多
和
彦

篠宮雅夫

安部洋司

佐藤憲一

加藤 国雄

芳賀秀樹

安部 三十郎

佐藤 毅

羽
隅
弘
宣

赤井淳一

高山征一

米沢支部長

本多和彦

仙台支部事務局

本田健夫

米沢支部副支部長

長澤健一

高橋丈夫

小林伸一

仙台支部長

甲國信

仙台支部副支部長

塚原保夫

仙台支部理事

鈴木良平

平吹隆一

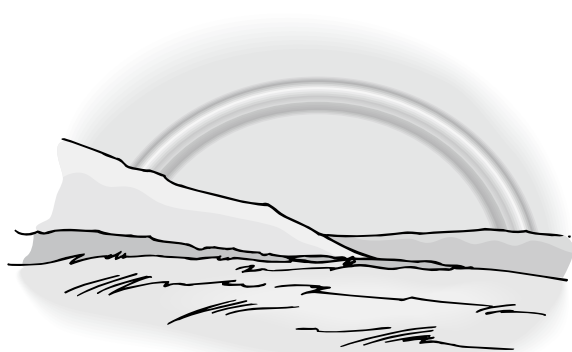
滝口政彦

仙台支部監事

船山完一

仙台支部顧問

中條仁



公益社団法人米沢有為会定款

第一章 総則

(名称)

第一条 この法人は、公益社団法人米沢有為会と称する。

(事務所)

第二条 この法人は、主たる事務所を東京都調布市に置く。

2 この法人は、理事会の決議によって、従たる事務所を必要な地に置くことができる。

(支部)

第三条 この法人は、理事会の議決を経て、必要の地に支部を置くことができる。

2 支部の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第二章 目的及び事業

(目的)

第四条 この法人は、育英事業その他の学術及び文化の振興等に関する事業を行い、置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高畠町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町）に関わる有為な人材の育成及び地域の福利の増進に寄与することを目的とする。ただし、政治上の事柄に関与しないものとする。

(事業)

第五条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学資の給貸与
 - (2) 学生寄宿舎の管理運営
 - (3) 学術文化施設の管理運営
 - (4) 教育奨励及び振興に関する事業
 - (5) 産業振興に関する事業
 - (6) 学術文化振興に関する事業
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は日本全国において行うものとする。

第三章 会 員

(法人の構成員)

第六条 この法人は、次の会員から構成する。

- (1) 正会員 この法人の事業に賛同して入会した個人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に対し特に功労あつた正会員で、理事会が推薦した者

2 前項の会員のうち正会員をもつて一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の社員とする。

(会員資格の取得)

第七条 この法人の会員になろうとする者は、本会会員の紹介の上、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第八条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用にて
るため、会員は、理事会が別に定める会費を支払う義

務を負う。

(任意退会)

第九条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができ
る。

(除 名)

第一〇条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によつて当該会員を除名することができ
る。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第一一条 前二条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。
(1) 第八条の支払義務を二年以上履行しなかったとき。

- (2) 正会員の全員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

第四章 総会

(構成)

- 第十二条 総会は、すべての正会員をもって構成する。
- 2 前項の総会をもって法人法上の社員総会とする。

(権限)

- 第十三条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

- 第十四条 総会は、定時総会及び臨時総会の二種とする。

- 第十五条 定時総会は、毎事業年度終了後三カ月以内に一回開催する。

- 2 臨時総会は、必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第十六条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の一〇分の一以上の議決権を有する正会員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

(議長)

- 第十七条 総会の議長は、会長がこれに当たる。

(議決権)

- 第十八条 総会における議決権は、正会員一名につき一個とする。

(決議)

第一九条 総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の三分の二以上に当たる多数をもって行う。

- (1) 会員の除名
- (2) 監事の解任
- (3) 定款の変更
- (4) 解散
- (5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第一項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第二一条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議事録)

第二〇条 総会の議事については、法令で定めるところ

により、議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印する。

第五章 役員

(役員の設置)

第二一条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 一三名以上一五名以内
- (2) 監事 三名以内

2 理事のうち一名を会長、一名を副会長とする。

3 前項の会長及び副会長を法人法上の代表理事とする。

(役員の選任等)

第二二条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 この法人の理事のうちには、理事のいずれか一人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理

事総数（現在数）の三分の一を超えて含まれることになつてはならない。

4 この法人の監事には、この法人の理事（親族その他特殊の関係がある者を含む。）及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があつてはならない。

（会長及び副会長の職務及び権限）

第二三条 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

2 副会長は、会長を補佐し、会務を処理し、会長が事故あるときは、その職務を代行する。

（理事の職務及び権限）

第二四条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

（監事の職務及び権限）

第二五条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の

報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）

第二六条 理事の任期は、選任後二年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

2 監事の任期は、選任後二年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

4 理事又は監事は、第二一条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）

第二七条 理事及び監事は、総会の決議によつて解任することができる。

(報酬等)

第二八条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

(名誉会長)

第二九条 この法人に名誉会長を置くことができる。

2 名誉会長は、理事会の議決を経て、総会において推戴する。

3 名誉会長は、本会の運営に関して会長の諮問に答え、又は会長に対し意見を述べることができる。

4 名誉会長は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

(諮問委員)

第三〇条 この法人に、四〇名以内の諮問委員を置く。

2 諮問委員は、次の職務を行う。

- (1) 会長の相談に応じること
- (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること

3 諮問委員の選任及び解任は、理事会において決議す

る。

4 諮問委員の任期は、二年とする。ただし再任を妨げない。

5 諮問委員は、無報酬とする。ただし、別に定める規程により交通費等の実費を支給することができる。

第六章 理事会

(構成)

第三一条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

3 理事会の議長は、会長とする。

(権限)

第三二条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 会長及び副会長の選定及び解職

(招集)

第三三条 理事会は、会長が招集する。

(決議)

第三四条 理事会の決議は、決議について特別の利害關係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、法人法第九六条の要件を満たしたときは、理事会の決議があつたものとみなす。

(議事録)

第三五条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した会長及び副会長並びに監事は、前項の議事録に記名押印する。

第七章 資産及び会計

(事業年度)

第三六条 この法人の事業年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第三七条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調

達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所及び従たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第三八条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時総会に提出し、第一号及び第二号の書類についてはその内容を報告し、第三号から第六号までの書類については承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
- (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

(6) 財産目録

2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に五年間、また、従たる事務所に三年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所及び従たる事務所に、社員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事の名簿

(3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

(公益目的取得財産残額の算定)

第三九条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第四八条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第2項第4号の書類に記載するものとする。

(基金)

第四〇条 この法人は、基金を引き受ける者の募集をす

ることができ。

2 拠出された基金は、この法人が解散するまで返還しない。

3 基金の返還の手続については、法人法第二三六条の規定に従い、基金の返還を行う場所及び方法その他の必要な事項を清算人において別に定めるものとする。

第八章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第四一条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第四二条 この法人は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(公益認定の取消し等に伴う贈与)

第四三条 この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）に

は、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から一箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第五条第一七号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）

第四四条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第五条第一七号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第九章 公告の方法

（公告の方法）

第四五条 この法人の公告は、官報に掲載する方法により行う。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第一〇六条第一項に定める公益法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

2 この法人の最初の会長は須貝英雄、最初の副会長は平山英三、最初の理事は梅津幸保、貝沼孝二、加藤國雄、甲國信、小山泰、鈴木信之、佐藤毅、種村信次、手塚修、沼澤研一、米野宗禎とする。

3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律第一〇六条一項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第三六条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

定款細則

第一条 公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）に次の四部を置く

- (1) 総務部
- (2) 育英事業部
- (3) 文化広報部
- (4) 地域振興部

2 部には部長を置き、理事のうちから会長が委嘱する。

第二条 各部に参事を置く。

- 2 参事は二〇名以内とし、その任期は一カ年とする。
- 3 参事は前条の各部に分属しその事務を処理する。

第三条 本会に教育委員若干名を置く。

- 2 教育委員は理事会において会員中よりこれを選任しその任期は二カ年とする。
- 3 教育委員は育英上重要な事項を審議する。

第四条 本会に産業振興委員若干名を置く。

- 2 前条第2項の規定は産業振興委員に準用する。

3 産業振興委員は産業振興上重要な事項を審議する。

第五条 この法人に相談役を置くことができる。

2 相談役は、会員のうちから理事会の議決を経て総会において推挙する。

3 相談役は、この法人の重要事項について会長の諮問に応ずる。

第六条 会員の年会費は毎年七月末日までに納入するものとする。

2 会員それぞれの年会費は次のとおりとする。
正会員 七千円

賛助会員（個人） 三千円

賛助会員（団体） 一万円以上

第七条 新たに会員になろうとする者は本会員の紹介により書面を以て入会の申込をしなければならない。

第八条 地方支部役員の名称選定方法並びに任期は各支部の適宜としてこの規則は会長の承認を得なければならない。

第九条 総会はその会日二週間前に会報その他の方法をもつて会議事項日時及び場所を会員に通知する。

附 則

1 この定款細則は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第一〇六条第1項に定める公益法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

改正附則

1 改正後の規定は、平成二十五年八月二十六日から施行する。

会員規程

（目的）

第一条 この規程は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）定款（以下「定款」という。）第三章（会員）に定める規定に基づき、本会の会員に関して必要な事項を定め、会員の身分の安定を図ることを目的とする。

（入会の手続）

第二条 本会の会員として入会しようとする個人又は団体（法人格の有無を問わない。）に対しては、入会申込書（別紙第1号様式）による入会申込書の提出を求めることとする。

2 前項の入会申し込みに対しては、理事会において入会の可否を決定し、これを入会決定通知書（別紙第2号様式）により申込者に通知しなければならない。

3 前項の入会の可否の決定に際しては、いかなる不当に差別的な取扱いをする条件その他の不当な条件を付してはならない。

(会員名簿及び個人会員に関する情報の取扱い)

第三条 入会者は、会員の種別毎に、本会の会員名簿に登録する。

2 前項の入会申込書に記載した主要事項に変更があった場合は、当該会員から、会員情報変更届(別紙第3号様式)の提出を求める。

3 会員名簿に登録された個人会員に関する情報については、その公開の可否及び公開の範囲について、本人の意向を十分尊重し、慎重に取り扱わねばならない。

(会費)

第四条 定款第八条に規定する会費の額は、別に理事会が定める。

2 学生である会員の会費は、正会員の半額とする。

3 前2号に規定する会員の会費額の一〇〇分の五〇以上は、公益目的事業に使用する。

(会費の納入)

第五条 会費は前納とし、会員は、毎事業年度、七月末日までに、会費年額の全額を納付しなければならない。

2 事業年度中途に入会した会員の当該事業年度の会

費は、入会承認月が上半期(四月から九月まで)の場合は年額の全額とし、下半期(十月から翌年三月まで)の場合は年額の半額とする。

3 会長は、前2項の会費を収納したときは、領収書を交付しなければならない。ただし、会費が金融機関からの振込の方法により納入された場合には、領収書の交付はしないものとする。

4 会費が納入されたときは、直ちに会費台帳(電磁的記録によるものも含む)(別紙第4号様式)に記載しなければならない。

5 既納の会費は、その理由の如何を問わず、これを返還しない。

(退会等の手続)

第六条 会員が退会しようとするときは、退会届(別紙第5号様式)を会長に提出しなければならない。

2 会長は、前項の退会届が提出されたことを理事会に報告し、会員名簿から当該会員の登録を抹消する。

3 定款第一〇条の規定に基づいて会員が除名された場合、又は定款第一一条の規定に基づいて会員が資格を喪失した場合は、会員名簿から当該会員の登録を抹消

する。

4 前2項においては、会員名簿から当該会員の登録を抹消するが、任意退会、除名又は会員資格の喪失の理由の別を記録として保存するものとする。

(退会会員の義務等)

第七条 会員が年度の途中において退会するときは、その会員であつた期間に相当する未納会費を納入しなければならない。

2 前項の規定は、定款第一〇条の規定に基づいて会員が除名された場合、又は定款第一一条の規定に基づいて会員が資格を喪失した場合においても同様とする。

(再入会)

第八条 第六条の規定による退会者等が再入会を希望する場合には、その理由を記した説明書と共に、改めて第2条に定める入会申込書の提出を求めることとする。

2 前項の再入会申込に対しては、第二条に定める基準により、理事会において再入会の可否を決定し、これを申込者に通知する。ただし、退会の際未納の会費が

ある場合には、当該未納分を支払わない限り、再入会は認めない。

(会員の異動に関する通知)

第九条 会長は、第二条第2項の規定に基づき新会員の入会を決定したとき、若しくは会員の退会、除名又は会員資格の喪失があつたときは、当該会員の異動について、本会が発行する機関誌等に掲載するなど適宜の方法により通知しなければならない。

(改 廃)

第一〇条 この規則の改廃は、理事会の決議を経て、総会の決議をもって行う。

附 則 (平成二十三年六月二十五日総会決議)

1 この規程は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあつた日(平成二十五年七月一日)から施行する。

2 この規程の施行に関し必要な事項は、会長が別に定める。

別紙第1号様式（入会申込書）

※入会申込書に記載する主要事項

1 正会員

(1) 入会に際しての誓約

（例文）「入会の上は、貴法人の定款及び諸規程等を遵守し、総会及び理事会の決定に従います。」

(2) 氏名、生年月日、性別、自宅住所、電話・

Fax・メールアドレス

(3) 勤務先名称、所属部署・役職名、住所、電話・

Fax・メールアドレス

(4) 最終学歴、主要職歴

(5) 会費請求書及び資料等の送付先

(6) 個人賛助会員の申込みの有（口数）無

(7) 個人情報公開についての同意・不同意の確認

―会誌・会員名簿等での公表とその範囲

（氏名、勤務先）

―勤務先からの問合せがあった場合（氏名、

会員種別、入会日）

2 個人賛助会員及び法人賛助会員

(1) 入会に際しての誓約（上記1のⅡ(1)と同じ）

(2) 個人又は法人（団体）名、所在地、代表電話・

Fax・メールアドレス

(3) 代表者氏名、役職

(4) 事務連絡者（氏名、所属部署、役職名、電話・

Fax・メールアドレス）

(5) 会費請求書及び資料等の送付先

(6) 年会費額

別紙第2号様式（入会決定通知書）

公益社団法人米沢有為会入会決定通知書

貴殿（貴社）は、本会の正会員（個人賛助会員、法人賛助会員）として、入会が認められたので通知します。

平成 年 月 日

公益社団法人米沢有為会会長

氏名（法人名・代表者名）

殿

※初回の会費納入についての案内を注記

（注）入会が認められなかった場合も本様式に準じて
通知書を作成すること。

別紙第3号様式（会員情報変更届）

※別紙第1号様式（入会申込書）に対応

別紙第4号様式（会費台帳）

別紙第5号様式（退会届）

公益社団法人米沢有為会 会員退会届

私（弊社）は、貴会の正会員（個人賛助会員、法人賛助会員）を退会するのでお届けします。

退会予定期日 平成 年 月 日

平成 年 月 日

氏名（法人名・代表者名）

印

公益社団法人米沢有為会会長 殿

役員選考規程

第一条 本会定款第二十一条および第二十二条に定める本会

役員の選考は、この規程の定めるところによる。

第二条 本会役員は正会員より選出する。

第三条 本会役員選考のために役員選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第四条 委員会は、会長が推薦する理事一名、東京支部および米沢支部が推薦する理事各二名の五名をもって構成する。

2 会長および副会長は、委員会の委員にならない。

3 委員会の委員が会長および副会長の候補者となった場合には、当該委員は選考に加わらない。

第五条 委員会の委員の任期は、理事会の決議により選出された時に始まり、選考した候補者の役員就任をもって終了する。

第六条 委員会の委員長は、委員の互選により選出する。第七条 委員会は、次の業務を行う。

(1) 総会に推薦する理事および監事の候補者を選考し、理事会に提案すること。

(2) 理事の中から、会長および副会長の候補者を選考し、理事会に推薦すること。

第八条 会員は、活動所信を添えて委員会の委員長に届け出ることにより理事または監事に立候補することが出来る。

第九条 会長および理事は、推薦理由を添えて適当と思う候補者を委員会の委員長に届け出ることにより推薦することが出来る。

第一〇条 本規程の改廃は、理事会が行う。

附 則

1 本規程は、平成二十二年十月二十四日から施行する。

改正附則（平成二十五年七月二十九日 理事会決議）

1 改正後の本規程は、平成二十五年七月一日から施行する。

役員等の報酬等及び費用に関する規程

（目 的）

第一条 この規程は、公益社団法人米沢有為会定款（以下「定款」という。）第二九条、第三〇条第3項及び第三一条第5項の規定に基づき、公益社団法人米沢有為会（以下「本法人」という。）の役員等に対する報酬等の支給及び費用の支払いの基準について定めることを目的とする。

（定 義）

第二条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 役員等とは、理事（代表理事を含む。）及び監事並びに名誉会長及び諮問委員をいう。

(2) 報酬等とは、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第五条第13号で定める報酬、賞与その他の職務遂行の対価として受ける財産上の利益及び退職手当であつて、その名称のいかんを問わない。費用とは明確に区分されるものとする。

- (3) 費用とは、職務の遂行に伴い発生する交通費、通勤費、旅費（宿泊費含む）、手数料等の経費をいう。報酬等とは明確に区分されるものとする。

（役員等の報酬等の支給）

- 第三条 本法人の役員等に対しては、定款第二十九条、第三〇条第3項及び第三十一条第5項の規定に基づき、報酬等を支給しない。

- 2 本法人の役員等が本法人の職員を兼務する場合は、当該役員等に職員給与を支給する。この場合の給与の額は、理事会で決定する。

（費用の支払い）

- 第四条 本法人は、役員等がその職務の執行に当たって負担した費用については、これを請求のあった日から遅滞なく支払うものとし、また、前払いを要するものについては前もって支払うものとする。

- 2 費用の支払いの細則については、会長が理事会の承認を得て、別に定める。

（改 廃）

- 第五条 この規程の改廃は、総会の決議を経て行う。

附 則（平成二十四年六月三十日 総会決議）

- 1 この規程は、本法人の設立の登記の日（平成二十五年七月一日）から施行する。

奨学金貸与規則

- 第一条 この規則は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）定款第五条に規定する学資の貸与（以下「貸費」という）に必要な事項を定めることを目的とする。

- 第二条 貸与は無利子とし、貸費は、左の各号に該当するものに対して、これを行う。

- (1) 置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高畠町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町）の在住者並びに出身者の子弟であつて、大学又は大学院に在学するもの

- (2) 身体強健、学術優秀、品行方正であるもの
(3) 経済的理由により、修学困難であるもの

第三条 貸費は月額四万円とし、大学又は大学院卒業の月まで、これを行う。

第四条 本会の貸費生は、置賜地方所在高等学校長より、貸費希望者の推薦を求め、その推薦された者のなかから、奨学金担当理事及び教育委員の選考を経て、毎年三月末までに理事会で決定する。

2 置賜地方以外に所在する高等学校長より推薦された場合又は大学院進学者で、貸費を希望する場合は前項に準じて取扱う。

第五条 前条の推薦者には、左の書類を添付しなければならない。

- (1) 本人及び保証人連署の貸費願書
- (2) 本人及び保証人連署の家計調書
- (3) 学習成績及び資質素行に関する推薦校の調書
- (4) 健康診断書
- (5) 写真
- (6) その他本会の指定する書類

第六条 貸費の決定通知を受けた者は、速やかに連帯保証人二人を定め、本会所定の奨学金貸与契約書を提出しなければならない。

2 連帯保証人のうち一人は奨学金の貸与を受けようと

する者の保護者（保護者のいない場合にあつては、これに準ずる者を含む）であり、他の一人は奨学金の貸与を受けようとする者が属する世帯以外の世帯に属する者であることとする。

第七条 貸費生は、左の場合は、速やかにこれを本会に届出なければならない

- (1) 病気その他の事情により、廃学しようとするとき
- (2) 病気その他の事情により、休学しようとするとき
- (3) 都合により、修学学校又は修学学部を変更しようとするとき

(4) 進級しなかつたとき

(5) 大学院に入り又は他学部に進学しようとするとき

(6) 卒業したとき

(7) 転居したとき

第八条 前条第1号の場合は、貸費を停止する。

2 前条第2号乃至第四条の場合は、本会において、その事情を調査し、貸費を中止、又は理事会の議を経て、貸費を停止することがある。

3 第2項の規定により、貸費を停止された者は、本会の指定に従つて、既に貸与を受けた金額を返還しなけ

ればならない。

第九条 左の各号の(1)に該当する場合においては、本会は、理事会の議を経て、貸費を停止し、既に貸与した金額は、これを一時に返還させる。

- (1) 理由の如何を問わず退学を命ぜられたとき
- (2) 性行不良なりと認めたとき
- (3) 勉強を怠り、成業の見込ないと認めたとき
- (4) 故意に第7条の届出を怠ったとき

第一〇条 貸費を受けた者は、大学又は大学院卒業時に連帯保証人との連名による奨学金返済予定表を提出し、卒業の翌月より、月額一万五千円を、本会に返還しなければならぬ。

2 貸費を受けた者が、大学卒業後、更に大学院・他学部に進学又は大学卒業後他学部に進学し、或は未就職又は病気のため、前項の返還が、著しく困難な場合は、この願出により、返還の期限を猶予することがある。

第一一条 貸費の返還を怠った場合は、理事会の議を経て一時に全額を返還させることがある。

第一二条 貸費を受けた者は、その返還義務を終るまで、就職、転職、転居など重要な消息は、その都度速やか

に、本会に届出なければならない。

第一三条 保証人が転居し又は保証能力に著しい変化を生じたときは、本人と連署して、速やかに届け出なければならない。

2 保証人が死亡したとき又は本会より保証人変更の要求のあったときは、速やかに新保証人を定め、連署して届出なければならない。

3 前項の届出を怠った場合は、その届出があるまで、貸費を中止することがある。

第一四条 貸費を受けた者が死亡した場合又は心身の障害により、返還が著しく困難となった場合は、本人又は保証人の願出により、理事会の議を経て、返還義務の全部又は一部を免除することがある。

附 則

1 この規則定は 年 月 日から施行する。

平成元年四月十七日一部改正

平成十一年四月二十日一部改正

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決議）

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登

記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

改正附則（平成二十六年三月二十九日一部改訂）

1 改正後の規則は平成二十六年四月一日から施行する。

学生寄宿舎規則

第一条 公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）が、本会定款第五条によって設置した学生寄宿舎は、「米沢有為会（所在地名）興讓館」と称する。

第二条 学生寄宿舎に次の役員をおく。また、名誉館長、副館長をおくことができる。

- (1) 館長 一名
- (2) 委員 若干名

第三条 館長及び副館長は理事会において選出し、本会会長がこれを委嘱する。

2 名誉館長は、理事会の議決を経て、本会会長がこれを推挙する。

3 委員は、舎生から互選され、館長の承認を得て定められる。

第四条 館長は、舎生の監督及び指導にあたり、また寄

宿舎に関する一切の事務を管理する。

2 副館長は館長を補佐し、必要なときにはその職務を代行する。

3 委員は各地興讓館規則の定める事務を行う。

第五条 寄宿舎に入居を願ひ出るものは当該興讓館長宛に次の書類を提出しなければならない。

- (1) 入寮願書
- (2) 学業に関する証明書
- (3) 身体に関する証明書
- (4) 履歴書

第六条 入舎の許否は館長が決定する。

第七条 舎生は入舎の際二名の連帯保証人連署の上書面をもって舎生としての宣誓をしなければならない。

2 前項にかかげる保証人の中の一名は保護者、他の一名は原則として寄宿舎所在地在住の者で、いずれも本会会員でなければならない。

第八条 舎生が、退舎する場合は当該館長宛に退舎届を提出し承認を得なければならない。

第九条 舎生が、本会の体面を汚したとき、学生の本分から逸脱する行動あると認められるとき、規則に違反したとき又は舎生費及びその他の経費の滞納が二ヵ月

に及ぶときは、館長はこれに退舎を命ずることができる。

第一〇条 各地興譲館に関する規則は、各支部理事会において決議し本会会長の承認を受けてこれを施行するものとする。

附 則

1 この規則は昭和四十二年四月二十八日から施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日理事会決定）

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

我妻榮記念館管理運営規則

第一条 公益社団法人米沢有為会が、文化勲章受章者、米沢市名誉市民である民法学者我妻榮の生家を保存し、関係資料等を展示し、広く一般に公開するために設置した記念館の管理運営についてはこの規則の定めるところによる。

第二条 記念館の名称及び所在地は次のとおりとする。

(1) 名 称 我妻榮記念館

(2) 所在地 山形県米沢市中央三丁目四番三八号
第三条 我妻榮記念館（以下「記念館」という）は第一条の設置の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 記念館の整備保存に関すること。
- (2) 資料等の展示公開に関すること。
- (3) 資料等の整理保存に関すること。
- (4) 学校、研究所、図書館、司法機関等と連携協力すること。
- (5) 広報その他の目的達成に必要なこと。

第四条 記念館に名誉館長、館長その他の職員を置く。
2 名誉館長及び館長は会長が委嘱し、その他の職員は館長が委嘱する。

第五条 記念館に運営委員会を置く。

2 委員の数は五名～八名とする。

3 委員の任期は二年とする。ただし再任を妨げない。

4 補欠の委員の任期は前任者の残余期間とする。

第六条 記念館の運営経費は会費、寄付金、補助金、助成金、その他の収入をもって充てる。

2 会計年度は四月一日から翌年三月三十一日までとする。

第七条 この規則の施行に必要な事項は館長が別に定める。

附 則

- 1 我妻榮記念館の開館は平成四年六月十九日とする。
- 2 この規則は平成十八年五月十二日から施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決定）

- 1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

表彰規則

（目 的）

第一条 この規則は、公益社団法人米沢有為会（以下「本会」という。）が定款第五条に定める事業を遂行するために「表彰」を行う場合に必要な事項を定める。

（表彰の種類）

第二条 本会が行う表彰の種類は次の通りとする。

- (1) 教育文化功労者表彰
- (2) 産業功労者表彰
- (3) 特別顕彰
- (4) 高等学校卒業生表彰

（表彰の対象者）

第三条 表彰の対象者は次の通りとする。

- (1) 教育文化功労者表彰

置賜地方（米沢市、長井市及び南陽市並びに高島町、川西町、小国町、白鷹町及び飯豊町をいう、以下同じ）の教育振興に特段の功労があった個人又は団体

- (2) 産業功労者表彰

置賜地方の産業振興に特段の功労があった個人又は団体

- (3) 特別顕彰

置賜地方の学生、生徒がスポーツその他の分野で全国的な活躍をするなど特に功績の顕著だったもの

- (4) 高等学校卒業生表彰

置賜地方の高等学校の当年度卒業生のうち、学業成績、課外活動、自治会活動、品行等を総合的に判断し、他の模範となる者

（表彰の時期）

第四条 教育文化功労者表彰、産業功労者表彰及び特別顕彰は当会の定時総会の折、高等学校卒業生表彰は各

高等学校の卒業式又はそれに準ずる会合の折にこれを行う。

（表彰の名義）

第五条 表彰の名義は名誉会長及び会長名とする。

（表彰の決定）

第六条 教育文化功労者表彰、産業功労者表彰及び特別顕彰については米沢支部長の推薦を、高等学校卒業生表彰については学校長の推薦を受けて理事会がこれを決定する。

（表彰の方法）

第七条 表彰は、表彰状及び記念品を贈呈してこれを行う。

附 則

1 この規則は平成九年四月十四日より施行する。

改正附則（平成二十四年一月十二日 理事会決定）

1 改正後の規則は、公益社団法人米沢有為会の設立登記のあった日（平成二十五年七月一日）から施行する。

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年会費 一〇、〇〇〇円以上です。

よりしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることもありますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

本部・各支部事務所等所在地

本部

☎一八二・〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (03)(3390) 3330・1
ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.or.jp/>)

東京支部

☎一八二・〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内

電・FAX (03)(3390) 3330・1

米沢支部

☎九九二・八五〇

山形県米沢市金池五丁目二二五
米沢市役所内 秘書広報課内

電 (0238)(22) 5111 FAX (0238)(22) 5541

仙台支部

☎九八〇・〇八七

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六二一
仙台興譲館内

電・FAX (022)(22) 4790

北海道支部

☎〇六〇・〇〇六

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T G 札幌ビル7F
株日建社内 田村邦夫

電 (011)(27) 2585

米沢有為会設置施設

東京興譲館 ☎182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309) 3302

仙台興譲館 ☎980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222) 4790

我妻榮記念館 ☎992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24) 2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

後記

○明けましておめでとうございます。穏やかなお正月をお迎えでしょうか。快晴の朝、米沢市内から遙か置賜盆地の周囲にそびえる山々を望むと、吾妻と朝日南と北に、蔵王と飯豊東に西に、とある中学校の校歌にも歌われているように、白銀に覆われ目映いばかりの日射しを浴びたその雄姿が、この一年勇気を与えてくれそうな気がします。今年は戌年。戌年生まれの人々は昔から誠実で真面目、協調性があるとの定評があり、少しでも肖りたいところです。

○『米沢有為会々誌』復刊第六十七号をお届けします。ご寄稿いただいた皆様には心から感謝申し上げます。特に、置賜三市五町からは毎年最新情報をご提供いただき、全国の会員にとっては故郷や地元を再発見し懐かしさを覚える縁ともなっているのではないでしょうか。少子高齢化の真っ只中、地方創生政策を取り込みながら、各市町のまちおこしや経済の活性化に懸命に取り組み意気込みが伝わってきます。今年は地域の話題として、東北中央自動車道の開通や「道の駅米沢」の建設をはじめ、南陽市市制施行五十周年、高島町の新図書館や白鷹町の複合施設建設計画などの大きな事業が注目されました。これらの取組が人の往来や物流、文化交流など、地域のさらなる発展に繋がることを期待します。

○二十九年度は役員改選の年。定時総会で会長以下理事・監事（後日諮問員も）が大幅に交代しました。須貝英雄会長はじめ長年本会のために尽力してこられた皆様、大変お疲れさまでした。二年後に創立百三十周年を迎える時期に当たり、大滝則忠第十五代会長以下新理事会が本会の使命を再認識して組織の強化を図るとともに、「活動ビジョン」と「活動項目」を策定して記念事業の準備に取り組みます。本会の育英事業や情報を広く全国の会員や多くの人々に発信すべく、ホームページを大幅に更新しています。ぜひご覧になり交流をお願いいたします。

○奨学生の作文「私の志」と東京・仙台の学生寮からの便りは、それぞれ現役の学生諸君が抱いている将来の目標や決意、寮生活の魅力や貴重な経験、感謝の気持ちなどを丹念に書き上げていて、私たちを感動させてくれます。ですから、私たちはそれに応えてなお一層声援を送りたいのです。有為会会員の皆様には今後とも一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

（文化広報部長 手塚宮雄 記）

置賜地区の自治体所在地

米沢市	〒992-8501 米沢市金池五丁目 2 番25号	☎0238-22-5111
長井市	〒993-8601 長井市ままの上 5 番 1 号	☎0238-84-2111
南陽市	〒999-2292 南陽市三間通436番地の 1	☎0238-40-3211
高畠町	〒992-0392 高畠町大字高畠436番地	☎0238-52-1111
川西町	〒999-0193 川西町大字上小松1567番地	☎0238-42-2111
小国町	〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地	☎0238-62-2111
白鷹町	〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地	☎0238-85-2111
飯豊町	〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地	☎0238-72-2111

発行日	編集担当	発行
平成二十九年十二月十五日	文化広報部	公益社団法人 米沢有為会
	部長 手塚 宮雄	会長 大 滝 則 忠

広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

有限会社 アルックス
上杉観光開発株式会社
株式会社 上杉コーポレーション
株式会社 羽陽印刷
株式会社 エービーエム
株式会社 川島印刷
株式会社 小嶋総本店
有限会社 後藤商店
有限会社 斎藤工務店
株式会社 スリーウッド・プロデュース
仙台環境科学株式会社
株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗
東北警備保障株式会社
株式会社 ナウエル
日本橋小舟町 舟寿し
株式会社 日本ブックサービス
株式会社 日山
有限会社 べにはな
株式会社 本多建設
吉野石膏株式会社
米沢牛銘柄推進協議会
米沢共立ビル株式会社
米沢商工会議所
米沢信用金庫

有限会社 アルックス

☎03-3990-6289

代表取締役 宮坂 孝夫（昭41 興譲館卒）

東京都練馬区貫井2丁目16番13号

全国のコンビニで初めて

ファミリーマートの店頭で印刷が頼めます。



封筒印刷、チラシ、社内資料、名刺、広報誌、DM、ポスター
印刷物のご相談なら、気軽に親切な「コンビニ印刷屋」へ

あなたと、コンビニに、

FamilyMart

- 富士見台駅前店 練馬区貫井3-10-8
※西武池袋線富士見台駅前
- 貫井町店 練馬区貫井2-16-13
※富士見台駅から5分

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60

電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本社

〒992-0003

山形県米沢市窪田町窪田584-2

☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所

〒992-0472

山形県南陽市宮内4641

☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523



清酒**東光**醸造元

株式会社 **小嶋 総本店**

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL (0238) 233-4848

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒。



東光 純米吟醸原酒

三年連続**金賞受賞**

ワイングラスでおいしい
日本酒アワード

○お近くのお酒屋さんで買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

漬物はやっぱり 雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!

創業50年の専門店 窪田の後藤商店



お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで
自然の味をそのまま手づくり

◎宅配便でお届けします。(関東方面648円)
(送料は別途申し受けます)

お支払いは代金引替、郵便振替等で

有限
会社 **後藤商店**

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田413-3

☎0238-37-5378(代)

FAX 0238-37-6345

http://www.marsho.jp

E-mail: info@marsho.jp

No.	規 格	価 格
A	おみ漬(8袋)	3,240円
B	青菜漬(8袋)	3,240円
C	おみ漬・青菜漬詰合(8袋)	3,240円
D	赤かぶ甘酢漬(8袋)	3,672円
E	おみ漬(3袋)青菜漬(3袋)赤かぶ(2袋)	3,348円

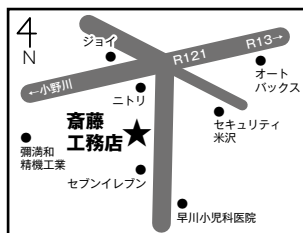
後藤喜彦 東京興譲館寮 平成12年卒

他にミックスにも応じます。
米沢では米沢駅2Fアスクでも販売しています。

日本の風土にあった家づくり 21世紀の長寿命健康木造住宅

有限 齋藤工務店

- ☆通気断熱WB工法(呼吸する家)
- ☆長期優良住宅(米沢市認定第1号)
- ☆新築・リフォーム エコポイント対応
- ☆アパート、貸家、土地建物売買仲介



建設業知事許可23第500129号
(公社)宅地建物取引業协会会员
山形県知事許可(9)第1291号

〒992-0057 米沢市成島町1丁目7-17

TEL 0238-23-4905

FAX 0238-21-3159

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト

大泉逸郎「婿　　ど　　の」(テイチク) 河北町
 浜　博也「盛り場たずねびと」(テイチク) 飯豊町
 奥山えいじ「陸　羽　西　線」(テイチク) 尾花沢
 (カラオケで唄ってください)

代表取締役
プロデューサー 木村尚武

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録
宮城県知事 第H7-001号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号
TEL (022) 263-1361
FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



とろけるお肉が自慢の
極とろカレー



伝統の味を守り続けて
百六十余年



赤ワインたっぷりの
ビーフシチュー

鯉料理 &
スローフーズ

鯉の宮坂

米沢牛惣菜
地産創食

宮香本舗

みやこう
ほんぼ

株式会社 タスクフーズ
山形県米沢市相生町7-130

☎0120-25-7188
URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元で愛されて45年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

営業品目

- ・機械警備
- ・常駐警備
- ・交通誘導業務
- ・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
- ・施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
- ・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

日本橋 小舟町

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
培われた江戸前の技が活きる
お寿司・お刺身と共に四季折
々の御料理がご堪能いただけ
ます。お座敷はさまざまな個
室、カウンター、テーブル席
もご用意いたしております。
大小ご宴会から御家族、ご友
人との御会食まで幅広くご利
用頂けます。

社長 深澤 和子
(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2
<http://r.gnavi.co.jp/funazushi>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30
PM 4:30~PM10:00
(PM9:30オーダーストップ)
(土曜日の夜は要予約)

【定休日】 日曜日、祝日、第四土曜日

※ 座敷は全席、椅子席になります



日本ブックサービスはBOOKの倉庫です 3つの分野をベースにお客様のご要望にお応えします



保守管理業務

コンピューターによる商品在庫管理

入出庫発送業務

商品の納品、引き取り、国内外発送
宅急便・メール便でのダイレクト発送

改装・返品業務

文庫から上製本までの改装をスピーデ
ィーに対応

株式会社 日本ブックサービス

〔本社〕 〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田3-7-2
TEL. 04-2944-9951(代) FAX. 04-2944-9960
URL <http://nihonbook.com>



塩引寿し

米沢牛串焼き

玉こんにゃく

米沢ラーメン 全国唯一!!

うこきソフト

その他いろいろ

上杉城史苑すぐ隣り!

べに花庵

住所/〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22

電話番号/0238-23-6310

営業時間/9:00から17:00まで 定休日 / なし

家族を **愛** する
ママを応援する家。



住宅の新築

♥ ママ応援住宅

♥ 子育て世代応援住宅

建替え、二世帯住宅など



リフォーム

水まわり工事など

小さな修繕から、増改築、

全面リフォーム(新築二世)まで

不動産

土地の売買や

中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ 本多建設

検索



株式
会社

本多建設 ☎0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号: 山形県知事許可(特-25)第500142号 / 一級建築士事務所登録: 山形県知事登録(1604)第1715号 / 宅地建物取引業者免許番号: 山形県知事(10)第1234号

ご宴会やパーティ、会議やご会合に。ホテルモントビュー米沢では、
多くの人が集まる場をリーズナブルにご提供致しております。
お気軽にお問い合わせくださいませ。



HM ホテルモントビュー米沢
HOTEL MONTVIEW YONEZAWA

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1 TEL0238-22-6655



いつも一緒に あなたのそばに



米沢信用金庫

理事長 加藤 秀明
会長 種村 信次

〒992-0031 山形県米沢市大町5丁目4番27号
TEL (0238) 22-3435 (代)



グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



ご/き/げん

食彩倶楽部

米沢牛をはじめ、
物産品が満載!!

- ご希望の方に上杉城史苑商品
カタログをお送りいたします。

<http://uesugijoshien.jp>



上杉城史苑

(株)上杉コーポレーション

〒992-0052 米沢市丸の内一丁目1-22

TEL.0238-23-0700 FAX.0238-21-8252



株式会社

羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22

T E L (0238) 23-0467(代)

F A X (0238) 23-0480

お客様の商売繁盛を 応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd



株式会社

川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2
TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

川島印刷

←検索

ホームページに事例多数掲載中！

<http://kawa-prt.com/>



米沢のこと・印刷のこと
米沢グルメ情報など
ブログはコチラ
『川島夢便り』



企業を育て、地域を伸ばす



米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

My Style Wedding



☎でのお問い合わせは ☎ **0238-22-1238**

www.grand-hokuyo.com

グランドホクヨウ

山形県米沢市金池2丁目3-7/TEL:(0238)22-1238/FAX:(0238)21-1067

日本全国、ホルムアルデヒド退治の虎の巻。

タイガーハイクリンボードはシックハウス症候群の主な原因物質のホルムアルデヒドを吸収・分解するので、日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

High-Clean Board

タイガーハイクリンボード

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(財)日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物汚染低減建材」として認定されました。(認定番号「BCJ-AIB-T-7」)

（特許申請中）



YOSHINO
安全で快適な住空間を創る **吉野石膏**

【本社】東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>

代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年8月2日復刊
第67号
平成29年12月15日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 大 滝 則 忠
編集 文化広報部長 手 塚 宮 雄
東京都調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302
印刷 (株)羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467